

甲賀市市政に関する意識調査報告書  
【人権・福祉領域】

令和6年3月  
甲賀市

## 目次

I 調査の実施概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 調査票の配布・回収の状況	1
4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項	1
5 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて	3
II 回答者の属性	4
III 調査結果	9
1 市民共生について	9
(1) 人権が尊重されるまちになっていると感じられるか	9
(2) 3年以内で人権に関する研修会等に参加した経験	11
(3) 人権が尊重されるまちの実現に向けて	13
2 男女共同参画・ワーク・ライフ・バランス・女性活躍について	15
(1) 男女共同参画に係る「言葉」や「内容」の認知状況	15
(2) 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について	36
(3) 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について	38
(4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について	40
(5) 女性の就労（起業含む）について	44
(6) 女性が就労し続けたり、再就職するうえで必要なこと	46
3 ドメスティック・バイオレンス（DV）について	48
(1) 「ドメスティック・バイオレンス（DV）」や「デートDV」の認知状況	48
(2) DVやデートDVの経験や相談等の経験の有無	52
(3) 身体的・心理的暴力と思える行為について	58
(4) DVに関する相談窓口の認知状況	60
4 近所づきあいやボランティアについて	62
(1) 近所で最も親しくしている人との日頃のつきあい	62
(2) 日頃、生活の困りごとについて相談する相手	64
(3) ボランティア活動について	66
(4) ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動	69
5 成年後見制度について	71
6 再犯防止について	75
7 地域の課題について	77
(1) 住んでいる地域で、日頃から課題に感じていること	77
(2) 甲賀市が重点を置くべき福祉施策	88

# I 調査の実施概要

## 1 調査の目的

市民の人権や地域福祉、児童福祉、高齢福祉、障がい福祉などの福祉領域についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に調査を実施した。

## 2 調査の設計

- 調査地域:甲賀市全域
- 調査対象:市内在住の18歳以上の男女
- 調査標本数:3,000人
- 調査抽出法:層化二段無作為抽出法(抽出台帳:住民基本台帳、旧町5地域別)
- 調査方法:郵送配布・郵送回収、またはインターネットによる回答
- 調査時期:令和5年10月6日～10月20日

## 3 調査票の配布・回収の状況

- 配布数:3,000件
  - 回収件数(率):1,263件(42.1%)
  - 有効回答数(率):1,261件(42.0%)
- うち郵送回収:901件(71.5%)、インターネット回答360件(28.5%)

## 4 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

### ① 標本抽出計画と集計母数(集計対象数)

今回の調査では、アンケート調査配布数(標本数)を市内5地域と母集団構成比に応じて配分した。地域別の回収率は土山地域が46.2%で最も多く、以下、甲賀地域が44.5%、甲南地域が43.8%、信楽地域が41.9%、水口地域が38.0%と続いている。甲賀地域以外では前回調査よりも回収率が高くなっている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答の地域区分は母集団構成比と近い。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率 (令和2年)
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
水口地域	34,326	45.5%	1,341	44.7%	510	40.4%	38.0%	36.6%
土山地域	6,145	8.2%	253	8.4%	117	9.3%	46.2%	46.1%
甲賀地域	8,162	10.8%	330	11.0%	147	11.7%	44.5%	50.1%
甲南地域	17,333	23.0%	682	22.7%	299	23.7%	43.8%	42.0%
信楽地域	9,418	12.5%	394	13.1%	165	13.1%	41.9%	38.6%
不明・無回答	-	-	-	-	23	1.8%	-	-
合計	75,384	100%	3,000	100%	1,261	100%	42.0%	40.7%

年代別の回収率は60歳代が59.3%で最も多く、以下、70歳以上が52.9%、50歳代が41.5%、40歳代が34.0%、30歳代が28.9%、20歳代以下が20.4%と続いている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答は年齢層が高い構成であることがわかる。

	標本抽出計画				有効回答			前回収率 (令和2年)
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
20歳代以下	10,911	14.5%	436	14.5%	89	7.1%	20.4%	24.9%
30歳代	9,462	12.6%	394	13.1%	114	9.0%	28.9%	29.9%
40歳代	11,814	15.7%	471	15.7%	160	12.7%	34.0%	30.8%
50歳代	11,825	15.7%	467	15.6%	194	15.4%	41.5%	45.1%
60歳代	11,246	14.9%	450	15.0%	267	21.2%	59.3%	51.7%
70歳以上	20,126	26.7%	782	26.1%	414	32.8%	52.9%	51.6%
不明・無回答	-	-	-	-	23	1.8%	-	-
合計	75,384	100%	3,000	100%	1,261	100%	42.0%	40.7%

## ② 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果から甲賀市の18歳以上の人口(母集団)の意識や要望等を推定することができる。ただし、今回の結果が抽出調査のため、数字の誤差を考慮する必要がある。そこで、どの程度の誤差があるのかを以下の数式で求めた。

世論調査では、信頼度95%(同じ調査を対象を変えて行った場合に、100回中95回は同様の結果が得られると考えてもよい)の水準を求めることが一般的とされており、これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出した。その結果、標本誤差=2.74%(小数第3位四捨五入)となり、母集団の回答は今回のアンケート調査結果の±2.74%の区間に95%の確率で存在すると言える。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε：標本誤差

±1.96：信頼度95%の時の係数

N：母集団数(調査時点の甲賀市の18歳以上人口：75,384) n：標本数(有効回答数：1,261)

P：標本測定値0.5(50%(0.5)のときに最大となるため0.5で計算)

## 5 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

- ・ 回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比(%)で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示している。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- ・ 図表中の「N」は集計対象者総数または、回答者限定設問の限定条件への該当者数を示している。

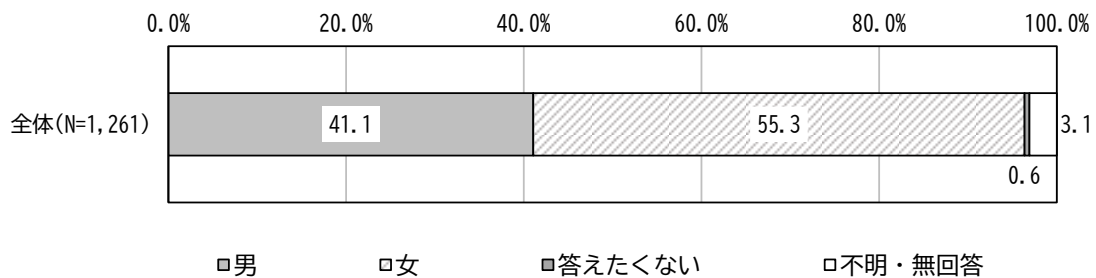
## II 回答者の属性

### ① 性別

「問 1」 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

性別は、「男」が41.1%、「女」が55.3%、「答えたくない」が0.6%となっている。

■性別 (単数回答)

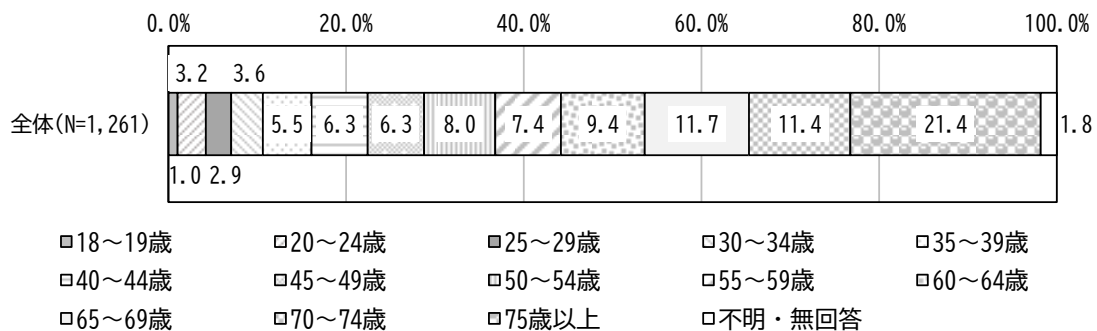


### ② 年齢

「問 2」 あなたの年齢は、10月1日現在でいくつですか。(○は1つ)

年齢は、「75歳以上」が21.4%で最も多くなっており、以下、「65～69歳」が11.7%、「70～74歳」が11.4%と続いている。

■年齢 (単数回答)

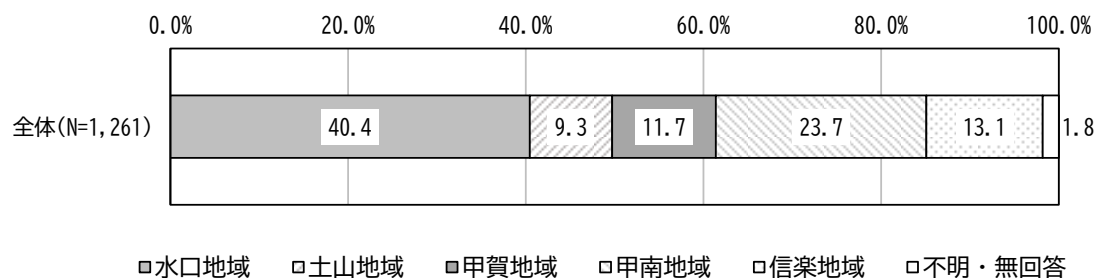


### ③ 居住地域

「問 3」 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つ)

居住地域は、「水口地域」が 40.4%で最も多くなっており、以下、「甲南地域」が 23.7%、「信楽地域」が 13.1%、「甲賀地域」が 11.7%、「土山地域」が 9.3%と続いている。

■居住地域（単数回答）



### ④ 甲賀市の居住歴

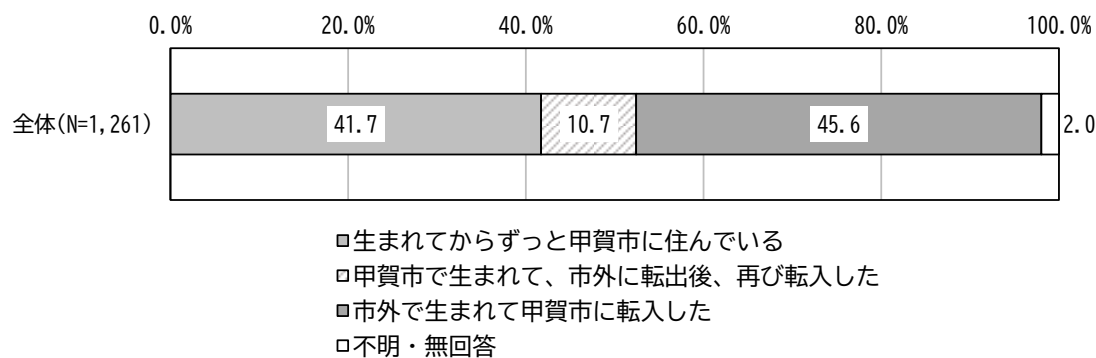
「問 4」 あなたは、いつから甲賀市にお住まいですか。(○は1つ)

「問 4-1」 問 4 で「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」または「市外で生まれて甲賀市に転入した」と回答された方におたずねします。

転入後、何年ぐらい甲賀市にお住まいですか。(○は1つ)

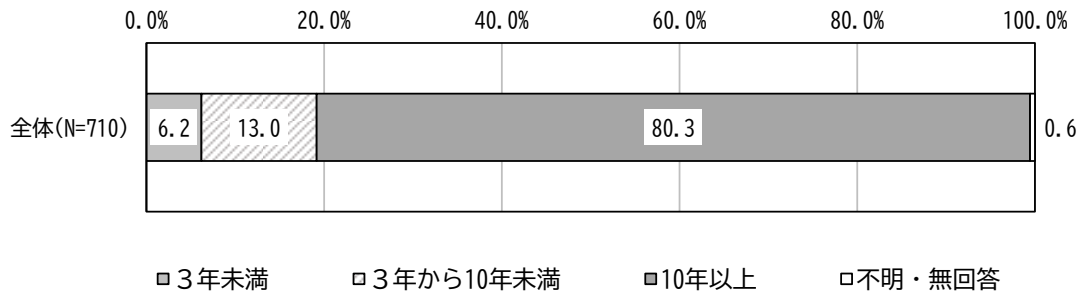
甲賀市の居住歴は、「市外で生まれて甲賀市に転入した」が 45.6%で最も多くなっており、以下、「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」が 41.7%、「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」が 10.7%と続いている。

■甲賀市の居住歴（単数回答）



転入後の居住年数は、「10年以上」が80.3%で最も多くなっており、以下、「3年～10年未満」が13.0%、「3年未満」が6.2%と続いている。

■転入後の居住年数（単数回答）

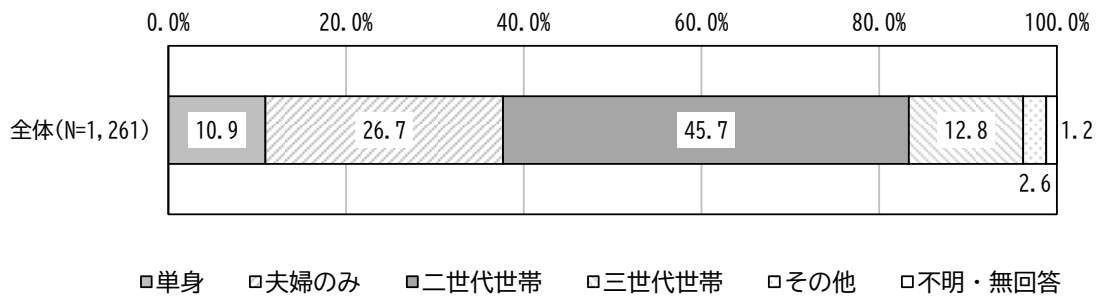


⑤ 世帯(同居)構成

<<問 5>> あなたの世帯(同居)はどのような構成ですか。(○は1つ)  
 <問 5-1> 問5で「二世帯世帯(親・子)」「三世帯世帯(親・子・孫)」「その他」のいずれかに回答された方におたずねします。  
 あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。  
 (○はいくつでも)※別居されているお子様・お孫様は含みません。

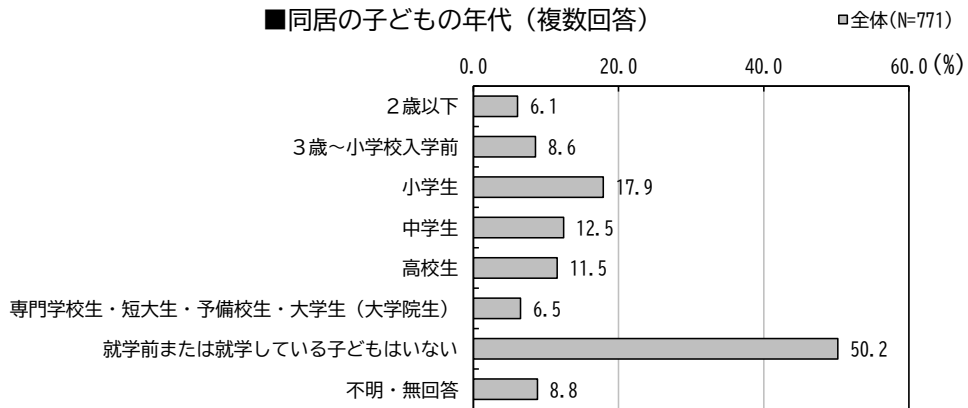
世帯(同居)構成は、「二世帯世帯(親・子)」が45.7%で最も多くなっており、以下、「夫婦のみ」が26.7%、「三世帯世帯(親・子・孫)」が12.8%と続いている。

■世帯(同居)構成（単数回答）





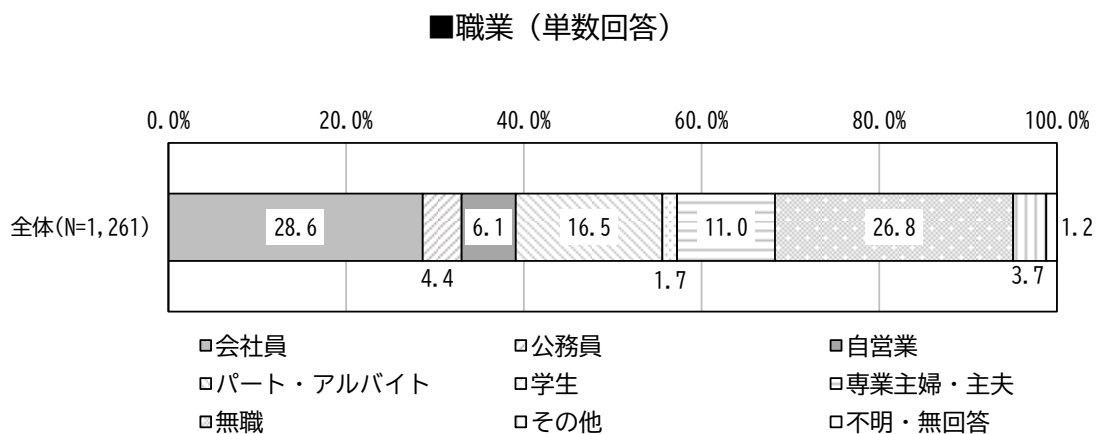
同居の子どもの年代は、「就学前または就学している子どもはいない」が 50.2%で最も多くなっており、以下、「小学生」が 17.9%、「中学生」が 12.5%と続いている。



## ⑥ 職業

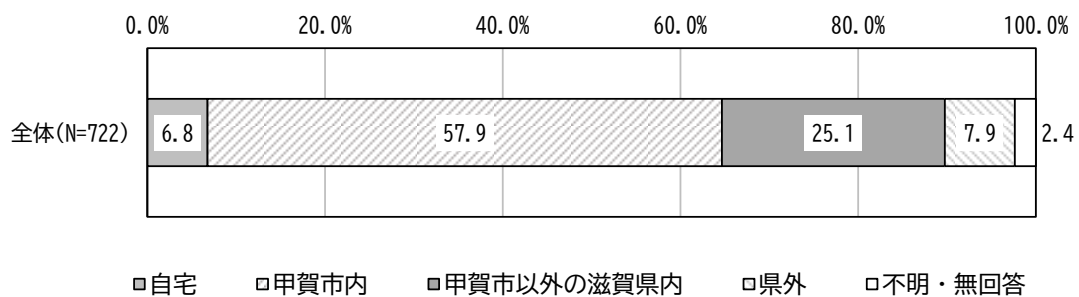
<問 6> あなたの職業等は何ですか。(○は1つ)  
 <問6-1> 問6で「会社員」「公務員」「自営業」「パート・アルバイト」「学生」のいずれかに回答された方におたずねします。  
 あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つ)

職業は、「会社員」が 28.6%で最も多くなっており、以下、「無職」が 26.8%、「パート・アルバイト」が 16.5%と続いている。



勤務地(通学地)は、「甲賀市内」が 57.9%で最も多くなっており、以下、「甲賀市以外の滋賀県内」が 25.1%、「県外」が 7.9%、「自宅」が 6.8%と続いている。

■勤務地・通学地（単数回答）



### Ⅲ 調査結果

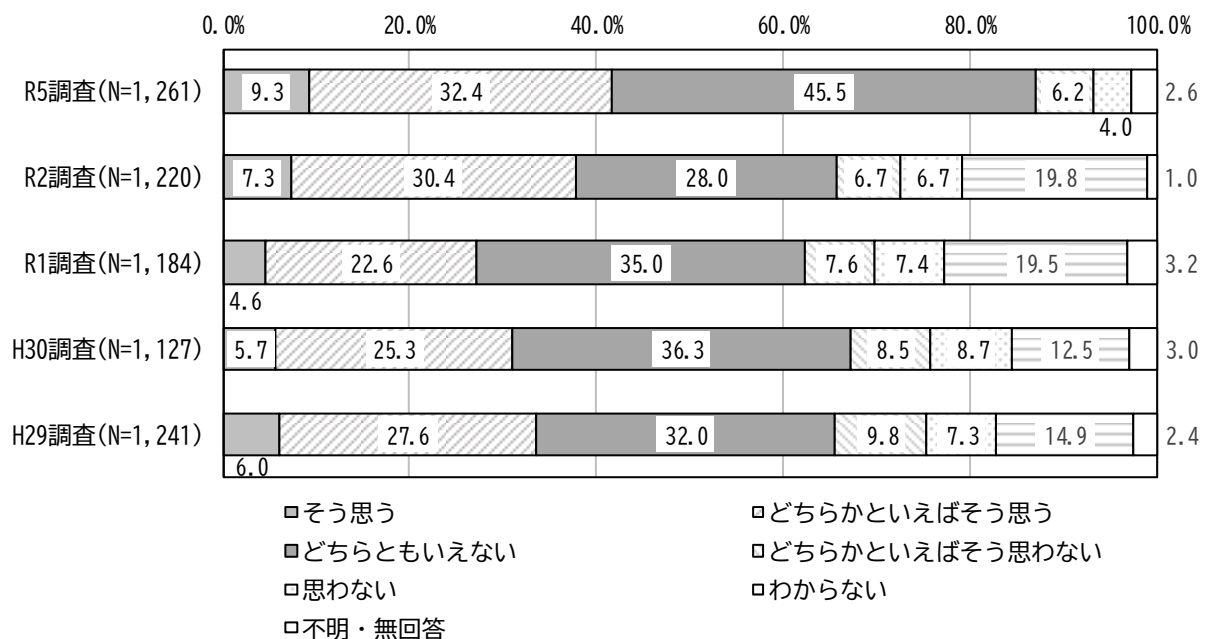
#### 1 市民共生について

##### (1) 人権が尊重されるまちになっていると感じられるか

「問 7」 あなたは、甲賀市が「人権が尊重されるまちになっている」と感じますか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、令和 2 年度調査から「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』の割合が増加の傾向にある。

■人権が尊重されるまちになっていると感じられるか（単数回答）

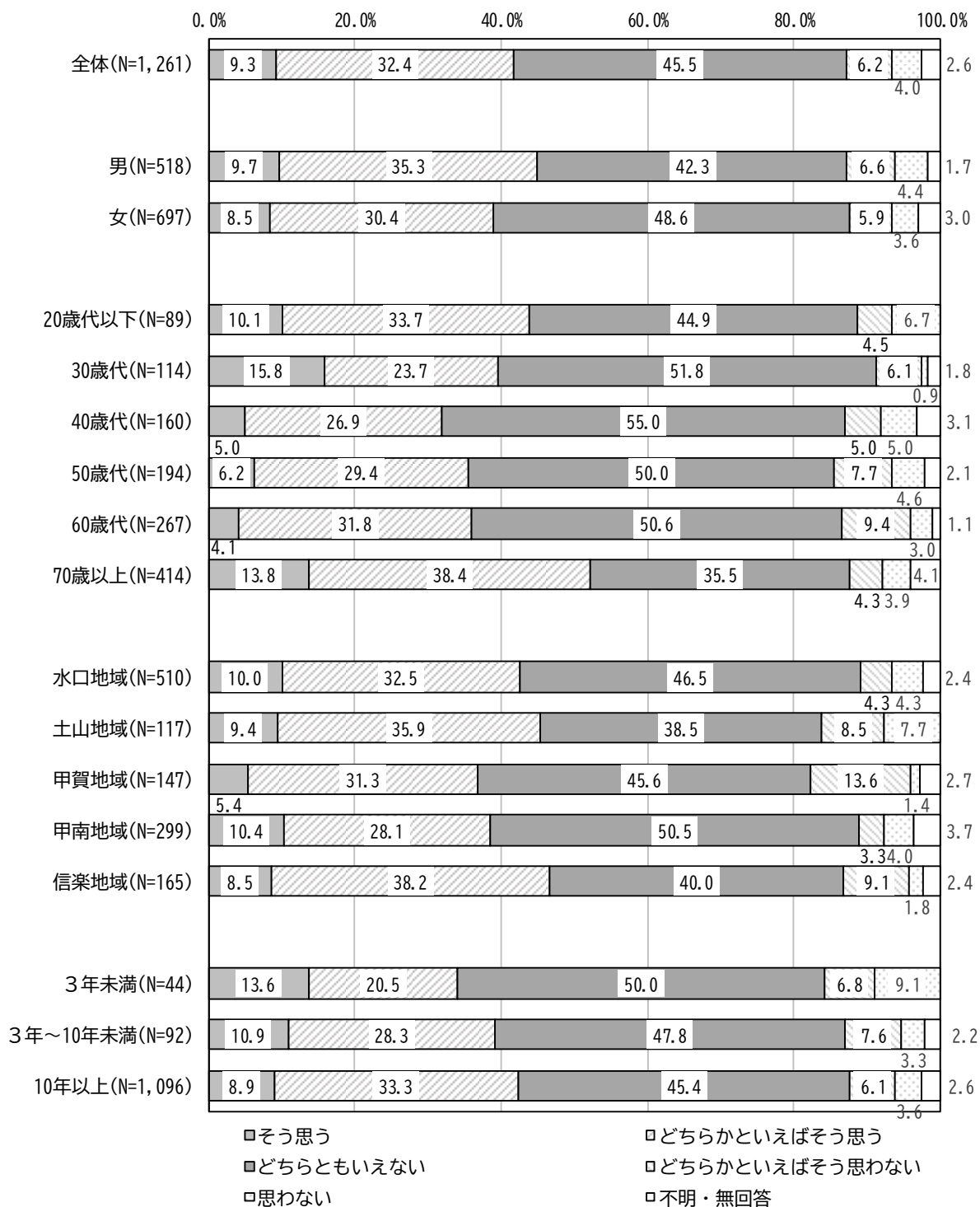


※R5調査では「わからない」の選択肢がないため、R2調査以前との比較には注意が必要です。

- 全体でみると、「どちらともいえない」が45.5%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえばそう思う」が32.4%、「そう思う」が9.3%と続いている。『思う』の割合は41.7%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「どちらともいえない」が最も多くなっている。『思う』の割合をみると、男性は45.0%、女性は38.9%となっている。
- 年代別にみると、70歳以上は「どちらかといえばそう思う」が、他の年代では「どちらともいえない」が最も多くなっている。『思う』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で52.2%、以下、20歳代以下で43.8%、30歳代で39.5%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『思う』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で46.7%、以下、土山地域で45.3%、水口地域で42.5%、甲南地域で38.5%、甲賀地域で36.7%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「どちらともいえない」が最も多くなっている。『思う』の割合をみると、最も多いのは10年以上で 42.2%、以下、3 年～10 年未満で 39.2%、3年未満で 34.1%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■人権が尊重されるまちになっていると感じられるか（単数回答）

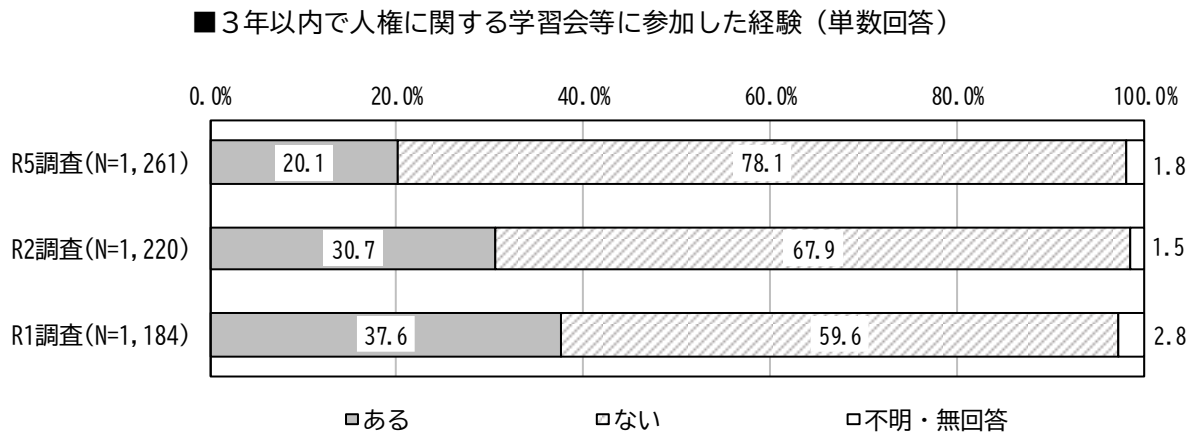


※「10年以上」は、「転入後の居住年数10年以上」と「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」の合計。以下の図表すべてにおいて同様。

(2) 3年以内で人権に関する研修会等に参加した経験

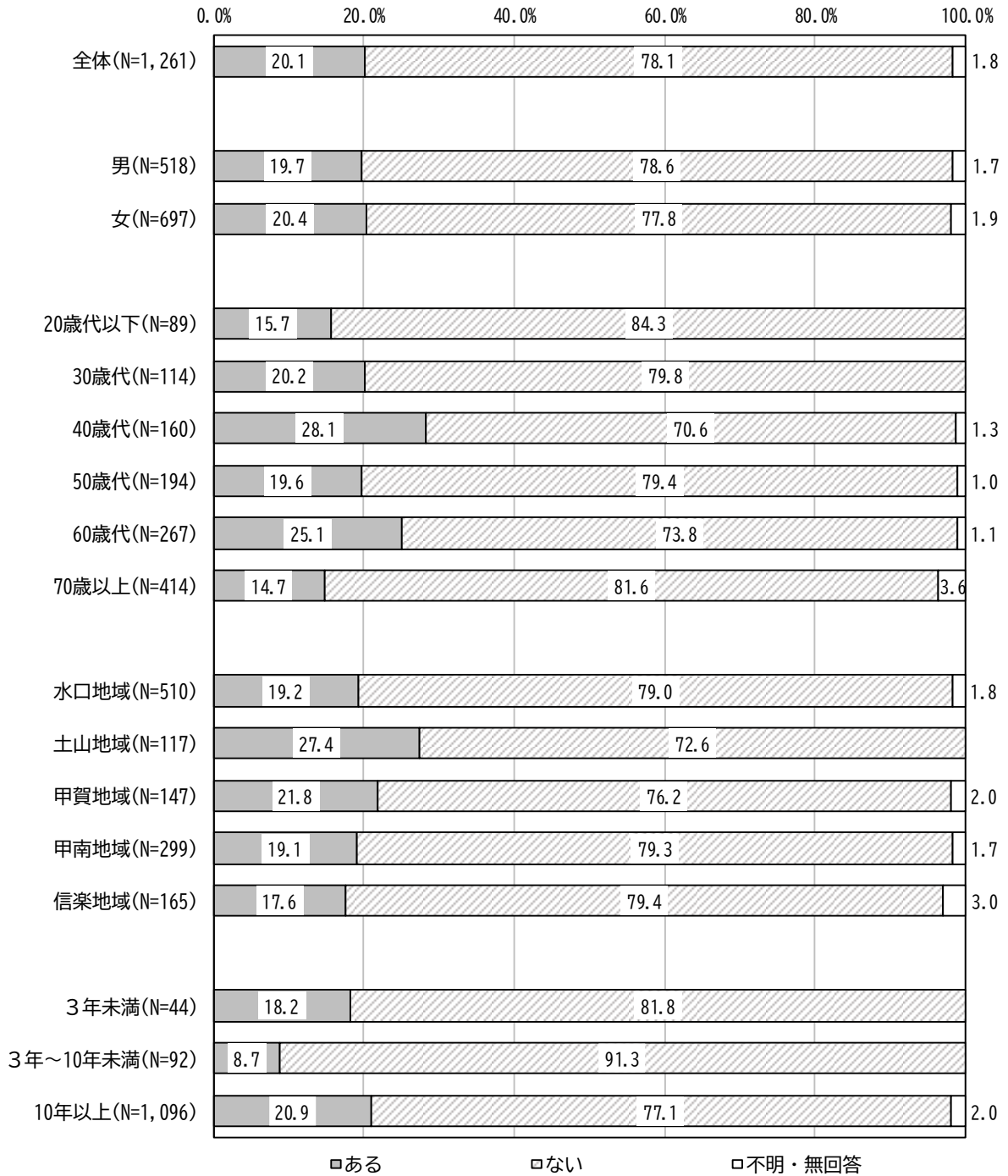
◀問 8▶ あなたは、ここ3年以内で人権に関する学習会に参加したことがありますか。Web 配信等の視聴も参加に含みます。(○は1つ)

令和元年度調査からの推移をみると、「ある」の割合が減少している。



- 全体でみると、「ある」が20.1%、「ない」が78.1%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、男性は19.7%、女性は20.4%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは40歳代で28.1%、以下、60歳代で25.1%、30歳代で20.2%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは土山地域で27.4%、以下、甲賀地域で21.8%、水口地域で19.2%、甲南地域で19.1%、信楽地域で17.6%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは10年以上で20.9%、以下、3年未満で18.2%、3年～10年未満で8.7%と続いている。

■ 3年以内で人権に関する学習会に参加した経験（単数回答）



(3) 人権が尊重されるまちの実現に向けて

◀問 9▶ 人権の尊重されるまちの実現に向けて、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)

令和元年度調査からの推移をみると、「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」の割合が増加している。

■人権が尊重されるまちの実現に向けて（単数回答）

	実現に向けて、自分の できる	特に努力したいとは 考えていないが、差別 しないようにしたい	自分ではどうにも かかせないの で、	できるだけ避けて 通りた い	差別はないので、 人権問題は 存在しない	特に考えていない	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	21.2	57.6	7.5	0.8	1.7	9.3	-	1.9
R2調査(N=1,220)	19.4	57.0	6.8	0.6	2.0	11.9	0.8	1.5
R1調査(N=1,184)	20.9	50.9	7.3	0.8	4.3	10.1	1.4	4.2

※R5調査では「その他」の項目がないため、R2調査以前との比較には注意が必要です。

●全体で見ると、「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が 57.6%で最も多くなっており、以下、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」が 21.2%、「特に考えていない」が 9.3%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。次いで、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」が多くなっている。

●年代別にみると、すべての年代において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。次いで、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」が多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。次いで、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」が多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。次いで、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」が多くなっている(3年未満は「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」と同率)。

■人権が尊重されるまちの実現に向けて（単数回答）

	限実 りの 現に の努 力を して たい	たな いに が努 力し たい と考 えて しい	で自 分 な り は ど う に ま か せ る の	で 可 能 な 限 り に 通 り た い	存 在 し な い の で 、 人 権 問 題 は	特 に 考 え て い な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(N=1,261)	21.2	57.6	7.5	0.8	1.7	9.3	1.9
男(N=518)	19.3	57.7	8.5	0.4	1.5	10.8	1.7
女(N=697)	22.4	58.0	6.9	1.1	1.7	8.3	1.6
20歳代以下(N=89)	25.8	53.9	3.4	2.2	0.0	14.6	0.0
30歳代(N=114)	21.9	57.9	7.9	2.6	0.9	8.8	0.0
40歳代(N=160)	27.5	55.6	5.0	0.6	0.6	8.8	1.9
50歳代(N=194)	21.6	55.2	8.8	0.0	1.0	11.9	1.5
60歳代(N=267)	18.4	67.8	4.9	0.0	0.7	7.1	1.1
70歳以上(N=414)	19.1	53.9	10.6	1.0	3.9	8.7	2.9
水口地域(N=510)	20.2	60.6	7.6	0.8	1.0	8.4	1.4
土山地域(N=117)	22.2	53.8	6.8	1.7	0.9	14.5	0.0
甲賀地域(N=147)	21.1	57.1	8.8	0.7	2.0	8.8	1.4
甲南地域(N=299)	22.4	56.2	7.4	1.0	2.0	8.4	2.7
信楽地域(N=165)	21.2	54.5	7.3	0.0	4.2	10.3	2.4
3年未満(N=44)	40.9	40.9	4.5	2.3	0.0	11.4	0.0
3年～10年未満(N=92)	26.1	53.3	3.3	1.1	1.1	13.0	2.2
10年以上(N=1,096)	19.9	58.9	8.1	0.6	1.9	8.9	1.7



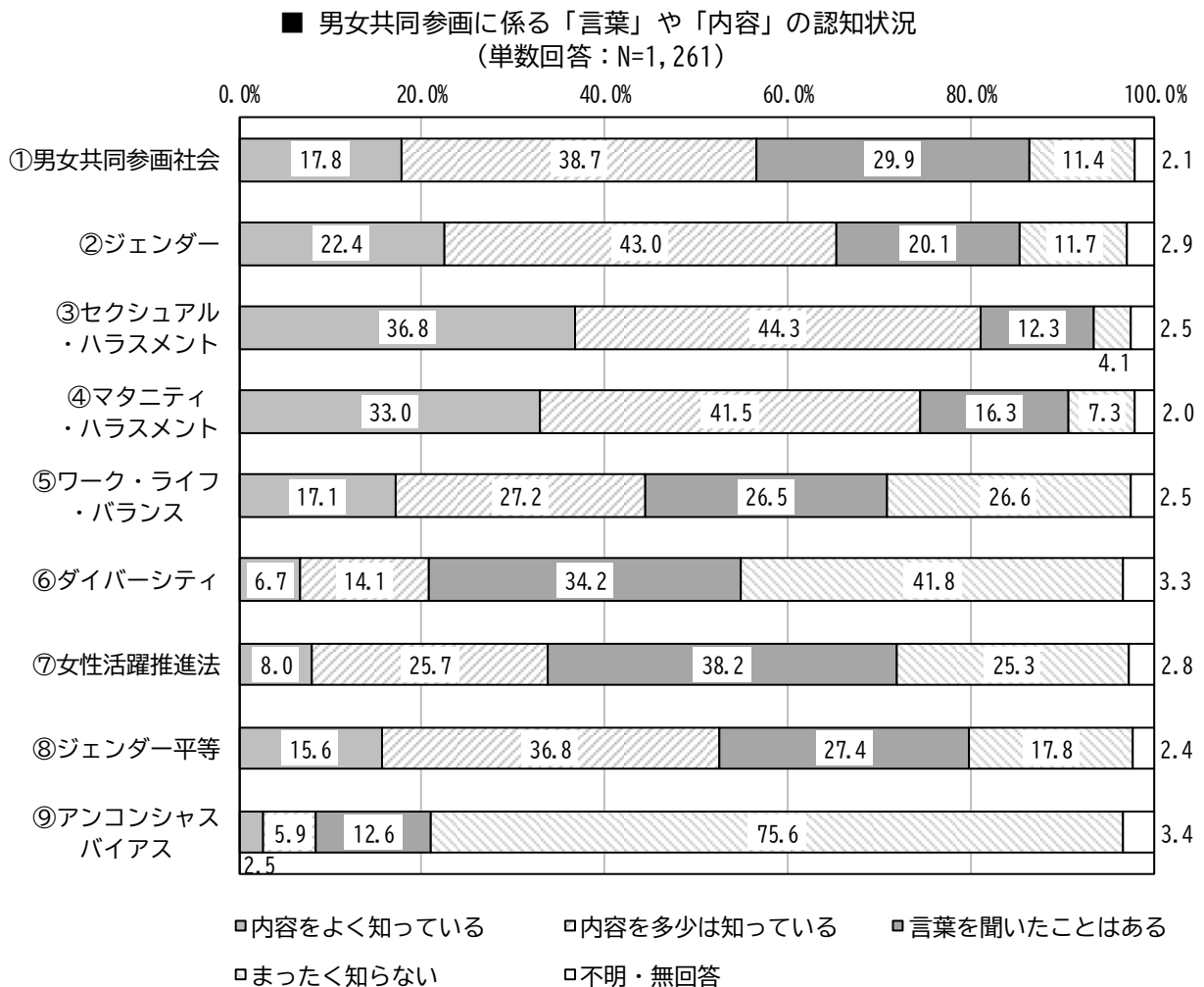
## 2 男女共同参画・ワーク・ライフ・バランス・女性活躍について

### (1) 男女共同参画に係る「言葉」や「内容」の認知状況

「問 10」 あなたは、次にあげる「言葉」や「内容」をご存じですか。(それぞれ〇は1つ)

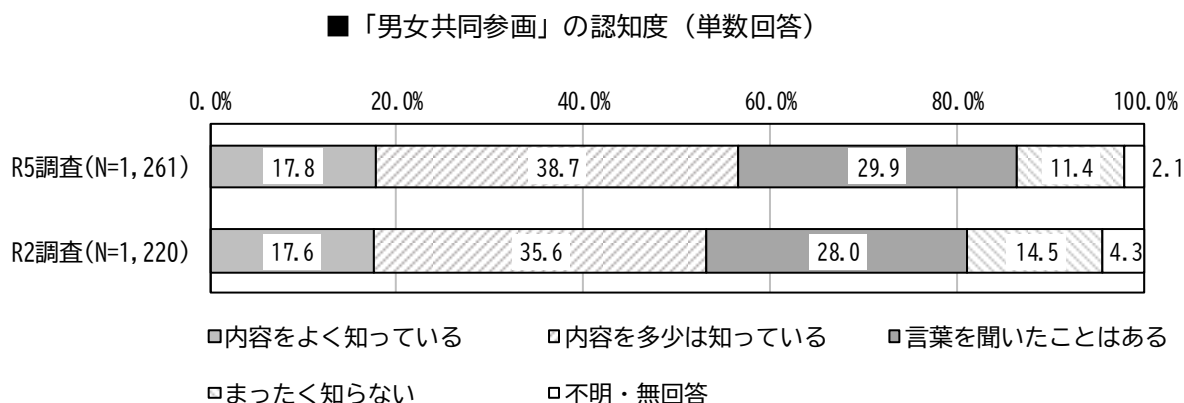
「内容をよく知っている」と「内容を多少知っている」を合わせた『知っている』の割合をみると、最も多いのは「セクシュアル・ハラスメント」で 81.1%、以下、「マタニティ・ハラスメント」が 74.5%、「ジェンダー」が 65.4%と続いている。

「まったく知らない」についてみると、「アンコンシャスバイアス」が 75.6%で最も多く、以下、「ダイバーシティ」が 41.8%、「ワーク・ライフ・バランス」が 26.6%と続いている。



## ① 男女共同参画社会

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「内容を多少は知っている」が38.7%で最も多くなっており、以下、「言葉を聞いたことはある」が29.9%、「内容をよく知っている」が17.8%と続いている。『知っている』の割合は56.5%となっている。

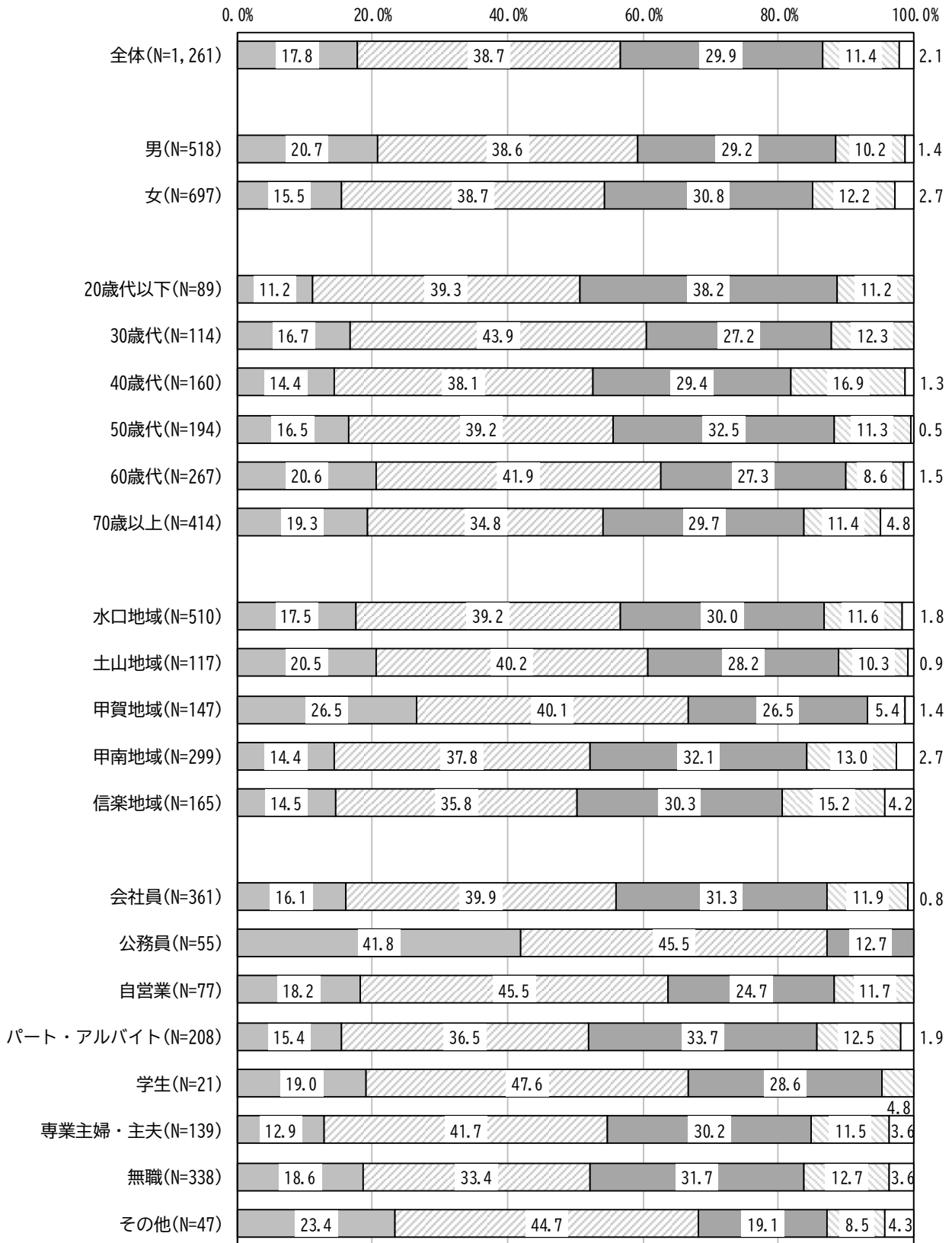
●性別にみると、男性、女性ともに「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は59.3%、女性は54.2%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは60歳代で62.5%、以下、30歳代で60.6%、50歳代で55.7%と続き、20歳代以下が50.5%で最も少なくなっている。

●居住地別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で66.6%、以下、土山地域で60.7%、水口地域で56.7%、甲南地域で52.2%、信楽地域で50.3%と続いている。

●職業別にみると、すべての職業において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で87.3%、以下、その他で68.1%、学生で66.6%と続いている。

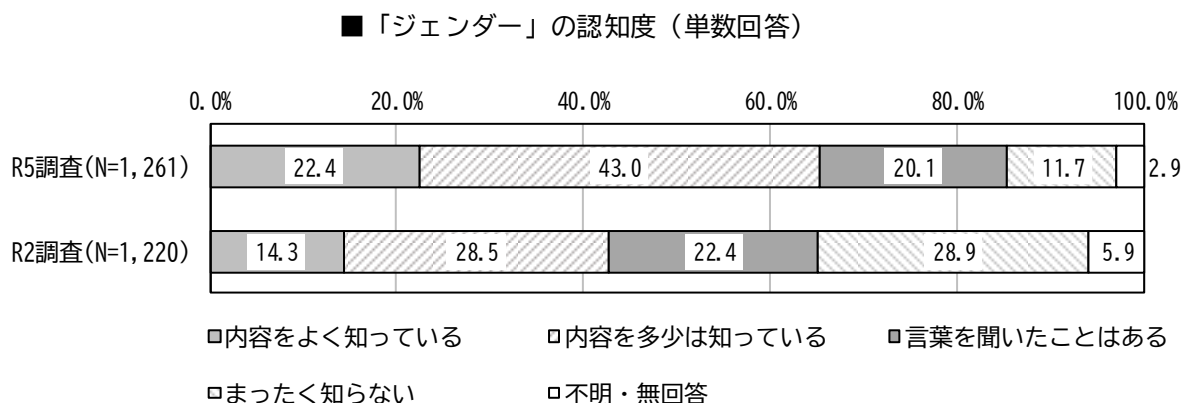
■「男女共同参画」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている   
内容を多少は知っている   
言葉を聞いたことはある  
まったく知らない   
不明・無回答

## ② ジェンダー

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「内容を多少は知っている」が 43.0%で最も多くなっており、以下、「内容をよく知っている」が 22.4%、「言葉を聞いたことはある」が 20.1%と続いている。『知っている』の割合は 65.4%となっている。

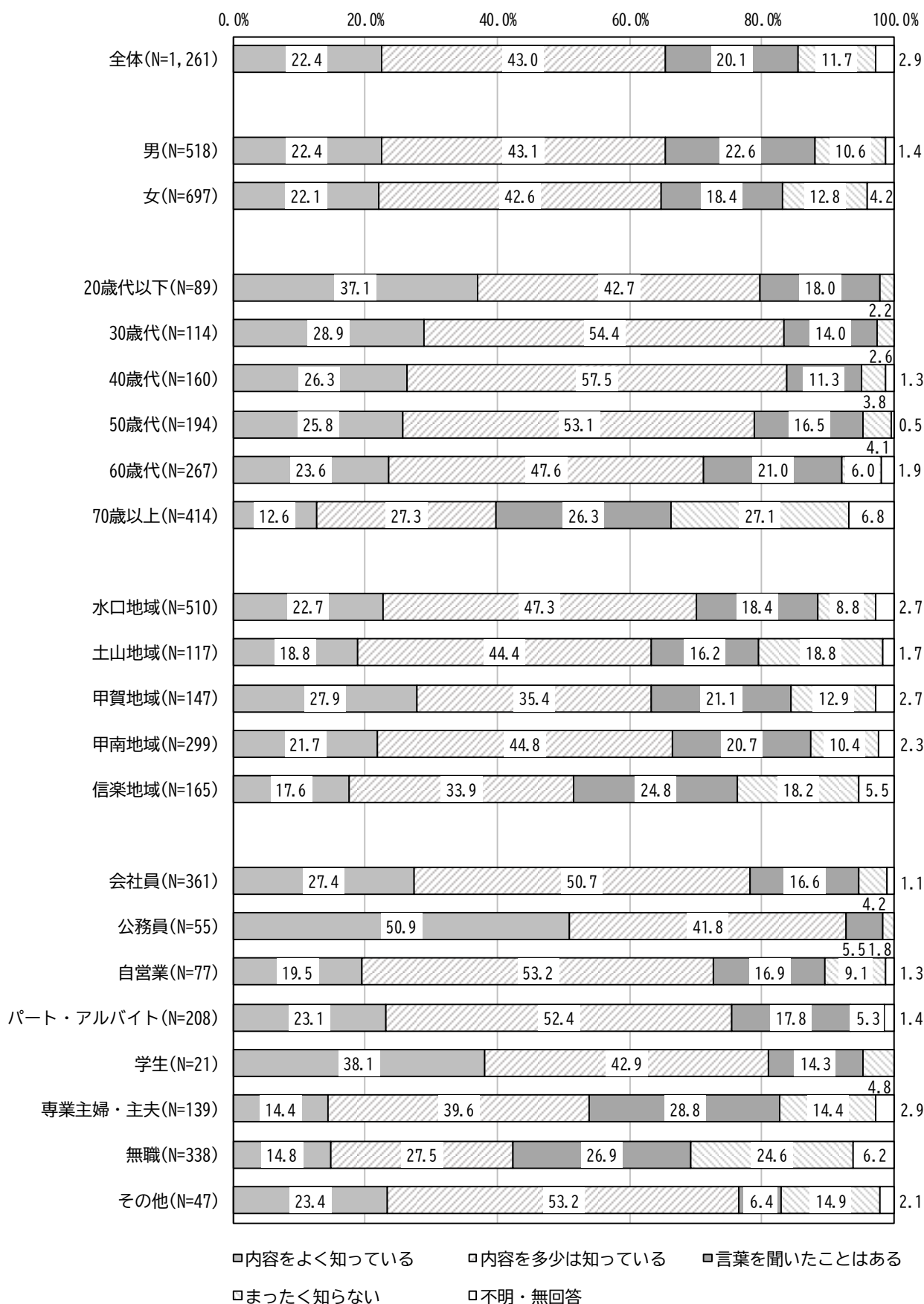
●性別にみると、男性、女性ともに「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 65.5%、女性は 64.7%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 83.8%、以下、30 歳代で 83.3%、20 歳代以下で 79.8%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 70.0%、以下、甲南地域で 66.5%、甲賀地域で 63.3%、土山地域で 63.2%、信楽地域で 51.5%と続いている。

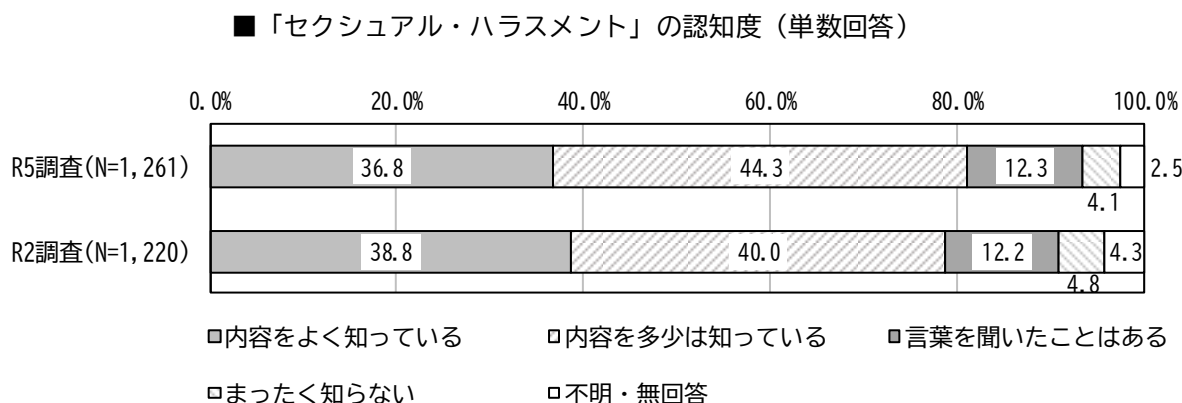
●職業別にみると、公務員は「内容をよく知っている」が、他の職業では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 92.7%、以下、学生で 81.0%、会社員で 78.1%と続いている。

■「ジェンダー」の認知度（単数回答）



### ③ セクシュアル・ハラスメント

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「内容を多少は知っている」が 44.3%で最も多くなっており、以下、「内容をよく知っている」が 36.8%、「言葉を聞いたことはある」が 12.3%と続いている。『知っている』の割合は 81.1%となっている。

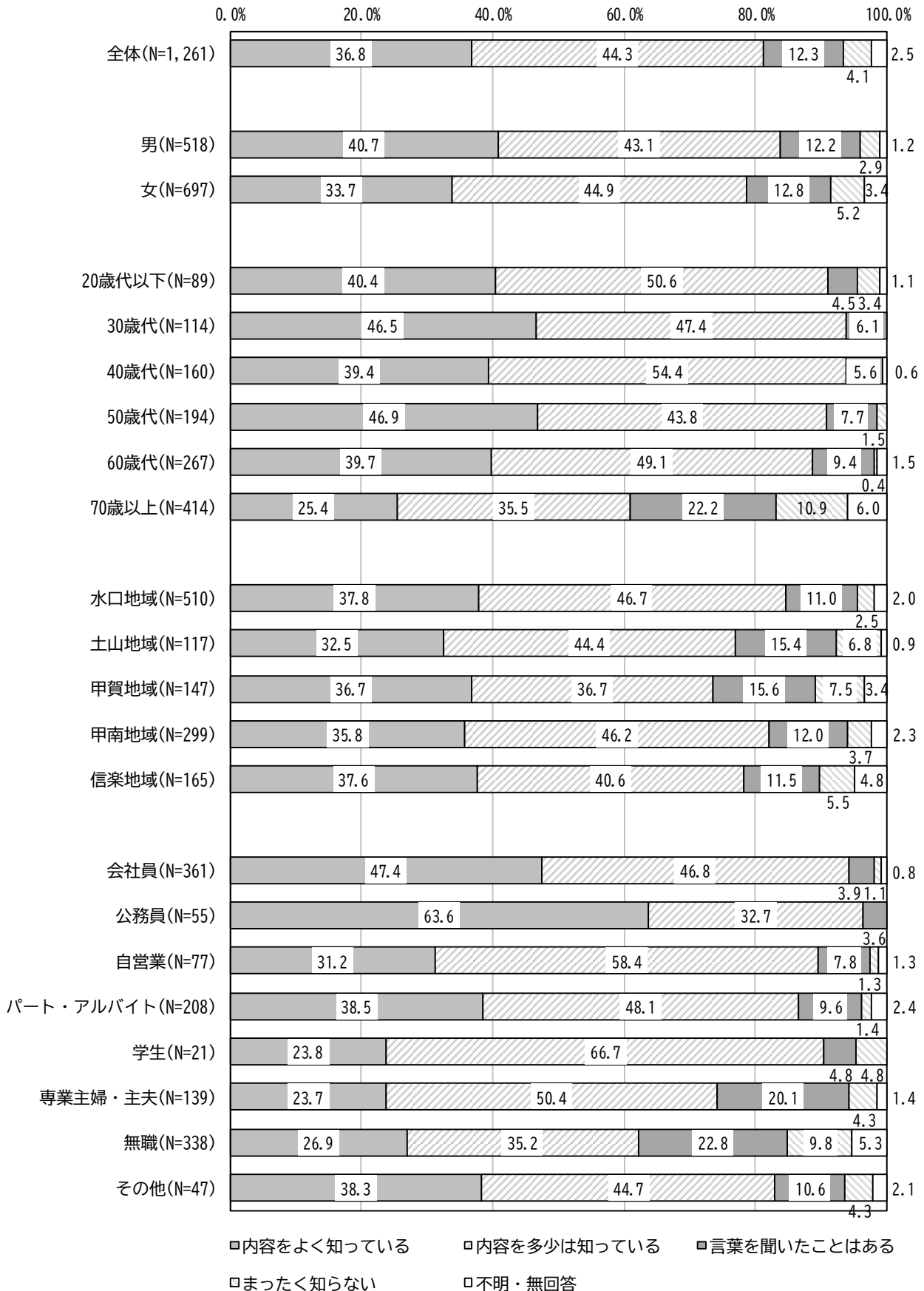
●性別にみると、男性、女性ともに「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 83.8%、女性は 78.6%となっている。

●年代別にみると、50 歳代は「内容をよく知っている」が、他の年代では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 93.9%、以下、40 歳代で 93.8%、20 歳代以下で 91.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている（甲賀地域は「内容をよく知っている」と同率）。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 84.5%、以下、甲南地域で 82.0%、信楽地域で 78.2%、土山地域で 76.9%、甲賀地域で 73.4%と続いている。

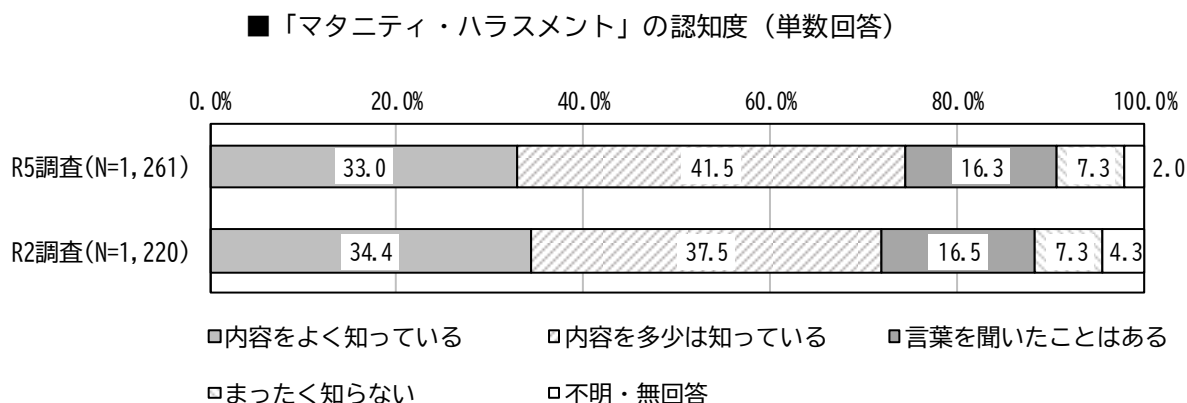
●職業別にみると、会社員、公務員は「内容をよく知っている」が、他の職業では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 96.3%、以下、会社員で 94.2%、学生で 90.5%と続いている。

■「セクシュアル・ハラスメント」の認知度（単数回答）



#### ④ マタニティ・ハラスメント

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「内容を多少は知っている」が 41.5%で最も多くなっており、以下、「内容をよく知っている」が 33.0%、「言葉を聞いたことはある」が 16.3%と続いている。『知っている』の割合は 74.5%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 73.3%、女性は 74.6%となっている。

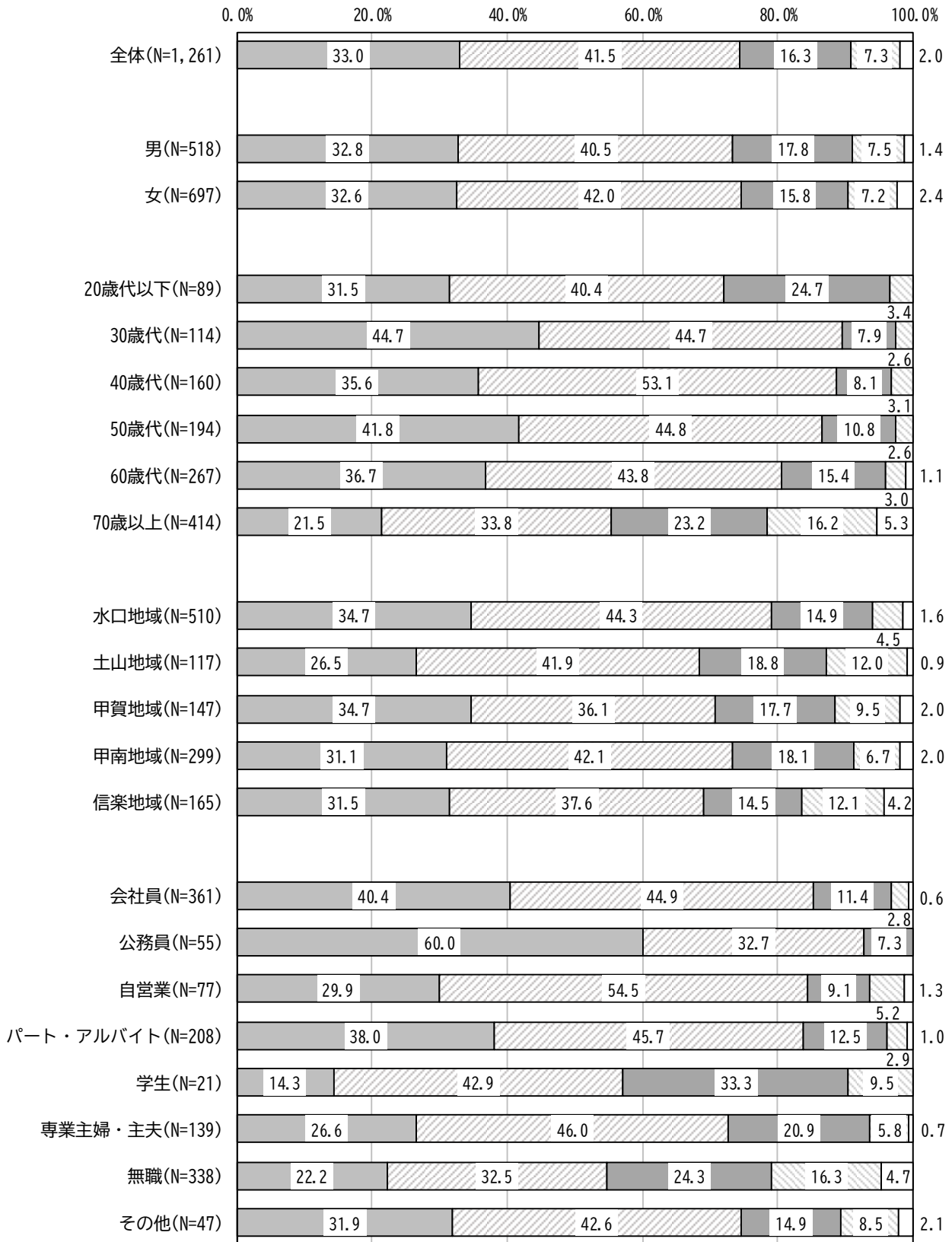
●年代別にみると、すべての年代において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている（30 歳代は「内容をよく知っている」と同率）。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 89.4%、以下、40 歳代で 88.7%、50 歳代で 86.6%と続いている。

●居住地別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 79.0%、以下、甲南地域で 73.2%、甲賀地域で 70.8%、信楽地域で 69.1%、土山地域で 68.4%と続いている。

●職業別にみると、公務員は「内容をよく知っている」が、他の職業では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 92.7%、以下、会社員で 85.3%、自営業で 84.4%と続いている。



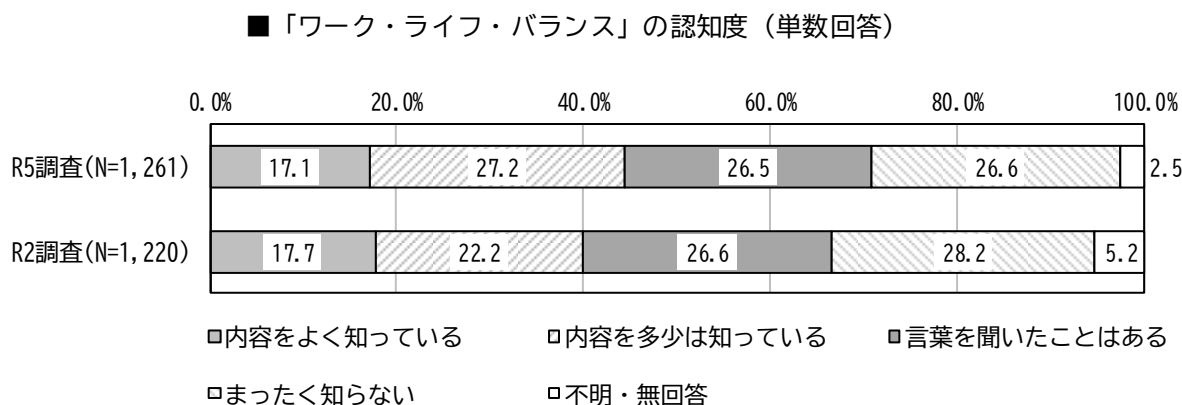
■ 「マタニティ・ハラスメント」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている   
内容を多少は知っている   
言葉を聞いたことはある  
まったく知らない   
不明・無回答

### ⑤ ワーク・ライフ・バランス

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「内容を多少は知っている」が 27.2%で最も多くなっており、以下、「まったく知らない」が 26.6%、「言葉を聞いたことはある」が 26.5%と続いている。『知っている』の割合は 44.3%となっている。

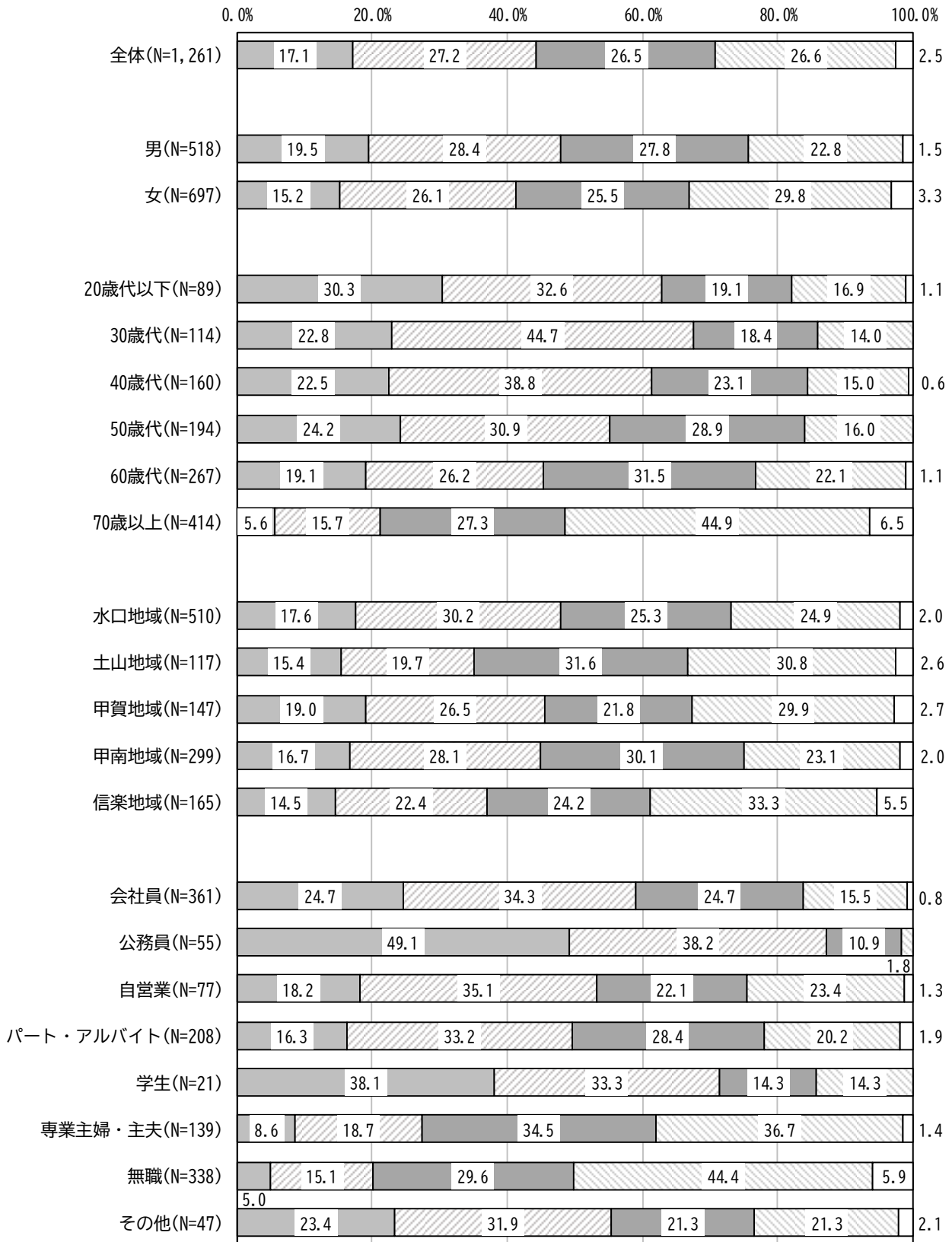
●性別にみると、男性は「内容を多少は知っている」が、女性は「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 47.9%、女性は 41.3%となっている。

●年代別にみると、60 歳代は「言葉を聞いたことはある」が、70 歳以上は「まったく知らない」が、他の年代では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 67.5%、以下、20 歳代以下で 62.9%、40 歳代で 61.3%と続いている。

●居住地別にみると、水口地域は「内容を多少は知っている」が、土山地域、甲南地域は「言葉を聞いたことはある」が、甲賀地域、信楽地域は「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 47.8%、以下、甲賀地域で 45.5%、甲南地域で 44.8%、信楽地域で 36.9%、土山地域で 35.1%と続いている。

●職業別にみると、公務員、学生は「内容をよく知っている」が、専業主夫、無職は「まったく知らない」が、他の職業では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 87.3%、以下、学生で 71.4%、会社員で 59.0%と続いている。

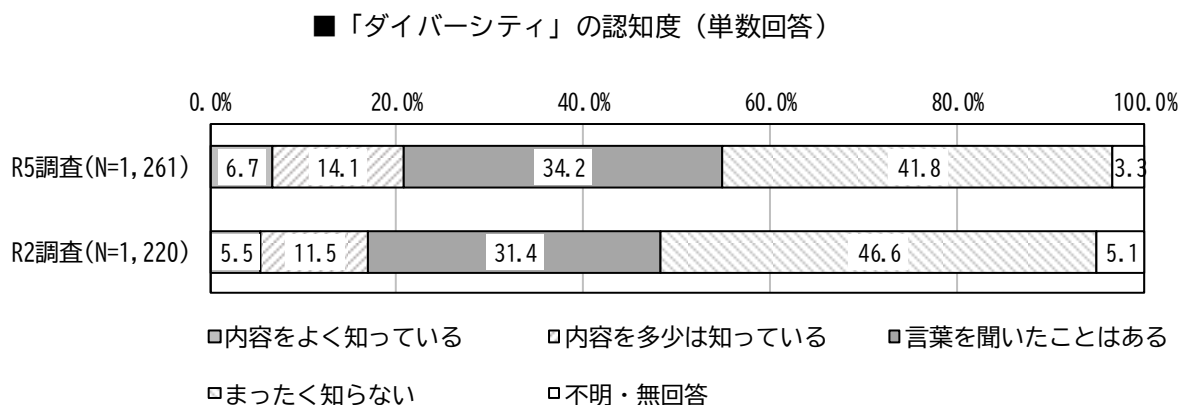
■ 「ワーク・ライフ・バランス」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている   
内容を多少は知っている   
言葉を聞いたことはある  
まったく知らない   
不明・無回答

⑥ ダイバーシティ

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「まったく知らない」が 41.8%で最も多くなっており、以下、「言葉を聞いたことはある」が 34.2%、「内容を多少は知っている」が 14.1%と続いている。『知っている』の割合は 20.8%となっている。

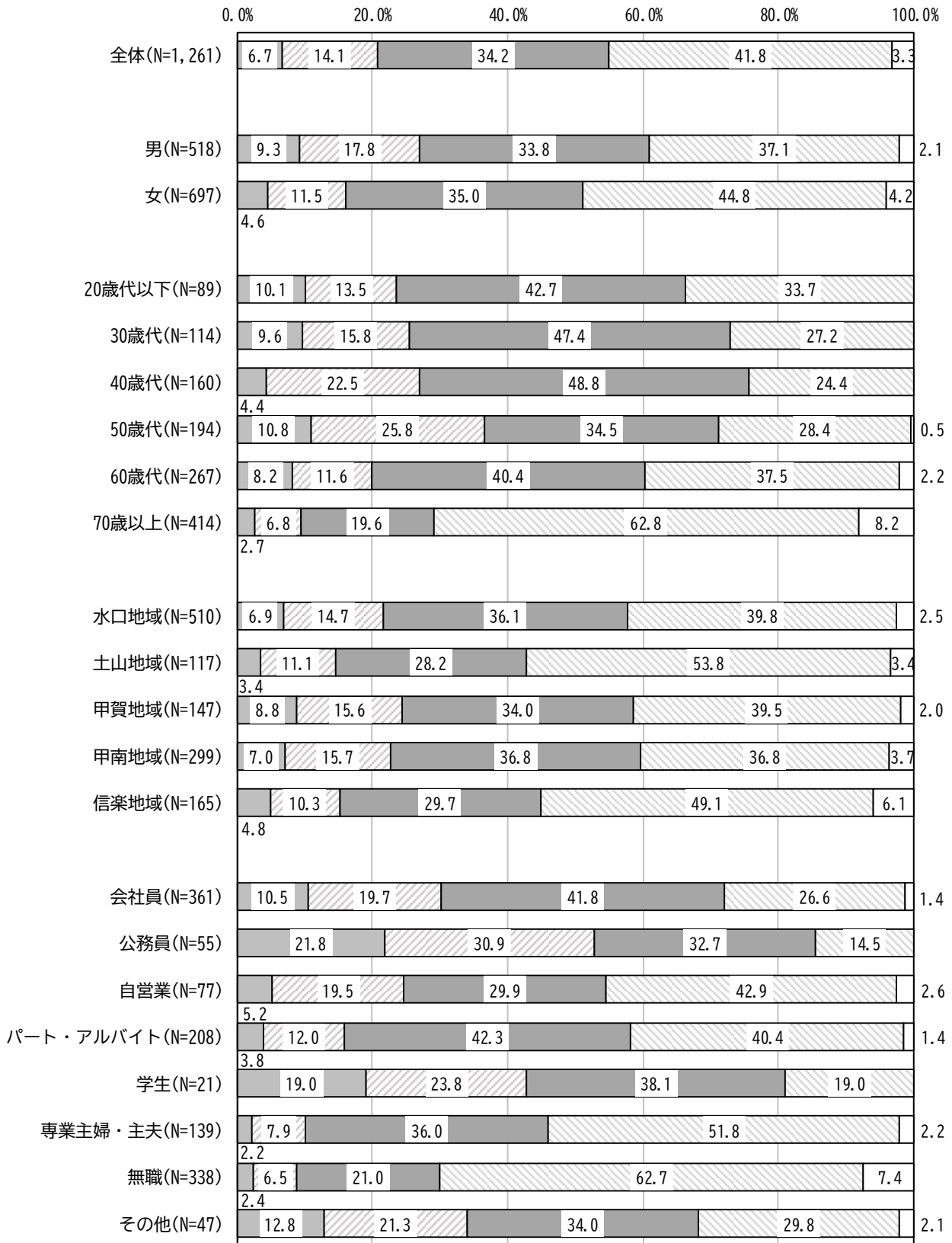
●性別にみると、男性、女性ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 27.1%、女性は 16.1%となっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「まったく知らない」が、他の年代では「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 36.6%、以下、40 歳代で 26.9%、30 歳代で 25.4%と続いている。

●居住地別にみると、すべての地域において「まったく知らない」が最も多くなっている（甲南地域は「言葉を聞いたことはある」と同率）。『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 24.4%、以下、甲南地域で 22.7%、水口地域で 21.6%、信楽地域で 15.1%、土山地域で 14.5%と続いている。

●職業別にみると、自営業、専業主夫、無職は「まったく知らない」が、他の職業では「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 52.7%、以下、学生で 42.8%、その他で 34.1%と続いている。

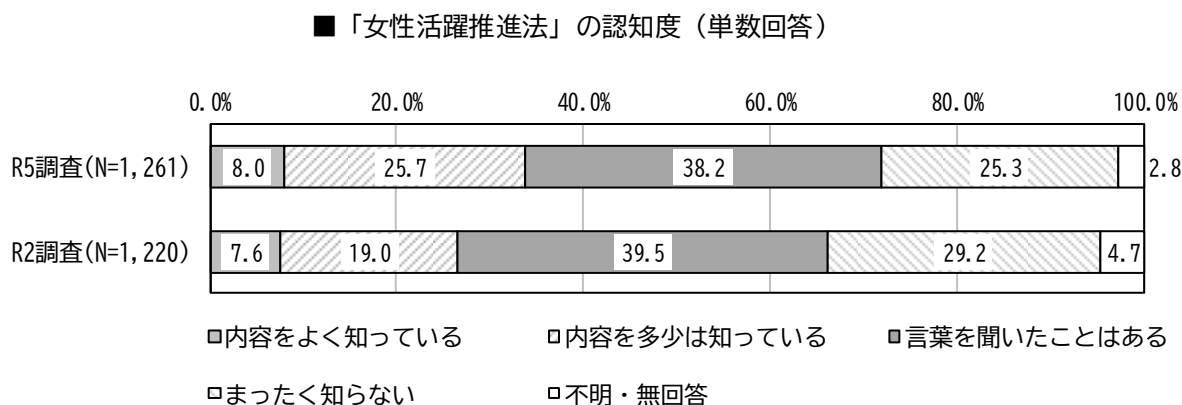
■「ダイバーシティ」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている    内容を多少は知っている    言葉を聞いたことはある  
まったく知らない    不明・無回答

⑦ 女性活躍推進法

前回の調査と比較すると、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体で見ると、「言葉を聞いたことはある」が38.2%で最も多くなっており、以下、「内容を多少は知っている」が25.7%、「まったく知らない」が25.3%と続いている。『知っている』の割合は33.7%となっている。

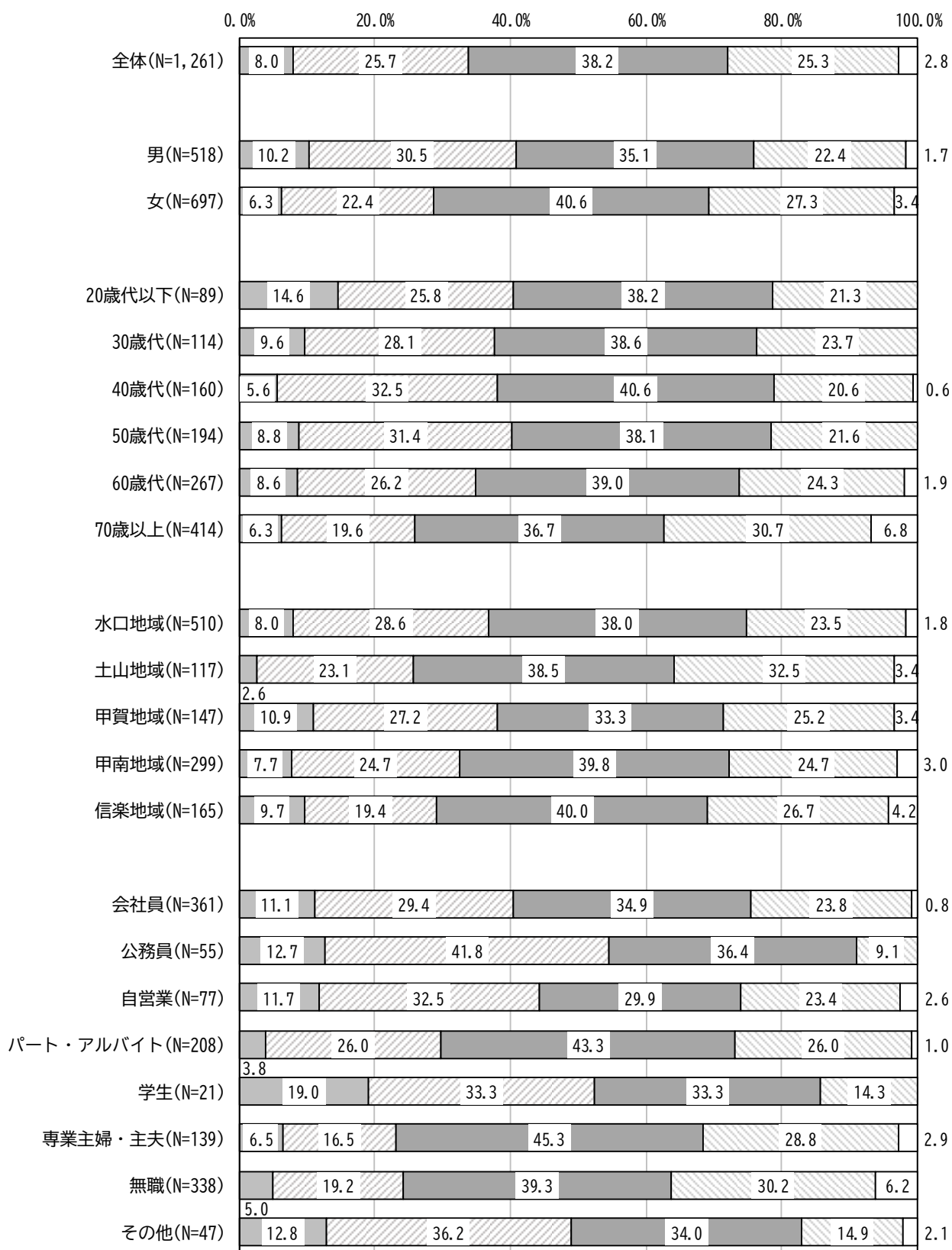
●性別にみると、男性、女性ともに「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は40.7%、女性は28.7%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で40.4%、以下、50歳代で40.2%、40歳代で38.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で38.1%、以下、水口地域で36.6%、甲南地域で32.4%、信楽地域で29.1%、土山地域で25.7%と続いている。

●職業別にみると、公務員、自営業、学生、その他は「内容を多少は知っている」が、他の職業では「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている（学生は「言葉を聞いたことがある」と同率）。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で54.5%、以下、学生で52.3%、その他で49.0%と続いている。

■「女性活躍推進法」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている    内容を多少は知っている    言葉を聞いたことはある  
まったく知らない    不明・無回答

## ⑧ ジェンダー平等

●全体で見ると、「内容を多少は知っている」が36.8%で最も多くなっており、以下、「言葉を聞いたことはある」が27.4%、「まったく知らない」が17.8%と続いている。「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』は52.4%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は54.6%、女性は50.7%となっている。

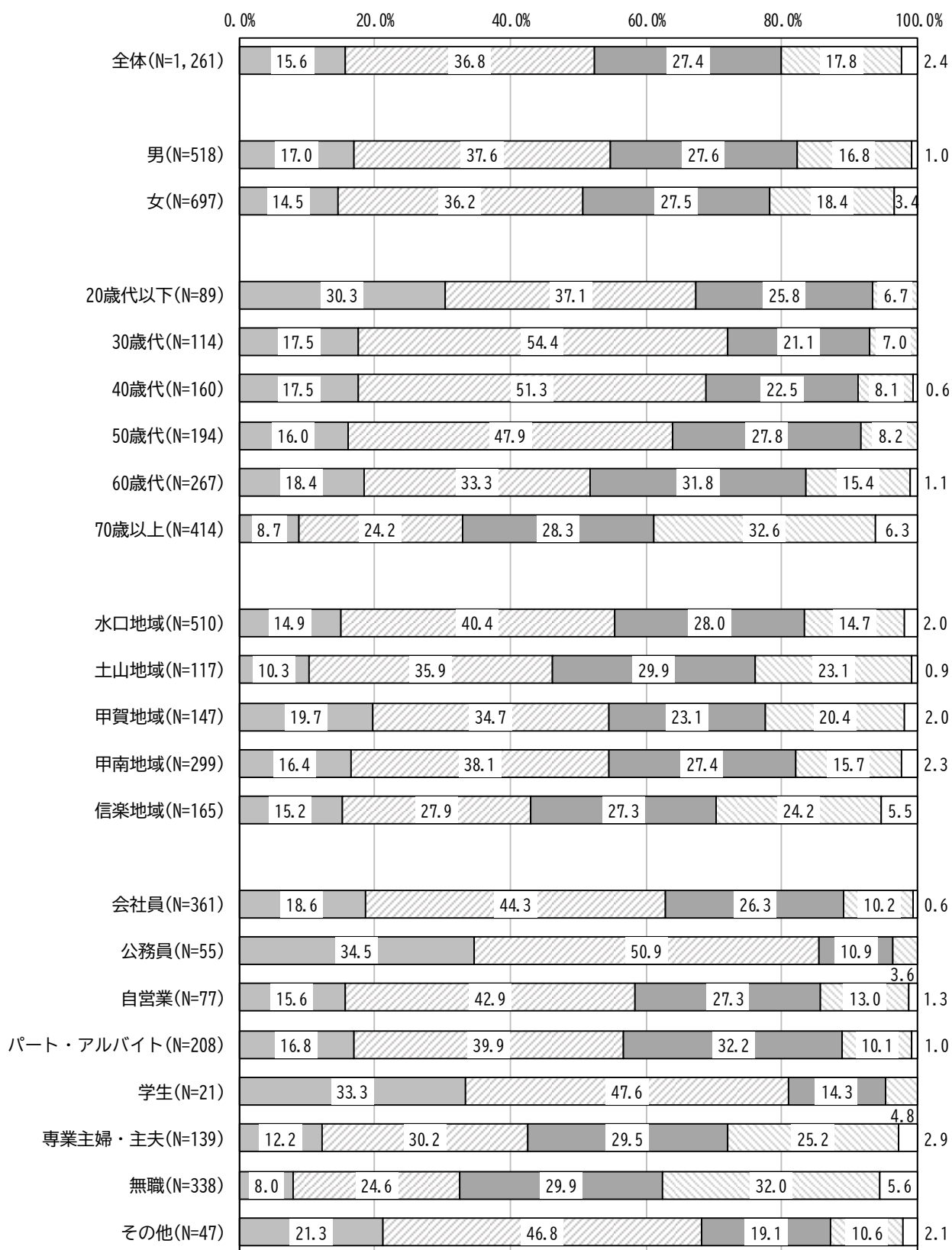
●年代別にみると、70歳以上は「まったく知らない」が、他の年代では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは30歳代で71.9%、以下、40歳代で68.8%、20歳代以下で67.4%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で55.3%、以下、甲南地域で54.5%、甲賀地域で54.4%、土山地域で46.2%、信楽地域で43.1%と続いている。

●職業別にみると、無職は「まったく知らない」が、他の職業では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で85.4%、以下、学生で80.9%、その他で68.1%と続いている。



■「ジェンダー平等」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている    内容を多少は知っている    言葉を聞いたことはある  
まったく知らない    不明・無回答

## ⑨ アンコンシャスバイアス

●全体で見ると、「まったく知らない」が 75.6%で最も多くなっており、以下、「言葉を聞いたことはある」が 12.6%、「内容を多少は知っている」が 5.9%と続いている。「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 8.4%とかなり少なくなっている。

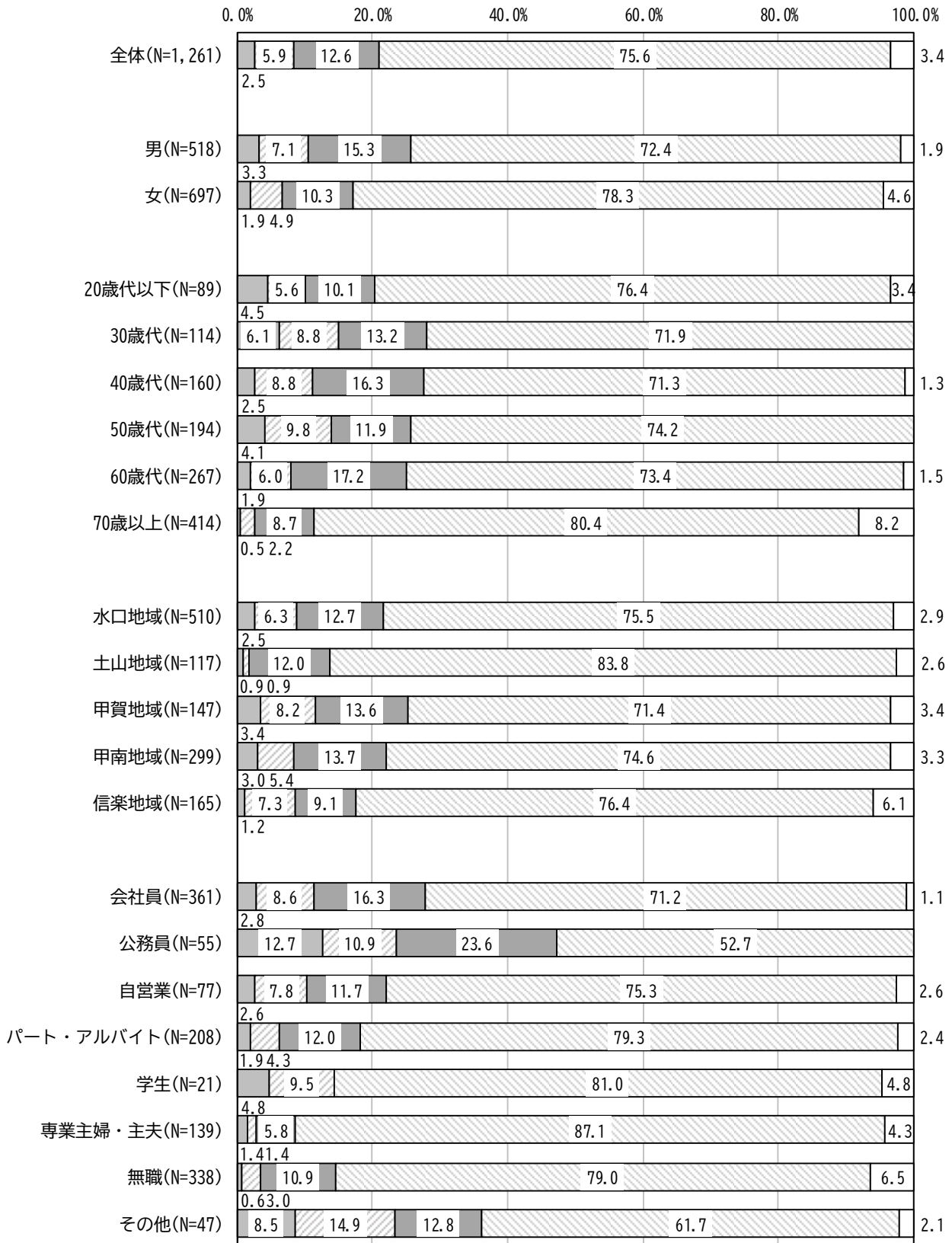
●性別にみると、男性、女性ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 10.4%、女性は 6.8%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 14.9%、以下、50 歳代で 13.9%、40 歳代で 11.3%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 11.6%、以下、水口地域で 8.8%、信楽地域で 8.5%、甲南地域で 8.4%、土山地域で 1.8%と続いている。

●職業別にみると、すべての職業において「まったく知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 23.6%、以下、その他で 23.4%、学生で 14.3%と続いている。

■「アンコンシャスバイアス」の認知度（単数回答）



内容をよく知っている   
内容を多少は知っている   
言葉を聞いたことはある  
まったく知らない   
不明・無回答

<問 10-1> 各項目で「内容はよく知っている」または「内容を多少は知っている」と回答された方におたずねします。  
あなたは、それぞれの内容についてどのような方法でご存じになりましたか。  
(〇はいくつでも)

前回の調査と比較すると、「インターネットなどの SNS」「テレビやラジオ」の割合が増加しており、「啓発チラシ・リーフレット」「市の広報紙やホームページ」などの割合は減少している。

■問10各項目①～⑨の「言葉」や「内容」を知った方法（複数回答）

	啓発 チラシ・ リーフレ ット	市 の 広 報 紙 や ホ ー ム ペ ー ジ	市 主 催 の セ ミ ナ ー や 研 修 会	人 権 尊 重 の ま ち づ く り 懇 談 会  ( 地 区 別 懇 談 会 )	学 校 の 授 業	職 場 内 の 研 修	イ ン タ ー ネ ッ ト な ど の S N S	テ レ ビ や ラ ジ オ	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
R5調査(N=1,094)	17.5	15.9	4.8	6.9	5.8	24.0	32.4	62.5	3.6	6.5
R2調査(N=1,016)	23.1	20.2	7.6	12.7	8.8	26.8	28.2	61.5	4.1	5.2

●全体でみると、「テレビやラジオ」が62.5%で最も多くなっており、以下、「インターネットなどの SNS」が32.4%、「職場内の研修」が24.0%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「テレビやラジオ」が最も多くなっており、次いで、「インターネットなどの SNS」が多くなっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「インターネットなどの SNS」が、他の年代では「テレビやラジオ」が最も多くなっている。30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代は「職場内の研修」も多くなっている。

●居住地別にみると、すべての地域において「テレビやラジオ」が最も多くなっている。次いで、土山地域は「啓発チラシ・リーフレット」が、他の地域では「インターネットなどの SNS」が多くなっている。

●職業別にみると、公務員は「職場内の研修」が、学生は「学校の授業」が、他の職業では「テレビやラジオ」が最も多くなっている。また、無職は「市の広報紙やホームページ」が、その他は「啓発チラシ・リーフレット」も多くなっている。

■問10各項目①～⑨の「言葉」や「内容」を知った方法（複数回答）

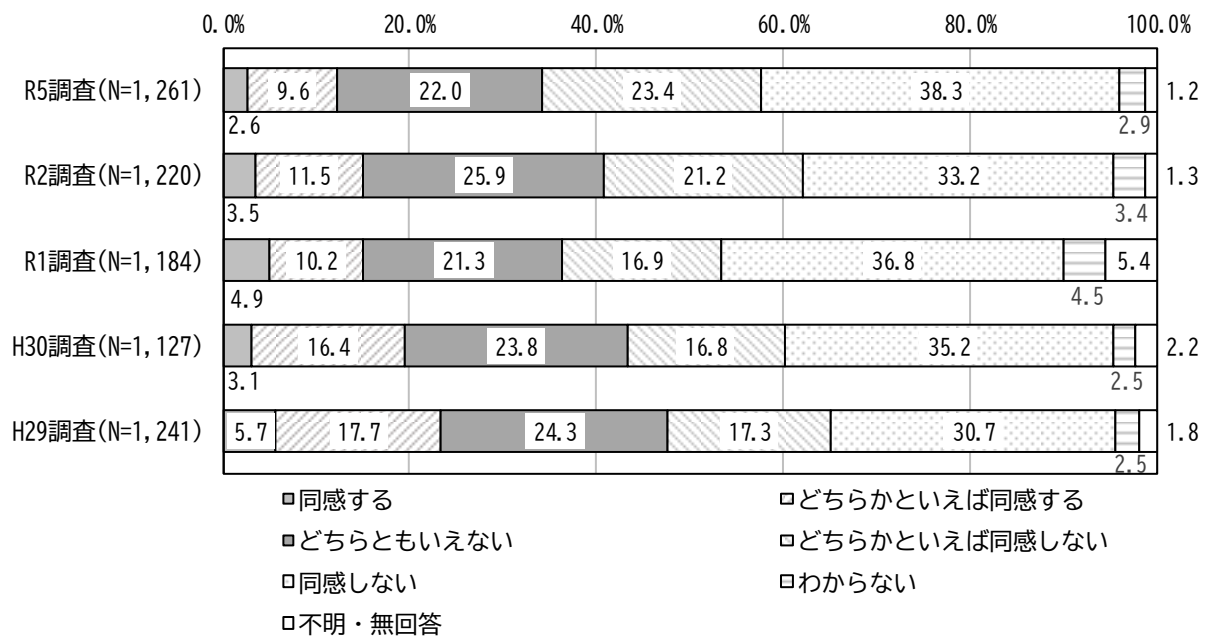
	啓発チラシ・リーフレット	市の広報紙やホームページ	市主催のセミナーや研修会	人権尊重のまちづくり懇談会 (地区別懇談会)	学校の授業	職場内の研修	インターネットなどのSNS	テレビやラジオ	その他	不明・無回答
全体(N=1,094)	17.5	15.9	4.8	6.9	5.8	24.0	32.4	62.5	3.6	6.5
男(N=458)	17.5	17.0	5.5	9.0	5.2	25.3	33.2	55.2	4.4	8.1
女(N=594)	17.7	15.7	4.7	5.4	6.6	22.6	31.5	67.5	2.9	5.6
20歳代以下(N=85)	2.4	2.4	0.0	0.0	41.2	17.6	57.6	38.8	0.0	4.7
30歳代(N=109)	8.3	1.8	0.9	0.9	19.3	38.5	66.1	56.0	0.9	1.8
40歳代(N=154)	12.3	14.3	1.9	2.6	1.9	31.8	47.4	53.9	3.2	9.1
50歳代(N=184)	13.6	10.3	3.8	5.4	0.0	35.3	33.2	59.8	4.3	8.7
60歳代(N=249)	23.7	16.5	9.6	8.0	1.6	26.9	25.7	67.1	2.4	6.0
70歳以上(N=293)	24.9	29.7	6.1	13.3	0.0	5.8	10.9	73.4	6.1	6.8
水口地域(N=462)	14.1	15.8	3.9	6.3	6.5	24.7	35.3	63.4	3.5	6.7
土山地域(N=98)	25.5	19.4	8.2	7.1	8.2	15.3	24.5	62.2	3.1	8.2
甲賀地域(N=123)	22.8	17.1	5.7	12.2	10.6	26.8	27.6	61.8	3.3	7.3
甲南地域(N=256)	18.4	14.5	5.5	5.1	3.1	25.0	35.2	61.7	3.9	5.9
信楽地域(N=135)	16.3	17.0	4.4	7.4	3.0	21.5	29.6	60.0	3.7	5.9
会社員(N=344)	12.5	8.7	2.3	4.4	7.3	37.2	41.9	52.9	2.3	8.4
公務員(N=55)	36.4	18.2	16.4	9.1	7.3	74.5	36.4	41.8	3.6	3.6
自営業(N=73)	19.2	19.2	4.1	11.0	5.5	9.6	39.7	58.9	4.1	6.8
パート・アルバイト(N=191)	16.2	17.3	6.3	4.2	3.7	27.2	36.6	69.1	3.1	3.7
学生(N=20)	0.0	0.0	0.0	0.0	85.0	0.0	45.0	25.0	0.0	0.0
専業主婦・主夫(N=117)	18.8	19.7	6.8	6.0	1.7	3.4	22.2	75.2	2.6	9.4
無職(N=242)	19.8	24.0	4.1	11.6	0.8	7.9	16.5	74.4	5.8	5.8
その他(N=42)	31.0	14.3	7.1	9.5	4.8	21.4	31.0	54.8	7.1	2.4

(2) 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について

《問 11》 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

平成 29 年度調査からの推移をみると、「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』の割合が減少し、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」を合わせた『同感しない』の割合が増加している。

■ 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について (単数回答)



●全体でみると、「同感しない」が38.3%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば同感しない」が23.4%、「どちらともいえない」が22.0%と続いている。『同感しない』の割合は61.7%となっている。

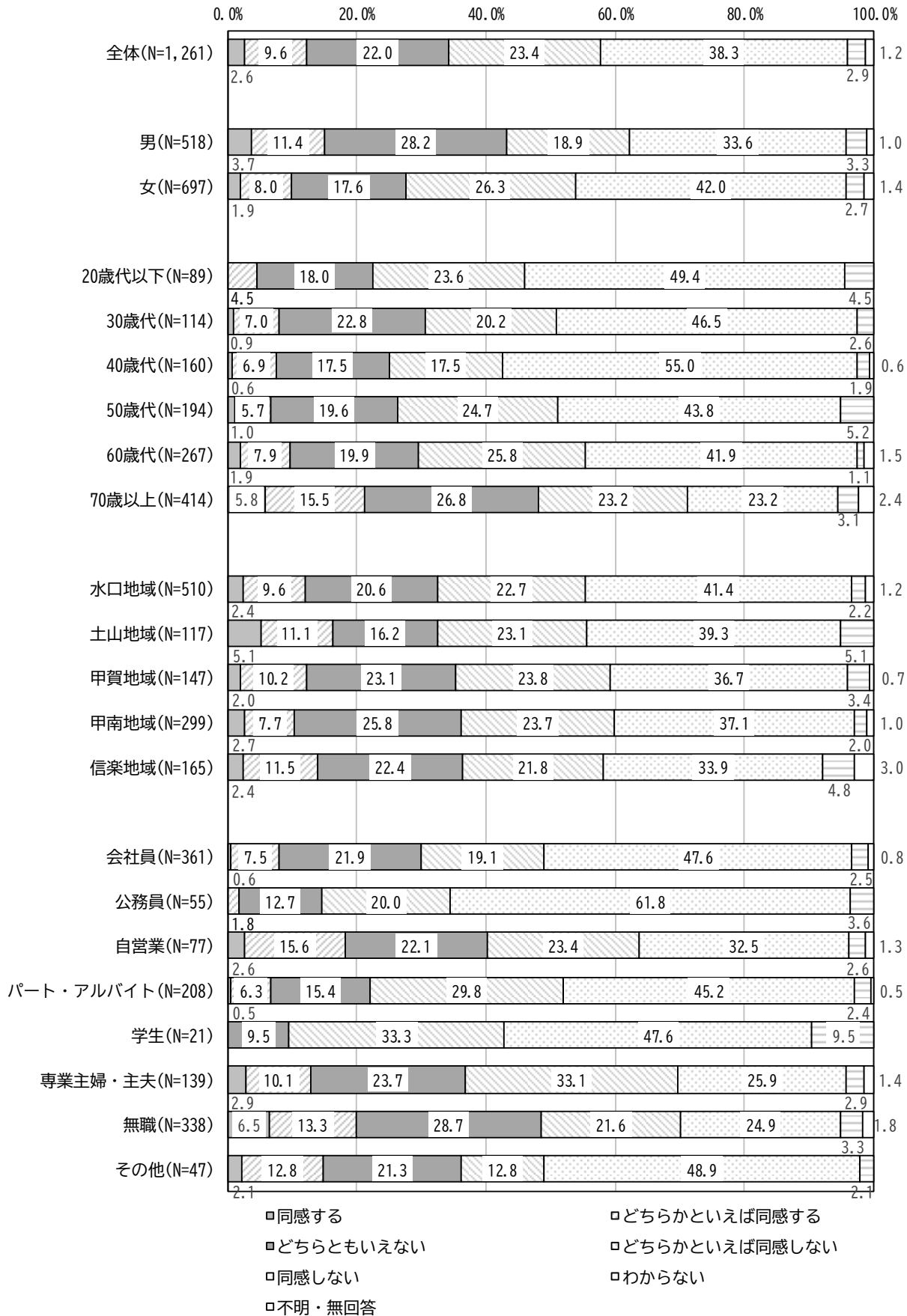
●性別にみると、男性、女性ともに「同感しない」が最も多くなっている。『同感しない』の割合をみると、男性は52.5%、女性は68.3%となっている。

●年代別にみると、70歳以上は「どちらともいえない」が、他の年代では「同感しない」が最も多くなっている。『同感しない』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で73.0%、以下、40歳代で72.5%、50歳代で68.5%と続いている。

●居住地別にみると、すべての地域において「同感しない」が最も多くなっている。『同感しない』の割合をみると、最も多いのは水口地域で64.1%、以下、土山地域で62.4%、甲南地域で60.8%、甲賀地域で60.5%、信楽地域で55.7%と続いている。

●職業別にみると、専業主婦・主夫は「どちらかといえば同感しない」が、無職は「どちらともいえない」が、他の職業では「同感しない」が最も多くなっている。『同感しない』の割合をみると、最も多いのは公務員で81.8%、以下、学生で80.9%、パート・アルバイトで75.0%と続いている。

■「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について（単数回答）

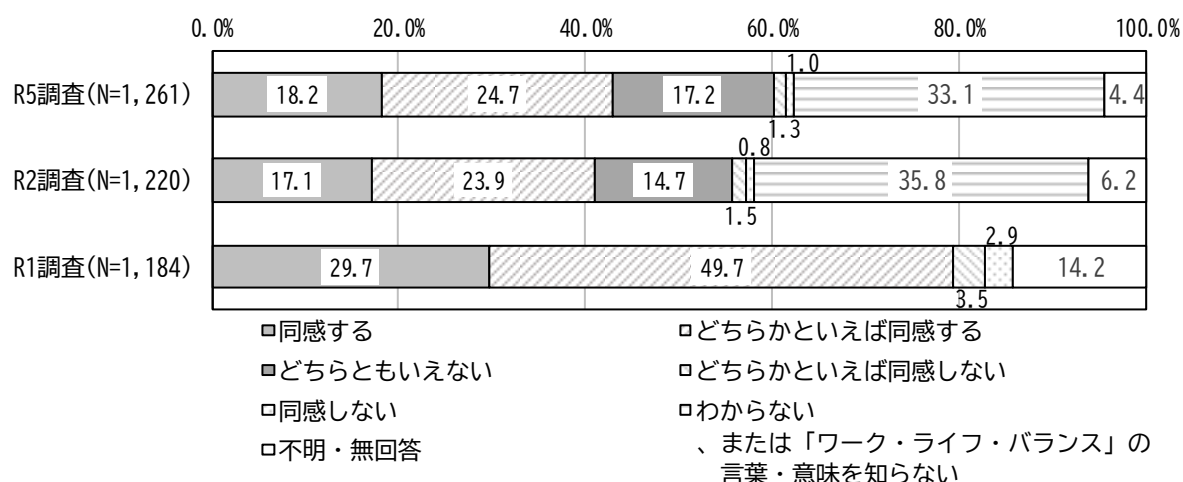


### (3) 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について

「問 12」 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

前回の調査と比較すると、「同感する」の割合が増加している。

■ 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について (単数回答)



※R1調査では「どちらともいえない」「わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」の選択肢がないため、R2調査以降との比較には注意が必要です。

●全体で見ると、「わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」(=以降「わからない」と表記)が 33.1%で最も多くなっており、以下、「どちらかといえば同感する」が 24.7%、「同感する」が 18.2%と続いている。「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感する』の割合は 42.9%となっている。

●性別にみると、男性、女性ともに「わからない」が最も多くなっている。『同感する』の割合をみると、男性は 45.3%、女性は 41.1%となっている。

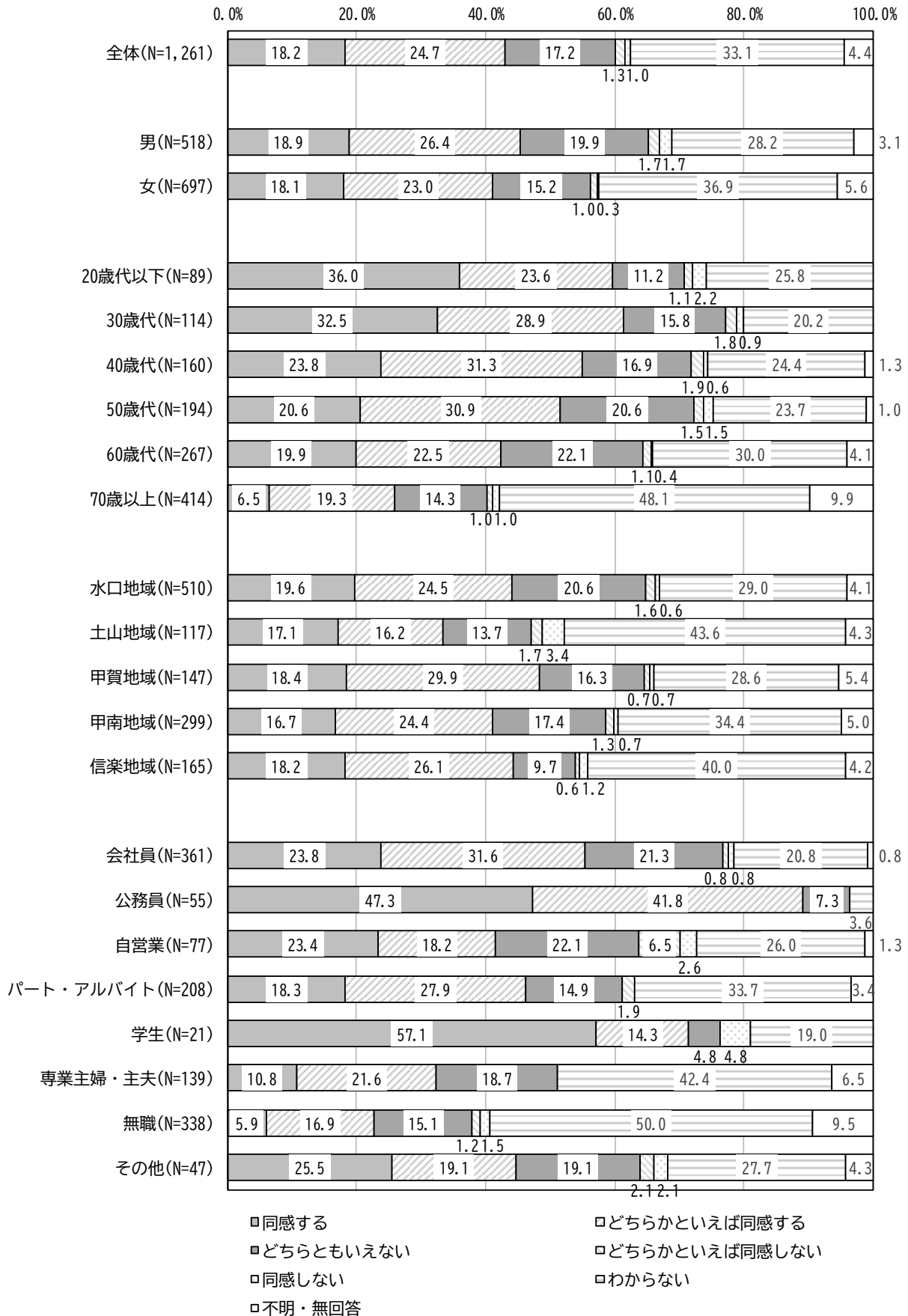
●年代別にみると、20歳代以下、30歳代は「同感する」が、40歳代、50歳代は「どちらかといえば同感する」が、他の年代では「わからない」が最も多くなっている。『同感する』の割合をみると、最も多いのは30歳代で 61.4%、以下、20歳代以下で 59.6%、40歳代で 55.1%と続いている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「どちらかといえば同感する」が、他の地域では「わからない」が最も多くなっている。『同感する』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 48.3%、以下、信楽地域で 44.3%、水口地域で 44.1%、甲南地域で 41.1%、土山地域で 33.3%と続いている。

●職業別にみると、公務員、学生は「同感する」が、会社員は「どちらかといえば同感する」が、他の職業では「わからない」が最も多くなっている。『同感する』の割合をみると、最も多いのは公務員で 89.1%、以下、学生で 71.4%、会社員で 55.4%と続いている。



■ 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について（単数回答）



(4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について

《問 13》 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。また、現実にはどうですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(番号を1つ記入)

① 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 【希望】

前回の調査と比較すると、「家庭生活」を優先」「仕事」と「家庭生活」を共に優先」「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先」の割合が増加している。

■生活の中での優先度【希望】（単数回答）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	わからない	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	2.1	20.9	3.9	23.9	5.2	12.8	22.8	3.9	4.5
R2調査(N=1,220)	3.4	16.8	4.5	19.7	3.9	12.9	28.3	2.8	7.7

●全体で見ると、「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が 23.9%で最も多くなっており、以下、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が 22.8%、「家庭生活」を優先」が 20.9%と続いている。

●性別にみると、男性は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が、女性は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が最も多くなっている。

●年代別にみると、20歳代以下、30歳代は「家庭生活」を優先」が、40歳代、50歳代は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が、他の年代では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、甲南地域、信楽地域は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が、他の地域では「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が最も多くなっている。

●職業別にみると、公務員、専業主婦・主夫、その他は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が、学生は「家庭生活」を優先」が、無職は「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が、他の職業では「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が最も多くなっている。

■生活の中での優先度【希望】（単数回答）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	わからない	不明・無回答
全体(N=1,261)	2.1	20.9	3.9	23.9	5.2	12.8	22.8	3.9	4.5
男(N=518)	2.9	19.7	3.1	27.6	6.4	12.2	20.7	3.9	3.7
女(N=697)	1.4	22.0	4.4	21.5	4.0	13.5	24.2	4.2	4.7
20歳代以下(N=89)	2.2	32.6	11.2	27.0	4.5	5.6	14.6	2.2	0.0
30歳代(N=114)	3.5	34.2	2.6	22.8	3.5	7.0	22.8	2.6	0.9
40歳代(N=160)	1.9	26.9	0.6	33.1	5.0	10.0	20.0	0.6	1.9
50歳代(N=194)	3.1	18.6	1.5	36.6	6.2	5.2	22.2	5.2	1.5
60歳代(N=267)	1.5	18.7	1.9	24.3	4.5	12.4	30.3	3.4	3.0
70歳以上(N=414)	1.7	15.2	6.3	14.3	5.3	20.8	21.5	5.8	9.2
水口地域(N=510)	2.5	22.4	3.1	24.1	5.3	12.5	22.2	3.5	4.3
土山地域(N=117)	0.9	16.2	4.3	26.5	3.4	12.8	23.1	8.5	4.3
甲賀地域(N=147)	2.0	19.0	7.5	28.6	6.8	11.6	20.4	2.0	2.0
甲南地域(N=299)	1.7	22.4	3.7	22.1	4.7	14.0	23.4	3.0	5.0
信楽地域(N=165)	2.4	19.4	3.0	21.8	4.2	12.1	26.7	5.5	4.8
会社員(N=361)	2.5	22.7	3.0	33.5	5.3	6.1	23.3	2.2	1.4
公務員(N=55)	3.6	27.3	0.0	29.1	3.6	3.6	30.9	0.0	1.8
自営業(N=77)	3.9	13.0	0.0	35.1	5.2	9.1	26.0	5.2	2.6
パート・アルバイト(N=208)	1.4	25.0	1.4	26.4	7.7	10.1	23.6	2.4	1.9
学生(N=21)	4.8	23.8	9.5	19.0	0.0	19.0	19.0	4.8	0.0
専業主婦・主夫(N=139)	0.0	21.6	5.8	14.4	2.9	22.3	23.7	4.3	5.0
無職(N=338)	1.5	17.8	6.8	14.2	5.0	19.5	18.9	6.5	9.8
その他(N=47)	4.3	10.6	4.3	21.3	6.4	10.6	29.8	6.4	6.4

② 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度【現実】

前回の調査と比較すると、「家庭生活」を優先」「仕事」と「家庭生活」を共に優先」「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先」「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」の割合が増加している。

また、希望では「家庭生活」を優先でも、現実では「仕事」を優先する傾向となっている。

■生活の中での優先度【現実】（単数回答）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	わからない	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	23.7	20.0	4.1	22.9	4.8	7.6	5.0	7.3	4.5
R2調査(N=1,220)	24.1	16.3	4.3	22.6	3.5	5.9	6.6	7.2	9.4

●全体で見ると、「仕事」を優先」が 23.7%で最も多くなっており、以下、「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が 22.9%、「家庭生活」を優先」が 20.0%と続いている。

●性別にみると、男性は「仕事」を優先」が、女性は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が最も多くなっている。

●年代別にみると、60 歳代は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が、70 歳以上は「家庭生活」を優先」が、他の年代では「仕事」を優先」が最も多くなっている。

●居住地別にみると、土山地域、甲南地域は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が、他の地域では「仕事」を優先」が最も多くなっている。

●職業別にみると、自営業、パート・アルバイトは「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が、専業主婦・主夫、無職は「家庭生活」を優先」が、他の職業では「仕事」を優先」が最も多くなっている。

■生活の中での優先度【現実】（単数回答）

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を共に優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先	わからない	不明・無回答
全体(N=1,261)	23.7	20.0	4.1	22.9	4.8	7.6	5.0	7.3	4.5
男(N=518)	27.8	16.0	4.6	22.4	6.0	7.1	4.8	6.8	4.4
女(N=697)	20.4	23.1	3.9	23.2	4.3	8.3	4.7	7.9	4.2
20歳代以下(N=89)	31.5	18.0	7.9	21.3	7.9	1.1	4.5	7.9	0.0
30歳代(N=114)	32.5	23.7	0.0	26.3	1.8	4.4	7.0	3.5	0.9
40歳代(N=160)	36.3	21.3	1.3	25.0	5.0	2.5	3.8	3.1	1.9
50歳代(N=194)	42.3	12.9	2.1	28.4	3.1	2.1	2.1	5.2	2.1
60歳代(N=267)	19.9	19.5	2.6	30.3	7.5	6.4	5.6	4.9	3.4
70歳以上(N=414)	8.7	22.0	7.7	14.5	4.3	15.5	5.8	12.8	8.7
水口地域(N=510)	27.5	20.4	3.7	20.4	6.1	6.9	4.1	6.7	4.3
土山地域(N=117)	19.7	9.4	3.4	31.6	5.1	6.8	6.8	12.8	4.3
甲賀地域(N=147)	23.1	17.0	8.2	21.8	6.1	8.8	3.4	8.2	3.4
甲南地域(N=299)	19.4	24.1	3.7	25.1	4.0	7.7	5.7	6.0	4.3
信楽地域(N=165)	23.6	20.0	3.6	22.4	1.8	9.7	6.1	7.9	4.8
会社員(N=361)	42.7	9.7	1.4	30.5	5.0	1.4	3.9	3.9	1.7
公務員(N=55)	47.3	10.9	0.0	29.1	7.3	0.0	3.6	0.0	1.8
自営業(N=77)	27.3	9.1	0.0	32.5	7.8	3.9	9.1	9.1	1.3
パート・アルバイト(N=208)	19.2	23.6	3.8	31.7	5.8	3.8	6.7	3.8	1.4
学生(N=21)	23.8	9.5	9.5	14.3	9.5	4.8	9.5	19.0	0.0
専業主婦・主夫(N=139)	8.6	46.8	5.0	11.5	0.7	12.2	2.9	5.8	6.5
無職(N=338)	5.3	24.3	8.3	12.4	4.1	17.2	4.7	14.2	9.5
その他(N=47)	40.4	6.4	2.1	21.3	6.4	6.4	6.4	4.3	6.4

(5) 女性の就労(起業含む)について

「問 14」 あなたは、女性が就労(起業含む)することについてどのように思われますか。(○は1つ)

前回の調査と比較すると、「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」の割合が増加している。

■女性の就労(起業含む)について(単数回答)

	がよ い	結 婚、 出 産、 子 育 て、 介 護 等	結 婚 す る ま い で 就 労 し 、 結 婚 後	出 産 す る ま い で 就 労 し 、 出 産 後	子 育 て の 時 期 だ け は フ ル タ イ ム で 就 労 し 、 そ の 後 は パ ー ト タ イ ム で 就 労 し 続 け る ほ う が よ い	子 育 て の 時 期 だ け は パ ー ト タ イ ム で 就 労 し 続 け る ほ う が よ い	就 労 し な い ほ う が よ い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
R5調査(N=1,261)	38.2	1.0	2.2	17.0	21.3	0.7	15.8	3.7	
R2調査(N=1,220)	33.2	1.1	3.1	18.6	23.4	0.8	15.7	4.0	

●全体で見ると、「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が 38.2%で最も多くなっており、以下、「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が 21.3%、「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで就労し続けるほうがよい」が 17.0%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が最も多くなっており、次いで、「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が多くなっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が、他の年代では「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が最も多くなっている。

●職業別にみると、学生は「わからない」が、無職は「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が、他の職業では「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が最も多くなっている。

■女性の就労（起業含む）について（単数回答）

	がに結 よ関婚、 いわら ず出 就産、 労子 し育 続て、 け介 る護 ほう 等	は結 就婚 する ま で 就 労 し 、 結 婚 後	は出 就産 する ま で 就 労 し 、 出 産 後	労め子 し育、 続そ けの る時 ほう期 がは よフル いタイム で 就	就め子 し育、 続そ けの る時 ほう期 がは よパート いタイム で	就 労 し な い ほう が よ い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(N=1,261)	38.2	1.0	2.2	17.0	21.3	0.7	15.8	3.7
男(N=518)	38.6	1.5	2.5	18.5	19.9	0.6	15.3	3.1
女(N=697)	38.3	0.3	1.9	16.1	22.2	0.9	16.8	3.6
20歳代以下(N=89)	34.8	0.0	0.0	10.1	29.2	1.1	24.7	0.0
30歳代(N=114)	45.6	1.8	3.5	8.8	15.8	0.9	21.1	2.6
40歳代(N=160)	48.1	0.6	0.0	14.4	13.1	1.3	20.0	2.5
50歳代(N=194)	49.0	1.5	2.1	16.0	12.4	0.5	16.0	2.6
60歳代(N=267)	44.2	0.0	2.6	17.2	19.1	0.0	13.5	3.4
70歳以上(N=414)	24.9	1.4	3.1	22.0	29.7	1.0	12.8	5.1
水口地域(N=510)	40.0	0.4	2.9	15.9	23.9	0.4	14.3	2.2
土山地域(N=117)	35.9	0.0	2.6	19.7	19.7	0.9	17.9	3.4
甲賀地域(N=147)	40.8	1.4	1.4	22.4	19.0	0.7	12.9	1.4
甲南地域(N=299)	39.5	1.3	2.0	15.1	18.4	1.3	16.7	5.7
信楽地域(N=165)	31.5	2.4	1.2	17.0	21.2	0.6	21.2	4.8
会社員(N=361)	47.6	0.8	1.7	15.8	13.9	1.1	17.5	1.7
公務員(N=55)	65.5	1.8	0.0	10.9	9.1	0.0	10.9	1.8
自営業(N=77)	42.9	2.6	3.9	11.7	22.1	0.0	14.3	2.6
パート・アルバイト(N=208)	38.9	0.0	1.4	16.3	22.6	0.0	16.8	3.8
学生(N=21)	19.0	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	38.1	0.0
専業主婦・主夫(N=139)	30.9	0.0	2.9	14.4	30.2	1.4	12.9	7.2
無職(N=338)	26.0	1.8	3.0	22.5	27.2	0.9	14.5	4.1
その他(N=47)	46.8	0.0	4.3	12.8	19.1	0.0	14.9	2.1

(6) 女性が就労し続けたり、再就職するうえで必要なこと

「問 15」 あなたは、女性が就労し続けたり、再就職をするうえで必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

令和元年度調査からの推移をみると、「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」「男女の賃金差の解消」の割合が増加している。

■女性が就労し続けたり、再就職するうえで必要なこと（複数回答）

	仕事と家庭の両立への <u>家族</u> の協力	仕事と家庭の両立への <u>職場</u> の協力	育児休業や介護休業などの制度の充実	在宅勤務やフレックスタイム制の導入	男女の賃金差の解消	昇進、昇格などの不平等の解消	長時間労働等の解消（職場の働き方改革）	保育施設等の充実	女性自身の意識改革	男性自身の意識改革	特になし	わからない	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	75.8	70.9	52.8	29.1	33.4	23.5	34.2	45.0	17.0	34.0	1.2	3.6	1.0	2.6
R2調査(N=1,220)	74.8	70.7	54.1	29.1	29.1	23.5	36.4	45.6	22.2	36.3	1.4	4.3	1.1	3.0
R1調査(N=1,184)	67.3	64.1	46.5	23.4	26.0	18.3	34.0	34.5	16.7	-	1.9	3.6	1.4	7.6

※R1調査では「男性自身の意識改革」の選択肢はありません。

- 全体でみると、「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が75.8%で最も多くなっており、以下、「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」が70.9%、「育児休業や介護休業などの制度の充実」が52.8%と続いている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっており、次いで、「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」が多くなっている。
- 年代別にみると、20歳代以下、30歳代は「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」が、他の年代では「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっている。
- 職業別にみると、パート・アルバイト、学生は「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」が、他の職業では「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっている。



■女性が就労し続けたり、再就職するうえで必要なこと（複数回答）

	仕事と家庭の両立への家族の協力や理解	仕事と家庭の両立への職場の協力や理解	育児休業や介護休業などの制度の充実	在宅勤務やフレックスタイム制の導入	男女の賃金差の解消	昇進、昇格などの不平等の解消	長時間労働等の解消（職場の働き方改革）	保育施設等の充実	女性自身の意識改革	男性自身の意識改革	特になし	わからない	その他	不明・無回答
全体(N=1,261)	75.8	70.9	52.8	29.1	33.4	23.5	34.2	45.0	17.0	34.0	1.2	3.6	1.0	2.6
男(N=518)	70.1	64.5	51.2	27.4	30.7	25.7	29.5	41.5	16.2	32.4	1.2	3.3	1.2	2.7
女(N=697)	79.9	75.9	53.8	30.0	34.3	21.1	37.0	48.4	16.9	34.1	1.3	4.0	0.9	2.3
20歳代以下(N=89)	78.7	83.1	67.4	34.8	36.0	27.0	40.4	44.9	13.5	24.7	0.0	2.2	5.6	2.2
30歳代(N=114)	70.2	78.9	56.1	42.1	44.7	33.3	44.7	58.8	15.8	40.4	0.0	2.6	0.9	2.6
40歳代(N=160)	81.3	78.1	54.4	43.1	38.8	27.5	45.0	47.5	18.8	45.6	1.9	1.9	1.9	1.3
50歳代(N=194)	79.4	76.8	52.1	30.4	36.1	26.3	36.1	42.8	19.6	33.0	0.5	3.1	0.5	2.1
60歳代(N=267)	79.4	71.9	57.3	28.8	33.3	23.2	31.1	50.2	18.4	34.8	0.4	2.2	0.4	2.6
70歳以上(N=414)	70.8	60.4	45.4	18.6	26.1	17.4	26.3	38.2	15.0	29.2	2.4	6.0	0.2	3.1
水口地域(N=510)	77.8	74.7	54.9	28.8	34.3	23.7	32.7	47.6	18.8	33.3	0.6	2.7	1.0	1.4
土山地域(N=117)	76.1	64.1	53.8	28.2	29.9	17.9	35.9	47.0	19.7	34.2	0.9	7.7	0.9	2.6
甲賀地域(N=147)	76.9	74.1	59.2	29.3	27.9	27.2	38.8	47.6	16.3	34.0	2.0	2.7	0.7	0.7
甲南地域(N=299)	73.2	67.9	47.8	31.1	35.8	24.7	34.1	41.5	16.1	37.8	2.0	3.7	0.7	5.0
信楽地域(N=165)	73.3	67.9	48.5	27.3	32.7	21.2	32.1	40.0	10.9	27.9	1.2	4.2	1.8	3.0
会社員(N=361)	75.1	74.2	54.3	36.6	38.2	28.0	36.3	44.3	18.6	34.1	1.1	2.5	1.1	1.9
公務員(N=55)	90.9	83.6	65.5	34.5	27.3	21.8	50.9	58.2	18.2	32.7	0.0	0.0	0.0	0.0
自営業(N=77)	83.1	67.5	59.7	33.8	32.5	24.7	27.3	41.6	15.6	36.4	1.3	2.6	3.9	1.3
パート・アルバイト(N=208)	79.8	80.8	56.3	33.2	37.0	25.5	45.2	52.9	14.9	37.0	1.0	1.9	0.5	2.4
学生(N=21)	76.2	85.7	61.9	33.3	28.6	19.0	19.0	33.3	19.0	23.8	0.0	4.8	4.8	0.0
専業主婦・主夫(N=139)	82.7	75.5	53.2	27.3	30.2	17.3	34.5	51.8	16.5	38.8	0.0	1.4	1.4	5.8
無職(N=338)	68.9	58.9	46.4	16.3	28.1	18.9	24.6	38.5	16.3	29.3	2.1	7.1	0.3	2.4
その他(N=47)	70.2	63.8	44.7	38.3	40.4	34.0	38.3	46.8	19.1	42.6	2.1	6.4	0.0	2.1

### 3 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

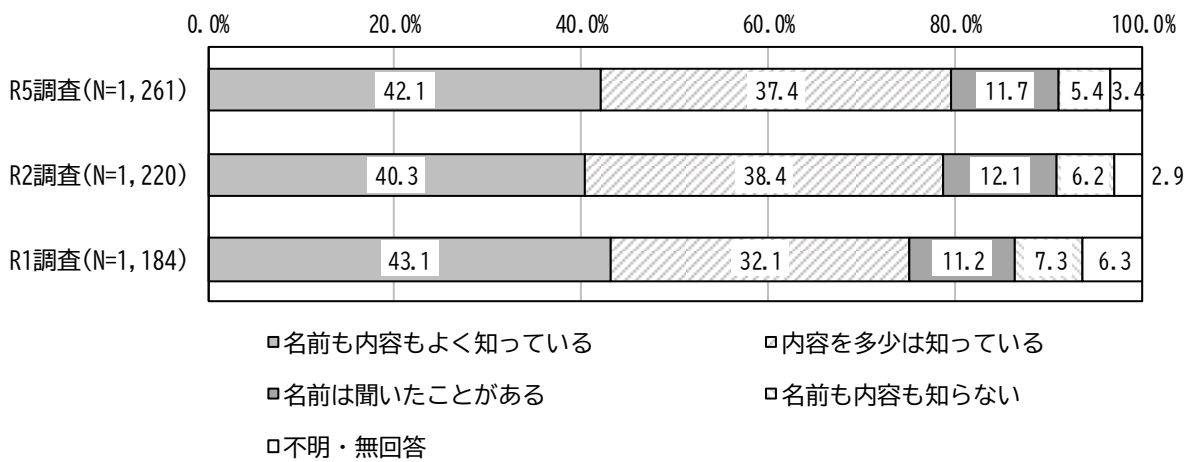
#### (1) 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「デートDV」の認知状況

◀問 16▶ あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「デートDV」をご存じですか。  
(それぞれ○は1つ)

##### ① DVの認知状況

令和元年度調査からの推移をみると、「名前も内容もよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。

■ 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」の認知度 (単数回答)



●全体でみると、「名前も内容もよく知っている」が 42.1%で最も多くなっており、以下、「内容を多少は知っている」が 37.4%、「名前は聞いたことがある」が 11.7%と続いている。『知っている』の割合は 79.5%となっている。

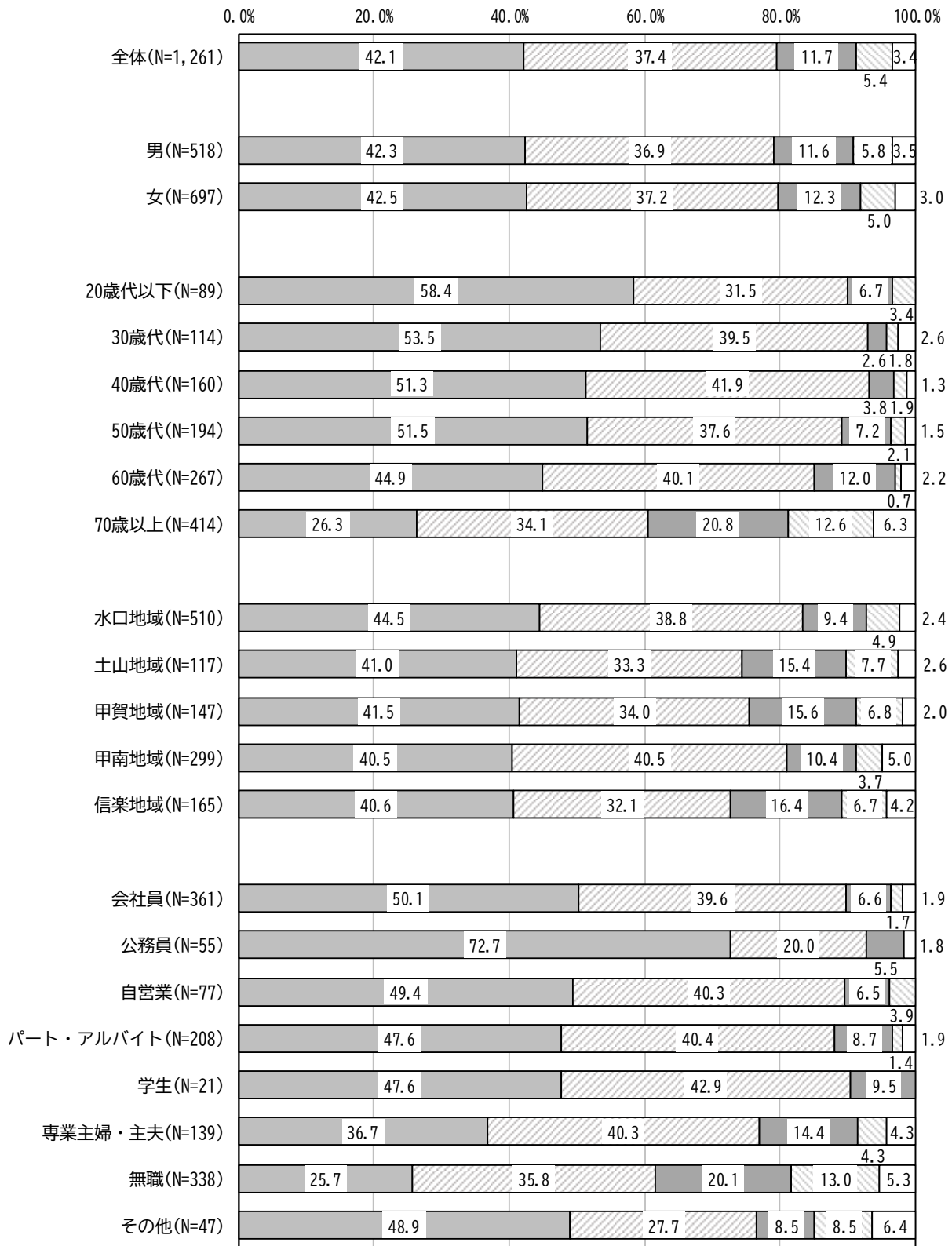
●性別にみると、男性、女性ともに「名前も内容もよく知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 79.2%、女性は 79.7%となっている。

●年代別にみると、70 歳以上は「内容を多少は知っている」が、他の年代では「名前も内容もよく知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 93.2%、以下、30 歳代で 93.0%、20 歳代以下で 89.9%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「名前も内容もよく知っている」が最も多くなっている（甲南地域は「内容を多少は知っている」と同率）。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 83.3%、以下、甲南地域で 81.0%、甲賀地域で 75.5%、土山地域で 74.3%、信楽地域で 72.7%と続いている。

●職業別にみると、専業主婦・主夫、無職は「内容を多少は知っている」が、他の職業では「名前も内容もよく知っている」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 92.7%、以下、学生で 90.5%、会社員、自営業で 89.7%と続いている。

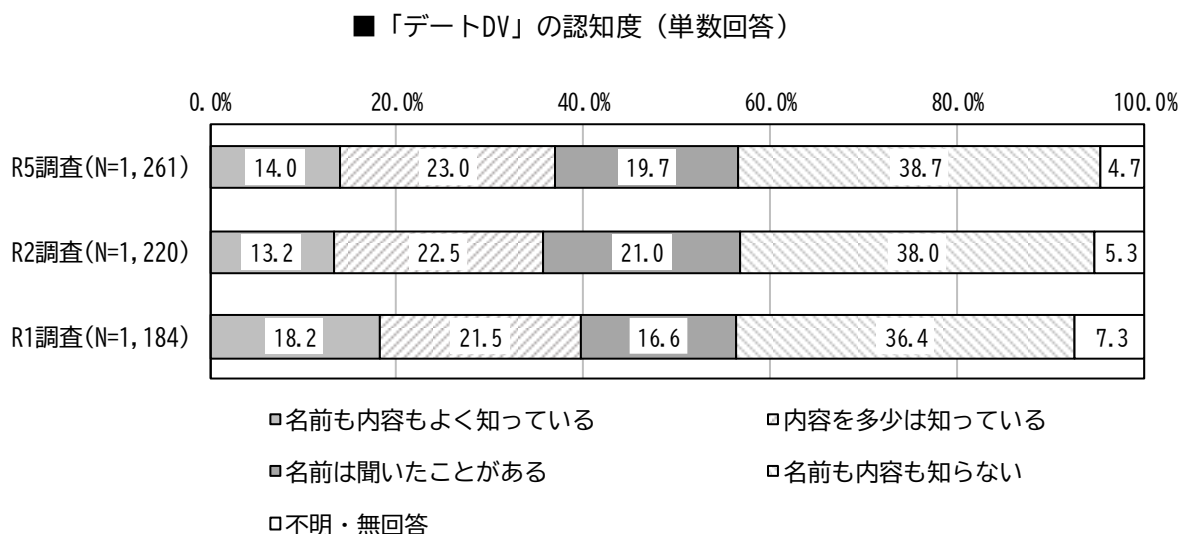
■ 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」 の認知度 (単数回答)



- 名前も内容もよく知っている
- 内容を多少は知っている
- 名前は聞いたことがある
- 名前も内容も知らない
- 不明・無回答

## ② デートDVの認知状況

令和元年度調査からの推移をみると、前回調査に比べ「名前も内容もよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合が増加している。



●全体でみると、「名前も内容も知らない」が 38.7%で最も多くなっており、以下、「内容を多少は知っている」が 23.0%、「名前は聞いたことがある」が 19.7%と続いている。『知っている』の割合は 37.0%となっている。

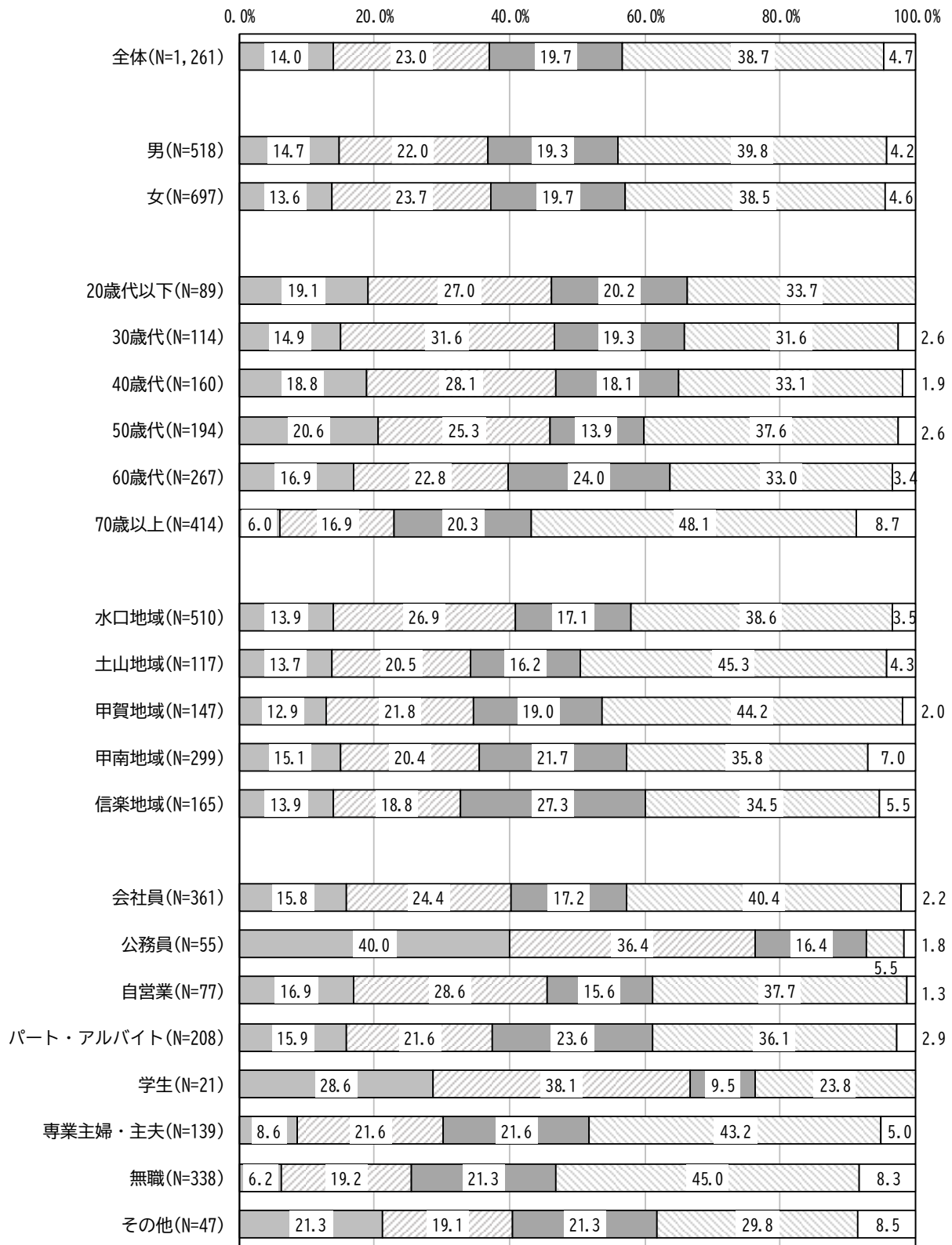
●性別にみると、男性、女性ともに「名前も内容も知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、男性は 36.7%、女性は 37.3%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「名前も内容も知らない」が最も多くなっている（30 歳代は「内容を多少は知っている」と同率）。『知っている』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 46.9%、以下、30 歳代で 46.5%、20 歳代以下で 46.1%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「名前も内容も知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 40.8%、以下、甲南地域で 35.5%、甲賀地域で 34.7%、土山地域で 34.2%、信楽地域で 32.7%と続いている。

●職業別にみると、公務員は「名前も内容もよく知っている」が、学生は「内容を多少は知っている」が、他の職業では「名前も内容も知らない」が最も多くなっている。『知っている』の割合をみると、最も多いのは公務員で 76.4%、以下、学生で 66.7%、自営業で 45.5%と続いている。

■「デートDV」の認知度（単数回答）



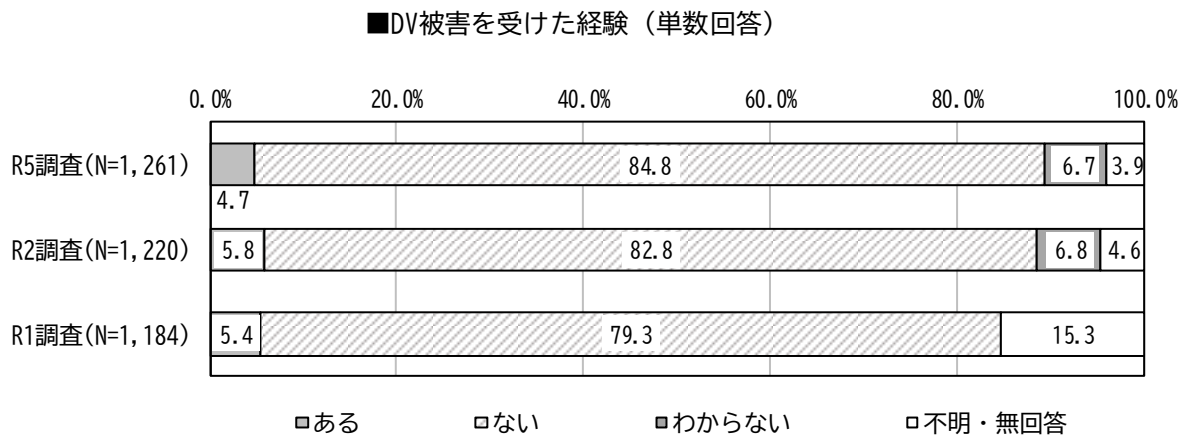
- 名前も内容もよく知っている
- 内容を多少は知っている
- 名前は聞いたことがある
- 名前も内容も知らない
- 不明・無回答

(2) DVやデートDVの経験や相談等の経験の有無

「問 17」 あなたは、DV やデート DV を見聞きしたり、被害にあった人から相談を受けたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

① DV 被害を受けたこと

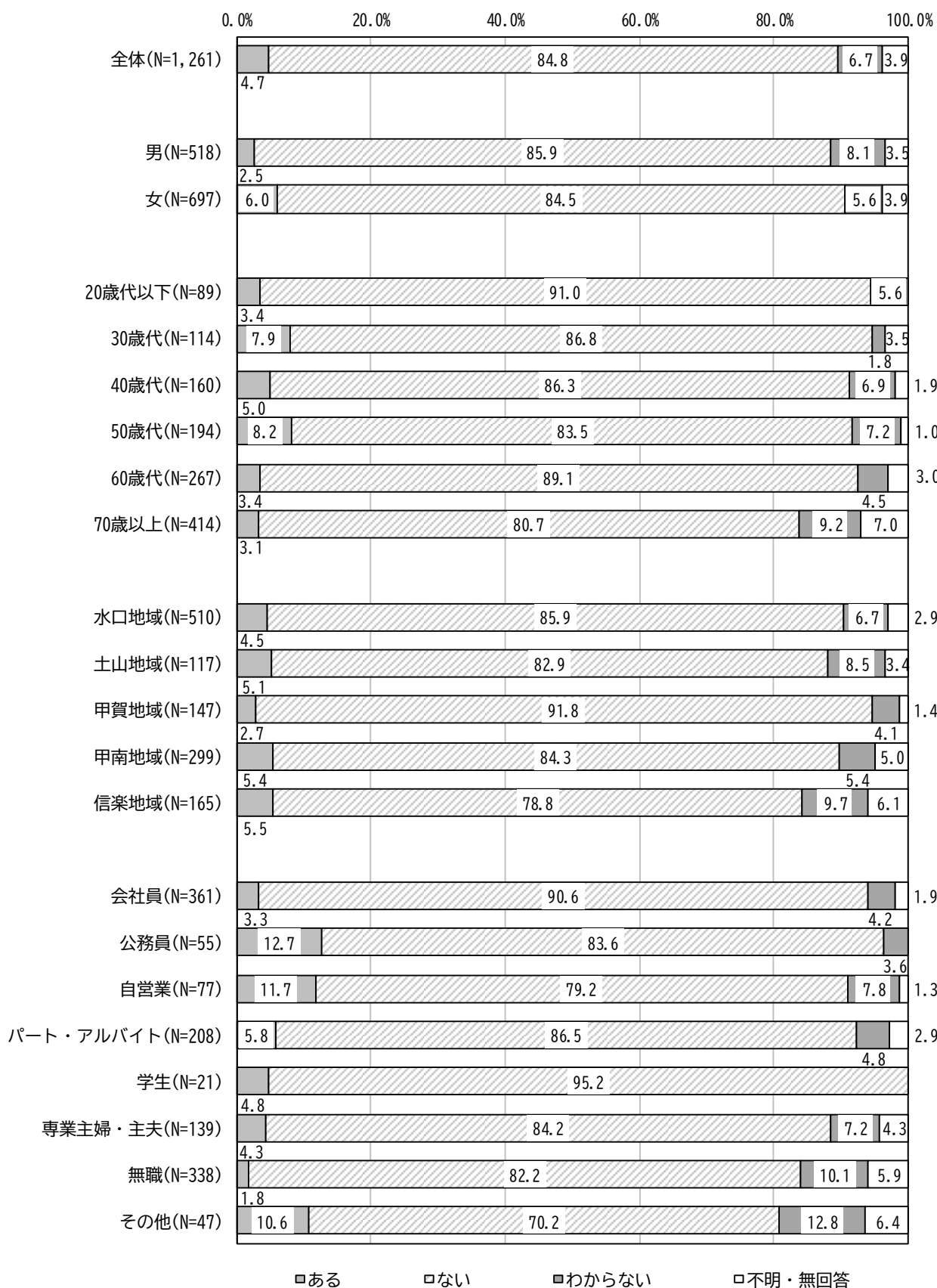
令和元年度調査からの推移をみると、「ない」の割合が増加している。



※R1調査では「わからない」の選択肢がないため、R2調査以降との比較には注意が必要です。

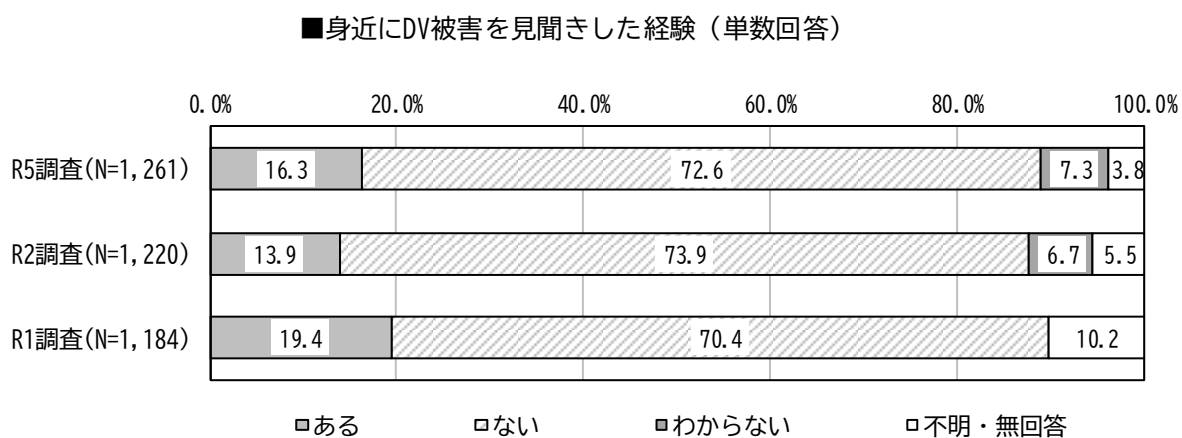
- 全体でみると、「ある」が4.7%、「ない」が84.8%、「わからない」が6.7%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、男性は2.5%、女性は6.0%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは50歳代で8.2%、以下、30歳代で7.9%、40歳代で5.0%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは信楽地域で5.5%、以下、甲南地域で5.4%、土山地域で5.1%、水口地域で4.5%、甲賀地域で2.7%と続いている。
- 職業別にみると、すべての職業において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは公務員で12.7%、以下、自営業で11.7%、その他で10.6%と続いている。

■DV被害を受けた経験（単数回答）



## ② 身近に DV 被害を見聞きしたこと

令和元年度調査からの推移をみると、前回調査に比べ「ある」の割合が増加している。

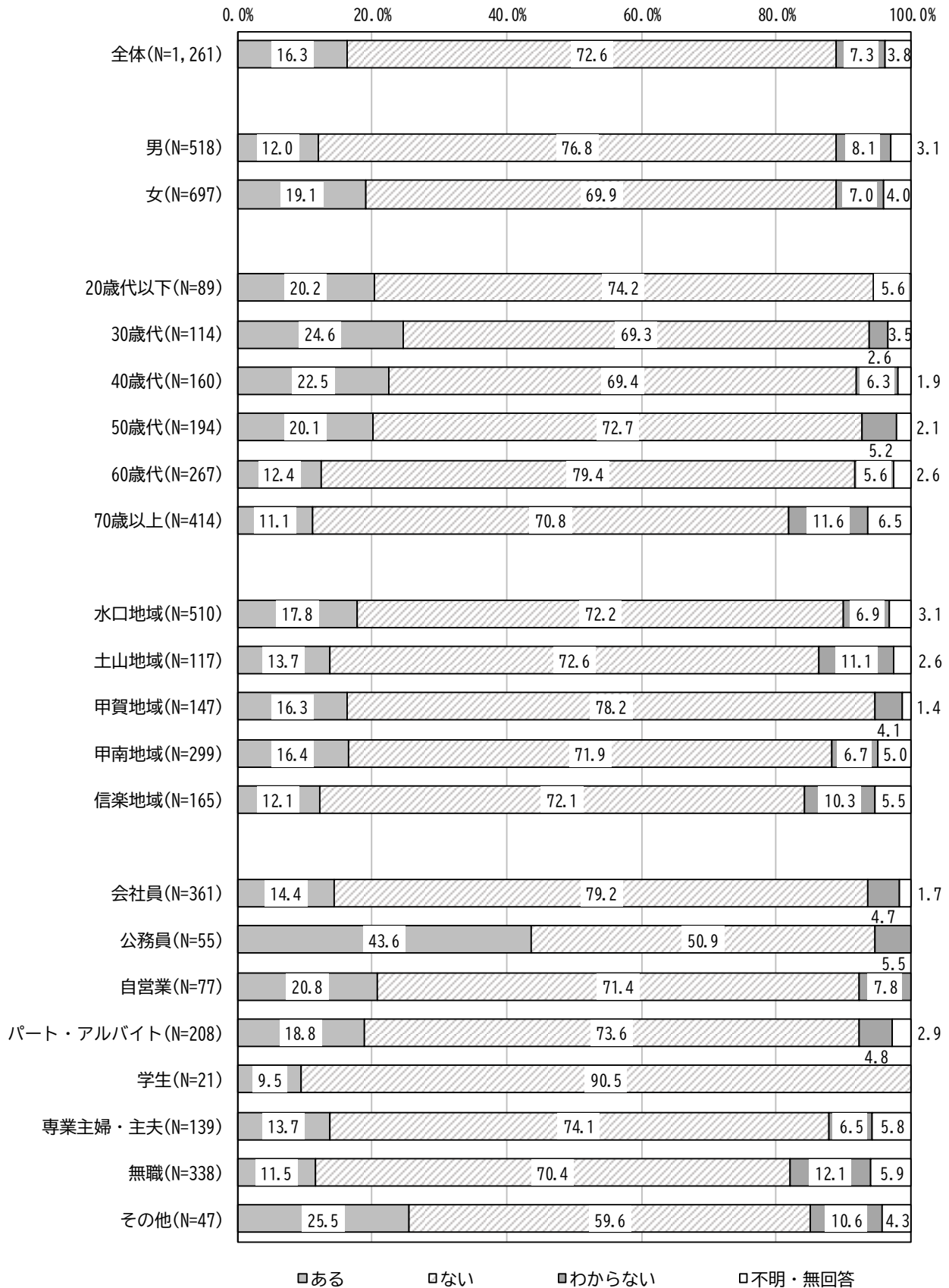


※R1調査では「わからない」の選択肢がないため、R2調査以降との比較には注意が必要です。

- 全体でみると、「ある」が16.3%、「ない」が72.6%、「わからない」が7.3%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、男性は12.0%、女性は19.1%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは30歳代で24.6%、以下、40歳代で22.5%、20歳代以下で20.2%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは水口地域で17.8%、以下、甲南地域で16.4%、甲賀地域で16.3%、土山地域で13.7%、信楽地域で12.1%と続いている。
- 職業別にみると、すべての職業において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは公務員で43.6%、以下、その他で25.5%、自営業で20.8%と続いている。



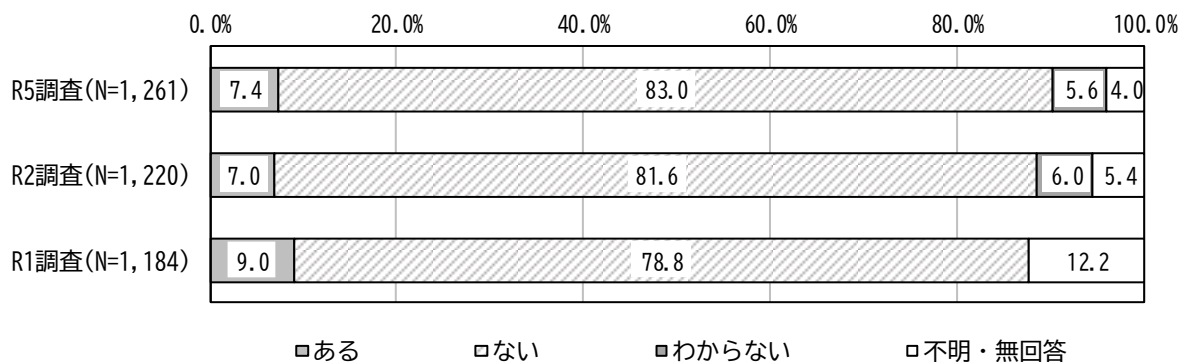
■身近にDV被害を見聞きした経験（単数回答）



### ③ 被害にあった人からの相談

令和元年度調査からの推移をみると、前回調査に比べ「ある」「ない」の割合がともに増加している。

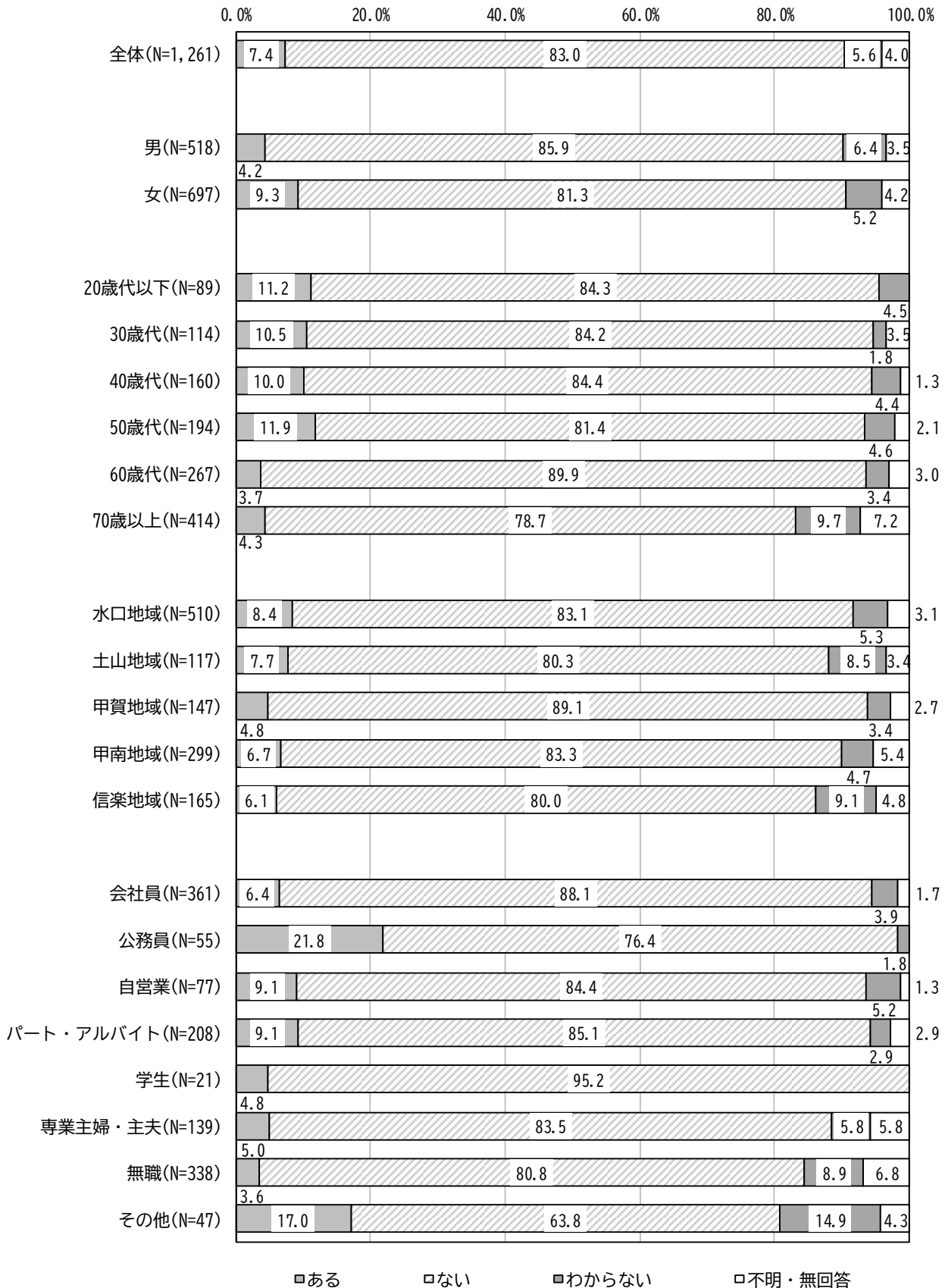
■被害にあった人からの相談を受けた経験（単数回答）



※R1調査では「わからない」の選択肢がないため、R2調査以降との比較には注意が必要です。

- 全体で見ると、「ある」が7.4%、「ない」が83.0%、「わからない」が5.6%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、男性は4.2%、女性は9.3%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは50歳代で11.9%、以下、20歳代以下で11.2%、30歳代で10.5%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは水口地域で8.4%、以下、土山地域で7.7%、甲南地域で6.7%、信楽地域で6.1%、甲賀地域で4.8%と続いている。
- 職業別にみると、すべての職業において「ない」が最も多くなっている。「ある」の割合をみると、最も多いのは公務員で21.8%、以下、その他で17.0%、自営業、パート・アルバイトで9.1%と続いている。

■被害にあった人からの相談を受けた経験（単数回答）

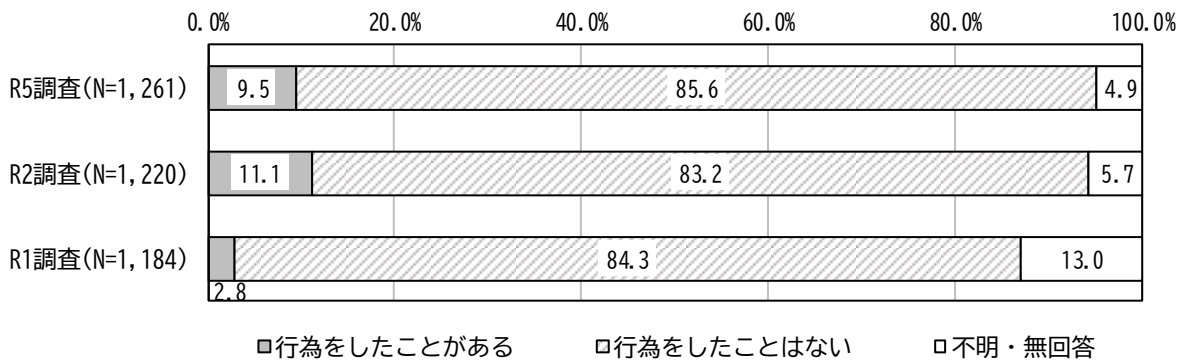


### (3) 身体的・心理的暴力と考える行為について

「問 18」 あなたは、身体的・心理的暴力と考える行為をしたことがありますか。(○は1つ)

令和元年度調査からの推移をみると、前回調査に比べ「行為をしたことがある」の割合が減少し、「行為をしたことはない」の割合が増加している。

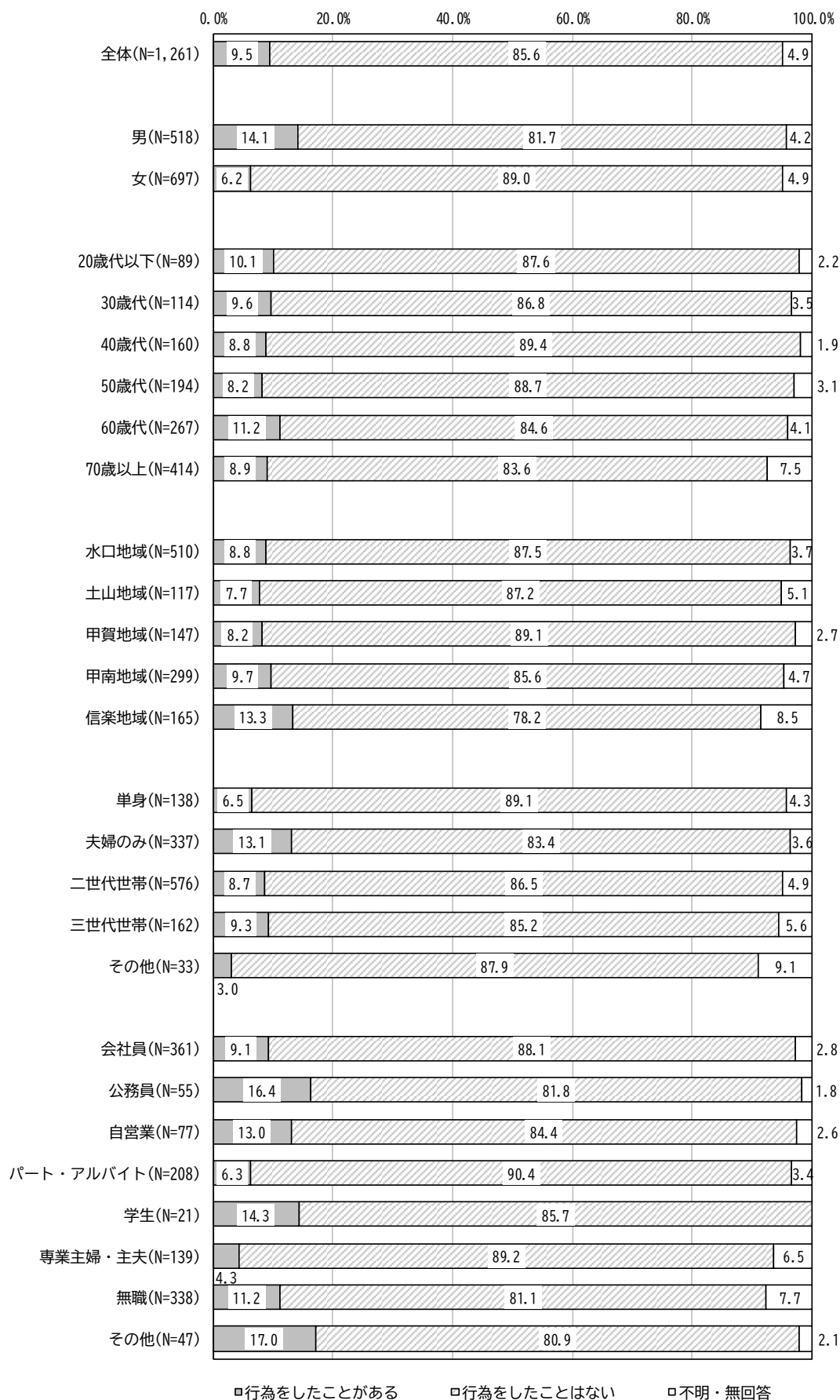
■身体的・心理的暴力と考える行為の経験（単数回答）



※R1調査では複数回答で「身体的な暴力」「心理的な暴力」「性的な暴力」「経済的な暴力」「子どもを利用した暴力」「ない」を質問し、それらについての回答数を今回調査として比較しています。R2調査以降との比較には注意が必要です。

- 全体でみると、「行為をしたことがある」が9.5%、「行為をしたことはない」が85.6%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「行為をしたことはない」が最も多くなっている。「行為をしたことがある」の割合をみると、男性は14.1%、女性は6.2%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「行為をしたことはない」が最も多くなっている。「行為をしたことがある」の割合をみると、最も多いのは60歳代で11.2%、以下、20歳代以下で10.1%、30歳代で9.6%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「行為をしたことはない」が最も多くなっている。「行為をしたことがある」の割合をみると、最も多いのは信楽地域で13.3%、以下、甲南地域で9.7%、水口地域で8.8%、甲賀地域で8.2%、土山地域で7.7%と続いている。
- 世帯(同居)構成別にみると、すべての構成において「行為をしたことはない」が最も多くなっている。「行為をしたことがある」の割合をみると、最も多いのは夫婦のみで13.1%、以下、三世帯世帯で9.3%、二世帯世帯で8.7%と続いている。
- 職業別にみると、すべての職業において「行為をしたことはない」が最も多くなっている。「行為をしたことがある」の割合をみると、最も多いのはその他で17.0%、以下、公務員で16.4%、学生で14.3%と続いている。

■身体的・心理的暴力と考える行為の経験（単数回答）



(4) DVIに関する相談窓口の認知状況

「問 19」 あなたは、DV について相談できる窓口をご存じですか。(○はいくつでも)

令和元年度調査からの推移をみると、前回調査に比べ「警察」「市の機関(家庭児童相談室)」「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」「こころんダイヤル」「県立精神保健福祉センター」「こころの電話相談」「おうみ犯罪被害者支援センター」の割合が増加している。

■DVIに関する相談窓口の認知度(複数回答)

	女(子ども共同参画センター)	配偶者暴力相談支援センター・男	警察	法務局・人権擁護委員・人権なんでも相談	市の機関(家庭児童相談室)	市の機関(男女の悩みごと相談窓口)	民生委員・児童委員	法務局女性の権利ホットライン	こころんダイヤル	県立精神保健福祉センター	こころの電話相談	おうみ犯罪被害者支援センター	知らない	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	18.9	56.5	13.6	22.6	26.0	21.2	4.0	9.3	3.0	26.0	2.7	21.9	0.7	3.6	
R2調査(N=1,220)	22.4	55.9	19.0	21.5	24.3	23.1	5.5	6.8	2.9	17.5	2.5	23.3	0.7	3.8	
R1調査(N=1,184)	9.4	38.3	10.5	11.3	14.4	13.1	2.9	5.9	1.7	11.0	3.0	30.7	0.8	18.0	

●全体でみると、「警察」が 56.5%で最も多くなっており、以下、「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」、「こころの電話相談」が 26.0%、「市の機関(家庭児童相談室)」が 22.6%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「警察」が最も多くなっており、次いで、男性は「知らない」が、女性は「こころの電話相談」が多くなっている。

●年代別にみると、すべての年代において「警察」が最も多くなっており、次いで、30 歳代は「市の機関(家庭児童相談室)」が、70 歳以上は「民生委員・児童委員」が、他の年代は「こころの電話相談」が多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「警察」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「警察」が最も多くなっており、次いで、3年未満は「知らない」が、他の年数では「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」が多くなっている(3年～10年未満は「こころの電話相談」と同率)。

●世帯(同居)構成別にみると、すべての構成において「警察」が最も多くなっており、次いで、単身、二世帯世帯は「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」が、夫婦のみは「民生委員・児童委員」が、他の構成では「こころの電話相談」が多くなっている。

●職業別にみると、すべての職業において「警察」が最も多くなっており、次いで、会社員、パート・アルバイト、学生は「こころの電話相談」が、公務員は「市の機関(家庭児童相談室)」が、自営業、専業主婦・主夫は「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」が、無職は「民生委員・児童委員」が、その他は「法務局・人権擁護委員・人権なんでも相談」が多くなっている。

■DVに関する相談窓口の認知度（複数回答）

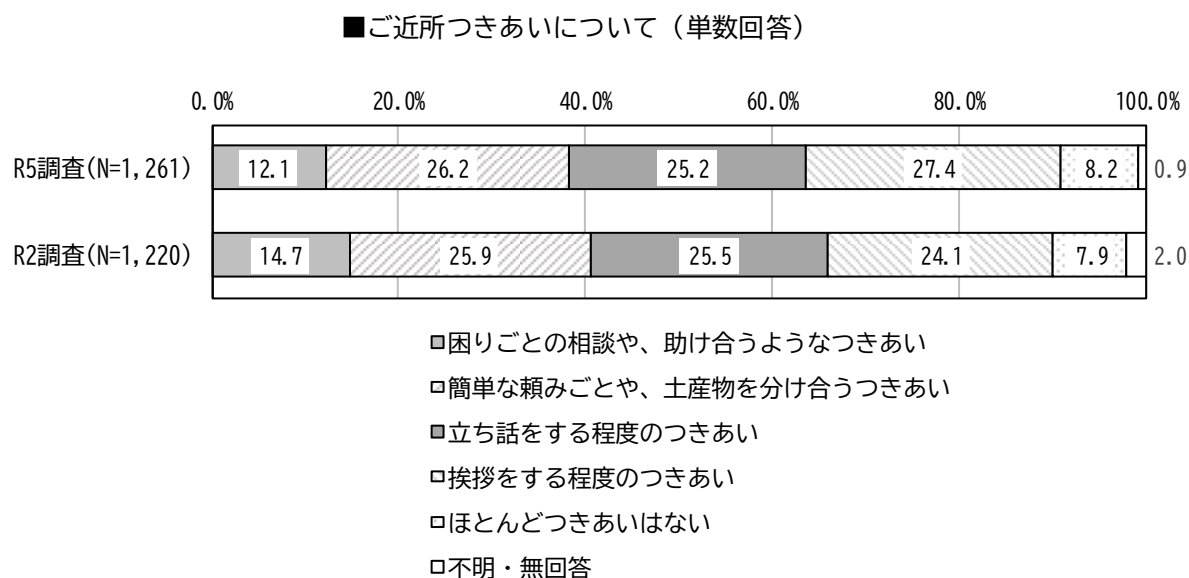
	女 共 同 参 画 セ ン タ ー （ 配 偶 者 暴 力 相 談 支 援 セ ン タ ー ・ 男 子 も 家 庭 相 談 セ ン タ ー ）	警 察	法 務 局 ・ 人 権 擁 護 委 員 ・ 人 権 な ん で も 相 談	市 の 機 関 （ 家 庭 児 童 相 談 室 ）	市 の 機 関 （ 男 女 の 悩 み ご と 相 談 窓 口 ）	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	法 務 局 女 性 の 人 権 ホ ッ ト ラ イ ン	こ こ ろ ん ダ イ ヤ ル	県 立 精 神 保 健 福 祉 セ ン タ ー	こ こ ろ の 電 話 相 談	お う み 犯 罪 被 害 者 支 援 セ ン タ ー	知 ら な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体(N=1,261)	18.9	56.5	13.6	22.6	26.0	21.2	4.0	9.3	3.0	26.0	2.7	21.9	0.7	3.6
男(N=518)	18.7	53.3	16.8	25.7	22.4	22.8	3.9	9.1	3.9	19.7	2.7	25.9	1.0	3.7
女(N=697)	18.8	59.0	11.3	20.5	28.8	20.1	4.0	9.2	2.4	31.3	2.6	19.2	0.6	3.2
20歳以下(N=89)	21.3	53.9	5.6	15.7	11.2	4.5	2.2	14.6	1.1	37.1	2.2	21.3	0.0	1.1
30歳代(N=114)	18.4	66.7	7.0	23.7	21.9	6.1	5.3	12.3	2.6	21.1	3.5	20.2	0.0	2.6
40歳代(N=160)	20.0	65.0	10.0	23.1	20.0	10.0	1.3	10.0	2.5	25.0	1.9	21.3	0.6	1.3
50歳代(N=194)	23.7	66.5	16.0	27.3	29.4	17.0	6.2	10.3	3.6	30.4	3.1	18.6	1.5	2.1
60歳代(N=267)	15.7	61.8	16.5	23.6	28.1	25.1	5.6	10.1	2.6	30.0	1.9	19.1	0.7	2.6
70歳以上(N=414)	17.6	43.2	15.7	21.3	29.5	32.4	2.9	5.8	3.9	21.0	3.1	26.3	0.7	6.3
水口地域(N=510)	19.4	61.8	12.5	22.9	26.5	16.9	3.3	8.6	3.3	28.6	2.7	20.0	0.4	2.5
土山地域(N=117)	16.2	43.6	13.7	23.9	28.2	23.1	4.3	8.5	3.4	32.5	3.4	29.1	1.7	4.3
甲賀地域(N=147)	22.4	53.1	15.6	23.1	24.5	31.3	3.4	14.3	3.4	26.5	3.4	23.8	0.7	1.4
甲南地域(N=299)	18.1	58.2	14.7	22.4	25.1	21.4	5.0	9.0	3.3	21.4	2.3	20.7	1.0	5.7
信楽地域(N=165)	17.0	50.3	13.3	21.8	25.5	23.0	4.2	7.3	1.2	21.8	1.8	23.6	0.6	3.6
3年未満(N=44)	22.7	61.4	9.1	18.2	13.6	2.3	2.3	4.5	0.0	27.3	0.0	29.5	0.0	0.0
3年～10年未満(N=92)	19.6	58.7	6.5	20.7	21.7	6.5	2.2	8.7	1.1	21.7	2.2	19.6	0.0	3.3
10年以上(N=1,096)	18.7	56.4	14.5	23.2	26.8	23.2	4.2	9.5	3.4	26.5	2.8	21.8	0.8	3.6
単身(N=138)	19.6	50.7	18.1	21.7	26.1	20.3	0.7	3.6	1.4	18.8	2.9	23.2	0.0	2.9
夫婦のみ(N=337)	19.0	52.8	13.1	23.4	26.7	27.0	4.7	6.8	3.0	26.7	2.4	22.6	0.3	4.2
二世帯世帯(N=576)	18.1	62.2	12.7	23.1	26.6	18.6	4.7	9.9	2.8	26.0	3.0	21.7	0.7	2.8
三世帯世帯(N=162)	21.0	48.8	14.8	19.8	25.3	20.4	2.5	15.4	4.9	31.5	1.9	22.8	1.9	3.7
その他(N=33)	18.2	63.6	12.1	21.2	18.2	15.2	6.1	18.2	6.1	24.2	6.1	9.1	3.0	3.0
会社員(N=361)	18.8	60.4	10.5	19.9	19.1	14.1	3.3	10.0	2.8	24.9	1.4	22.7	0.3	1.7
公務員(N=55)	49.1	83.6	36.4	52.7	47.3	25.5	9.1	23.6	7.3	32.7	7.3	5.5	0.0	0.0
自営業(N=77)	24.7	61.0	16.9	26.0	28.6	16.9	6.5	7.8	2.6	27.3	3.9	24.7	2.6	1.3
パート・アルバイト(N=208)	14.9	63.0	9.1	23.1	30.3	20.2	3.8	11.5	1.9	33.7	2.9	17.3	1.0	3.4
学生(N=21)	14.3	42.9	0.0	19.0	0.0	4.8	0.0	14.3	0.0	33.3	4.8	23.8	0.0	0.0
専業主婦・主夫(N=139)	15.1	52.5	14.4	25.9	33.8	25.9	5.8	6.5	2.9	33.1	2.9	20.1	0.0	4.3
無職(N=338)	16.3	45.9	13.9	18.0	25.1	29.0	2.1	5.3	2.7	18.3	2.4	27.2	0.6	6.2
その他(N=47)	25.5	55.3	29.8	25.5	27.7	21.3	10.6	17.0	10.6	25.5	6.4	19.1	4.3	0.0

## 4 近所づきあいやボランティアについて

### (1) 近所で最も親しくしている人との日頃のつきあい

「問 20」 あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか。  
(○は1つ)

前回の調査と比較すると、「困りごとの相談や、助け合うようなつきあい」「立ち話をする程度のつきあい」の割合が減少している。



●全体で見ると、「挨拶をする程度のつきあい」が 27.4%で最も多くなっており、以下、「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が 26.2%、「立ち話をする程度のつきあい」が 25.2%と続いている。

●性別にみると、男性は「挨拶をする程度のつきあい」が、女性は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が最も多くなっている。

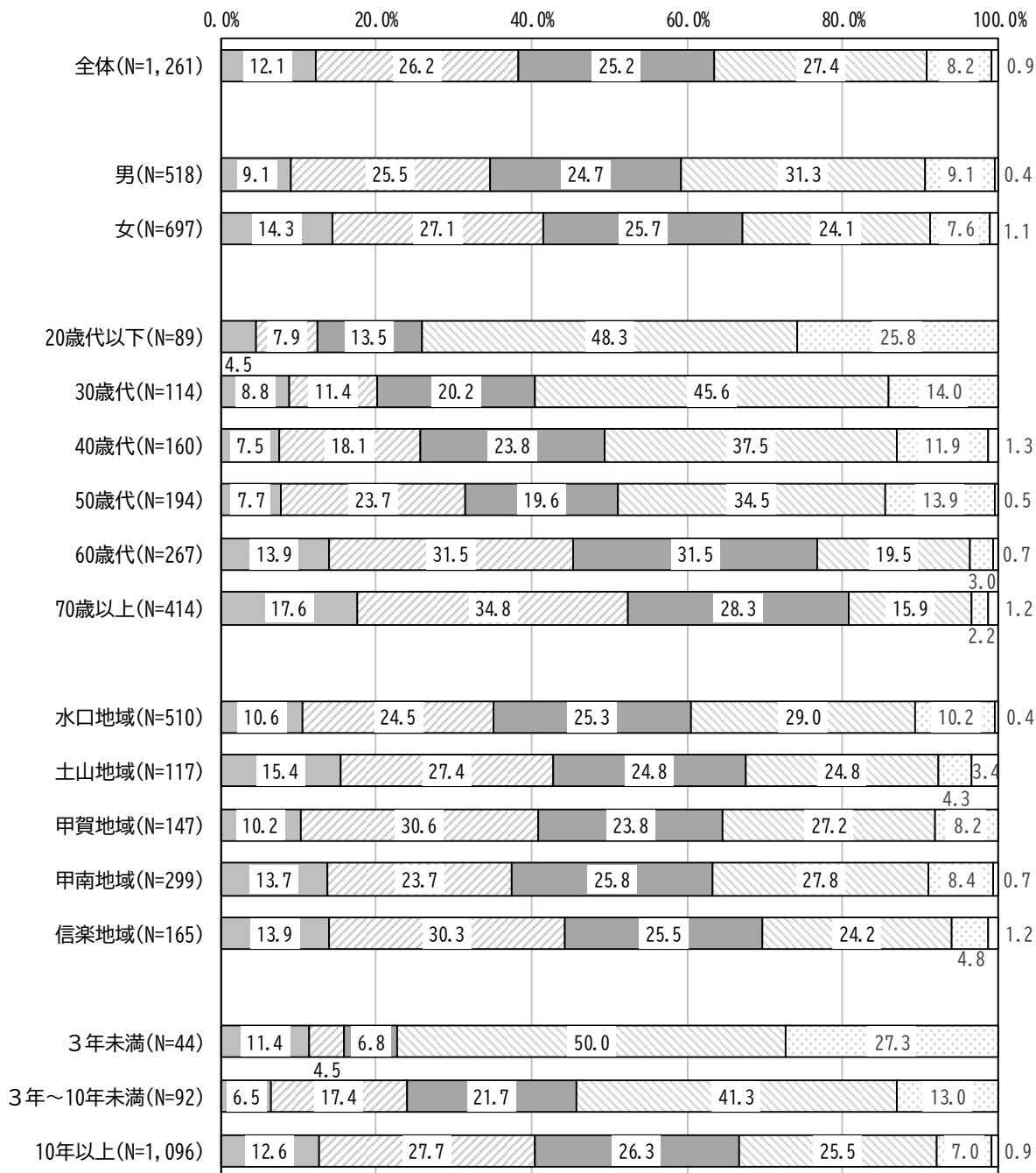
●年代別にみると、60 歳代、70 歳以上は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が、他の年代では「挨拶をする程度のつきあい」が最も多くなっている(60 歳代は「立ち話をする程度のつきあい」と同率)。

●居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「挨拶をする程度のつきあい」が、他の地域では「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、10年以上は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が、他の年数では「挨拶をする程度のつきあい」が最も多くなっている。



■ご近所つきあいについて（単数回答）



- 困りごとの相談や、助け合うようなつきあい
- 簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい
- 立ち話をする程度のつきあい
- 挨拶をする程度のつきあい
- ほとんどつきあいはない
- 不明・無回答

(2) 日頃、生活の困りごとについて相談する相手

「問 21」 あなたが日頃、生活の困りごとについて相談する相手はどなたですか。  
(○はいくつでも)

前回の調査と比較すると、「家族・親戚」「行政の職員」「相談する人がいない」の割合が増加している。

■生活の困りごとについて相談する相手（複数回答）

	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	区・自治会等の地域の役員	民生委員・児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政の職員	社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	83.4	46.5	11.3	2.5	2.8	4.3	3.4	1.7	4.4	1.7	1.5
R2調査(N=1,220)	82.8	47.0	14.3	3.5	3.7	7.0	2.8	1.9	4.3	1.1	2.5

●全体で見ると、「家族・親戚」が 83.4%で最も多くなっており、以下、「知人・友人・職場の同僚」が 46.5%、「近所の人」が 11.3%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「家族・親戚」が最も多くなっており、次いで、「知人・友人・職場の同僚」が多くなっている。

●年代別にみると、すべての年代において「家族・親戚」が最も多くなっており、次いで、「知人・友人・職場の同僚」が多くなっている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「家族・親戚」が最も多くなっており、次いで、「知人・友人・職場の同僚」が多くなっている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「家族・親戚」が最も多くなっており、次いで、「知人・友人・職場の同僚」が多くなっている。

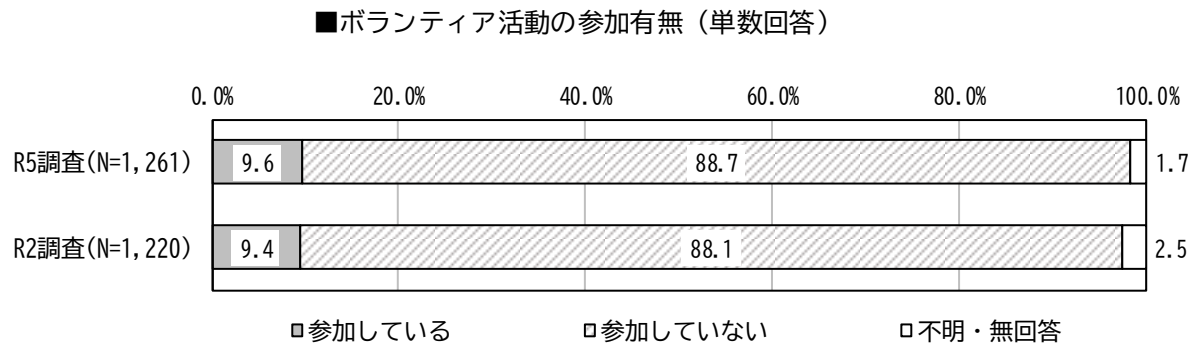
■生活の困りごとについて相談する相手（複数回答）

	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	区・自治会等の地域の役員	民生委員・児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政の職員	社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	不明・無回答
全体(N=1,261)	83.4	46.5	11.3	2.5	2.8	4.3	3.4	1.7	4.4	1.7	1.5
男(N=518)	80.5	38.6	10.0	3.3	4.4	4.2	4.1	2.9	6.6	2.7	1.7
女(N=697)	85.7	51.9	12.3	1.4	1.6	3.7	2.7	1.0	2.6	1.0	1.3
20歳代以下(N=89)	87.6	71.9	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	1.1	1.1
30歳代(N=114)	86.8	66.7	7.0	0.0	0.0	2.6	1.8	0.0	4.4	1.8	0.0
40歳代(N=160)	83.1	57.5	5.0	2.5	0.0	3.1	0.6	0.6	5.6	0.6	2.5
50歳代(N=194)	81.4	55.7	6.7	1.0	3.1	3.6	5.7	1.0	7.2	2.6	0.5
60歳代(N=267)	82.8	47.9	11.2	2.6	2.2	4.1	2.6	0.7	3.4	1.5	1.5
70歳以上(N=414)	83.6	26.6	19.3	3.4	5.3	6.0	5.1	4.1	3.4	1.9	1.9
水口地域(N=510)	83.7	49.4	10.6	2.9	3.3	3.5	3.5	2.2	5.1	2.2	1.6
土山地域(N=117)	85.5	41.0	7.7	0.9	0.9	4.3	0.9	0.9	3.4	0.9	3.4
甲賀地域(N=147)	85.0	38.1	12.9	3.4	4.1	6.1	2.0	1.4	2.7	2.0	0.7
甲南地域(N=299)	81.3	48.2	13.0	1.3	2.0	3.3	4.0	0.3	4.3	1.0	1.0
信楽地域(N=165)	84.8	47.3	10.9	1.8	2.4	5.5	4.8	4.2	3.6	1.8	1.2
3年未満(N=44)	81.8	63.6	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	11.4	0.0	0.0
3年～10年未満(N=92)	93.5	52.2	3.3	0.0	0.0	1.1	3.3	0.0	3.3	2.2	1.1
10年以上(N=1,096)	82.8	45.5	12.1	2.5	3.1	4.6	3.6	1.8	4.1	1.7	1.6

(3) ボランティア活動について

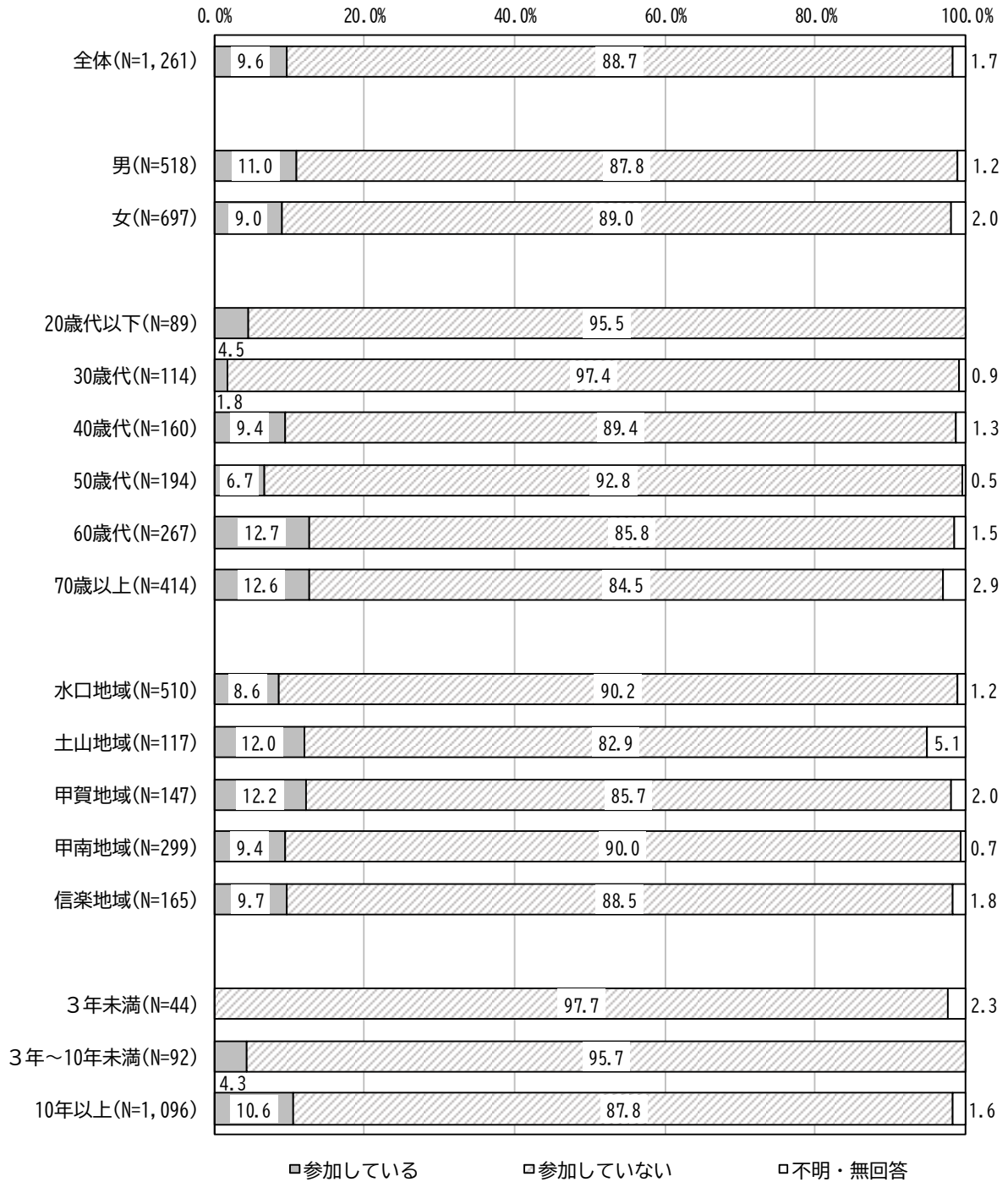
「問 22」 あなたは、現在、ボランティア活動に参加されていますか。(○は1つ)

前回の調査と比較すると、「参加している」「参加していない」の割合がともに増加している。



- 全体で見ると、「参加している」が9.6%、「参加していない」が88.7%となっている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「参加していない」が最も多くなっている。「参加している」の割合をみると、男性は11.0%、女性は9.0%となっている。
- 年代別にみると、すべての年代において「参加していない」が最も多くなっている。「参加している」の割合をみると、最も多いのは60歳代で12.7%、以下、70歳以上で12.6%、40歳代で9.4%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「参加していない」が最も多くなっている。「参加している」の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で12.2%、以下、土山地域で12.0%、信楽地域で9.7%、甲南地域で9.4%、水口地域で8.6%と続いている。
- 居住年数別にみると、すべての年数において「参加していない」が最も多くなっている。「参加している」の割合をみると、最も多いのは10年以上で10.6%、以下、3年～10年未満で4.3%(3年未満で0.0%)と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■ボランティア活動の参加有無（単数回答）



「問 22-1」 問22 で「参加している」と回答された方におたずねします。  
 それはどのような活動ですか。活動の内容をお書きください。(自由記述)

ボランティア活動について 110 人、延べ 149 件の回答があり、それらを総合計画の 20 の分野ごとに整理した。なお、総合計画で記載している分野の番号順にまとめており、回答のなかった分野は記載していない。

区分		件数
①	市民自治	21
	1 区・自治会	4
	2 自治振興会	1
	3 その他	16
②	市民共生	5
	1 人権活動	3
	2 多文化共生（外国人の支援）	2
③	環境・景観	29
	1 清掃活動、ごみ拾い、草刈	26
	2 環境保全活動	3
④	生涯学習・文化・スポーツ	11
	1 生涯学習	4
	2 音楽・文化・スポーツ	7
⑤	地域福祉	39
	1 高齢者福祉（いきいきサロン、高齢者の家事サポートなど）	28
	2 障がい福祉	5
	3 更生保護	3
	4 その他	3
⑥	保健医療	10
	1 日赤奉仕団	4
	2 健康増進	6
⑦	安全・防災	16
	1 子どもたちの見守り活動・スクールガード	9
	2 災害支援・防災活動	7
⑧	農林畜水産	1
	1 農家支援	1
⑨	子ども・子育て	13
	1 音楽・読み聞かせサークル	4
	2 子育てサークル	1
	3 子ども食堂	4
	4 児童養護施設への支援	2
	5 その他	2
⑩	学校教育・青少年	4
	1 学内イベント	2
	2 その他	2
合計		149

(4) ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動

「問 23」 今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

前回の調査と比較すると、「相談窓口の充実」「専門性のある職員やアドバイザーの配置」「活動拠点の確保」「啓発のための広報の充実」の割合が増加している。

■ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動（複数回答）

	相談窓口の充実	専門性のある職員やアドバイザーの配置	活動拠点の確保	啓発のための広報の充実	学校での福祉教育の充実	職場のボランティア休暇の充実	その他	不明・無回答
R5調査(N=1, 261)	31.7	32.2	31.6	29.3	16.1	20.8	5.0	11.0
R2調査(N=1, 220)	29.1	28.9	28.2	27.3	20.8	23.9	4.6	13.2

●全体でみると、「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が 32.2%で最も多くなっており、以下、「相談窓口の充実」が 31.7%、「活動拠点の確保」が 31.6%と続いている。

●性別にみると、男性は「活動拠点の確保」が、女性は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が最も多くなっており、次いで、男性、女性ともに「相談窓口の充実」が多くなっている。

●年代別にみると、20 歳代以下は「活動拠点の確保」「学校での福祉教育の充実」が、30 歳代は「活動拠点の確保」「職場のボランティア休暇の充実」が、70 歳以上は「相談窓口の充実」が、他の年代では「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、甲南地域、信楽地域は「相談窓口の充実」が、他の地域では「活動拠点の確保」が最も多くなっている（信楽地域は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」と同率）。

●居住年数別にみると、10年以上は「相談窓口の充実」が、他の年数では「啓発のための広報の充実」が最も多くなっている。

■ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動（複数回答）

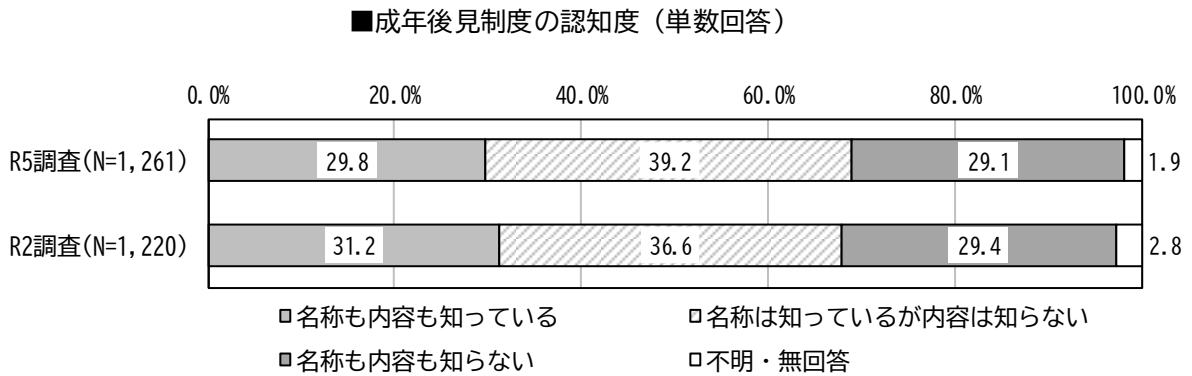
	相談窓口の充実	専門性のある職員やアドバイザーの配置	活動拠点の確保	啓発のための広報の充実	学校での福祉教育の充実	職場のボランティア休暇の充実	その他	不明・無回答
全体(N=1,261)	31.7	32.2	31.6	29.3	16.1	20.8	5.0	11.0
男(N=518)	31.5	29.5	33.4	30.1	14.1	22.0	7.1	10.4
女(N=697)	32.4	33.7	29.7	28.6	18.1	19.2	3.6	11.2
20歳代以下(N=89)	21.3	21.3	30.3	28.1	30.3	27.0	5.6	5.6
30歳代(N=114)	23.7	25.4	35.1	24.6	23.7	35.1	6.1	5.3
40歳代(N=160)	30.0	35.6	34.4	29.4	21.3	31.3	3.8	5.0
50歳代(N=194)	33.0	33.5	31.4	31.4	14.9	30.9	5.7	4.6
60歳代(N=267)	34.5	37.1	33.0	36.7	12.4	17.2	3.7	9.4
70歳以上(N=414)	35.3	31.6	28.7	24.9	12.3	8.5	5.8	19.3
水口地域(N=510)	30.8	30.8	32.0	30.0	16.7	22.5	5.5	10.0
土山地域(N=117)	28.2	35.0	36.8	22.2	20.5	17.9	4.3	14.5
甲賀地域(N=147)	23.1	26.5	38.8	25.2	15.0	21.1	6.1	9.5
甲南地域(N=299)	38.5	35.5	28.1	33.1	15.4	20.1	4.0	10.0
信楽地域(N=165)	34.5	34.5	26.1	28.5	14.5	17.0	5.5	12.7
3年未満(N=44)	25.0	29.5	29.5	38.6	27.3	27.3	9.1	6.8
3年～10年未満(N=92)	20.7	28.3	29.3	32.6	20.7	27.2	8.7	2.2
10年以上(N=1,096)	33.4	32.8	31.9	28.6	15.4	19.7	4.7	11.5



## 5 成年後見制度について

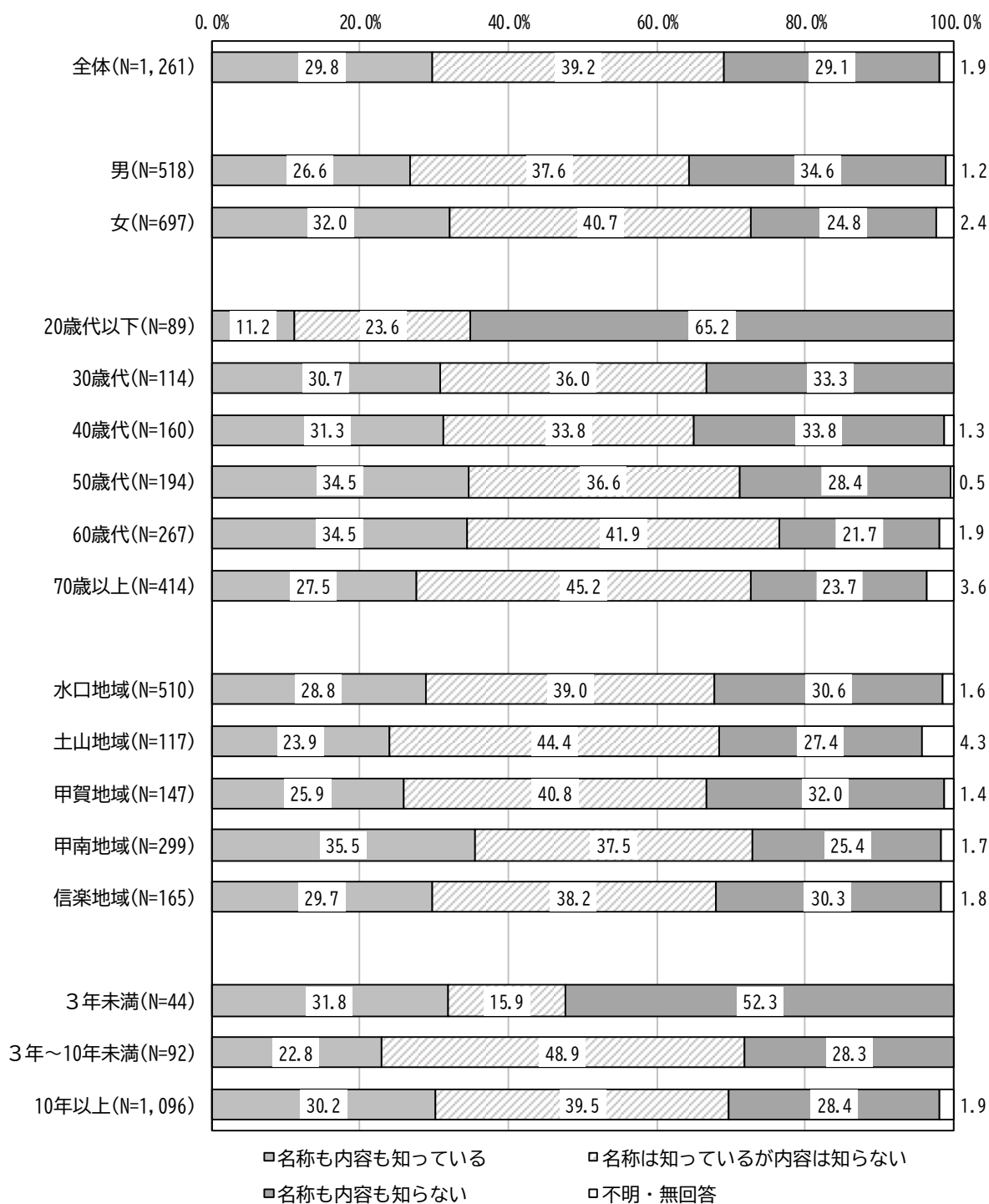
《問 24》 あなたは、成年後見制度をご存じですか。(○は1つ)

前回の調査と比較すると、「名称は知っているが内容は知らない」の割合が増加し、「名称も内容も知っている」「名称も内容も知らない」の割合が減少している。



- 全体で見ると、「名称は知っているが内容は知らない」が 39.2%で最も多くなっており、以下、「名称も内容も知っている」が 29.8%、「名称も内容も知らない」が 29.1%と続いている。
- 性別にみると、男性、女性ともに「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている。「名称も内容も知っている」の割合をみると、男性は 26.6%、女性は 32.0%となっている。
- 年代別にみると、20 歳代以下は「名称も内容も知らない」が、他の年代では「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている(40 歳代は「名称も内容も知らない」と同率)。「名称も内容も知っている」の割合をみると、最も多いのは 50 歳代、60 歳代で 34.5%、以下、40 歳代で 31.3%、30 歳代で 30.7%と続いている。
- 居住地域別にみると、すべての地域において「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている。「名称も内容も知っている」の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 35.5%、以下、信楽地域で 29.7%、水口地域で 28.8%、甲賀地域で 25.9%、土山地域で 23.9%と続いている。
- 居住年数別にみると、3 年未満は「名称も内容も知らない」が、他の年数では「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている。「名称も内容も知っている」の割合をみると、最も多いのは3 年未満で 31.8%、以下、10年以上で 30.2%、3 年～10 年未満で 22.8%と続いている。

■成年後見制度の認知度（単数回答）



「問 24-1」 問24 で「名前も内容も知っている」と回答された方におたずねします。あなたは、どのような場面に成年後見制度が必要になると思われますか。(〇はいくつでも)

前回の調査と比較すると、全体的に増加しており、中でも「自分で財産の管理ができなくなった」の割合が最も増加している。

■成年後見制度が必要になるとき（複数回答）

	悪質な消費者被害にあった	お金を取られているなど経済的な被害を受けている	自分で財産の管理ができなくなった	医療契約や福祉サービスなどの契約行為	親族等がいない	本人のことで対応してくれる	認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった	その他	不明・無回答
R5調査(N=376)	26.1	29.0	84.0	41.5	64.9	81.6	1.9	0.3	
R2調査(N=381)	17.6	23.9	70.3	29.9	53.0	69.8	1.3	16.5	

●全体で見ると、「自分で財産の管理ができなくなった」が84.0%で最も多くなっており、以下、「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」が81.6%、「本人のことで対応してくれる親族等がいない」が64.9%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「自分で財産の管理ができなくなった」が最も多くなっている(女性は「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」と同率)。

●年代別にみると、20歳代以下、30歳代、60歳代は「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」が、他の年代では「自分で財産の管理ができなくなった」が最も多くなっている(60歳代は「自分で財産の管理ができなくなった」と同率)。

●居住地域別にみると、信楽地域は「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」が、他の地域では「自分で財産の管理ができなくなった」が最も多くなっている(水口地域は「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」と同率)。

●居住年数別にみると、10年以上は「自分で財産の管理ができなくなった」が、他の年数では「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」が最も多くなっている。

■成年後見制度が必要になるとき（複数回答）

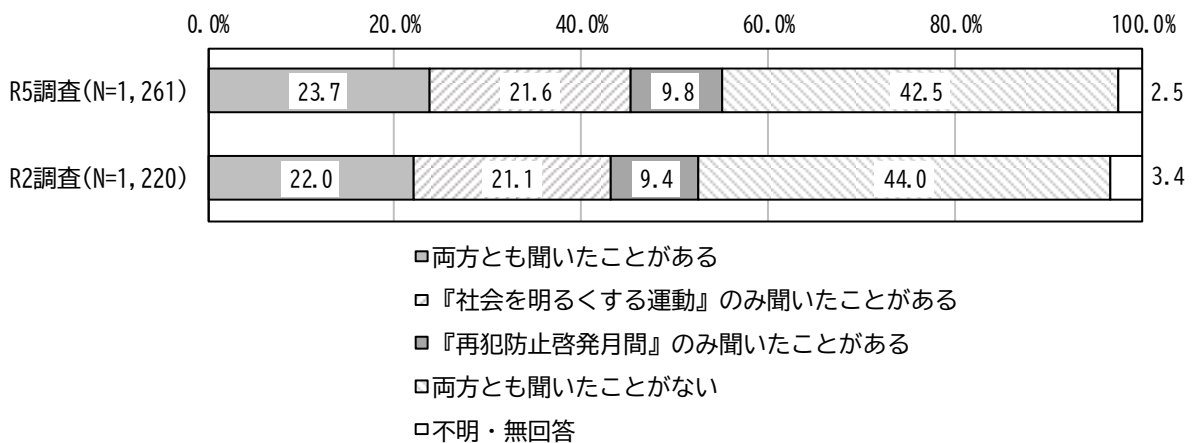
	悪質な消費者被害にあった	お金を取られるなど経済的な被害を受けている	自分で財産の管理ができなくなった	医療契約や福祉サービスの契約行為	親族等がいない	本人のことで対応してくれない	認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった	その他	不明・無回答
全体(N=376)	26.1	29.0	84.0	41.5	64.9	81.6	1.9	0.3	
男(N=138)	35.5	34.1	81.9	37.7	57.2	78.3	4.3	0.0	
女(N=223)	21.5	25.6	84.8	43.5	70.9	84.8	0.4	0.0	
20歳代以下(N=10)	20.0	30.0	60.0	60.0	50.0	70.0	0.0	0.0	
30歳代(N=35)	34.3	31.4	80.0	60.0	68.6	88.6	0.0	0.0	
40歳代(N=50)	34.0	48.0	86.0	48.0	82.0	80.0	2.0	0.0	
50歳代(N=67)	32.8	37.3	85.1	43.3	76.1	79.1	3.0	0.0	
60歳代(N=92)	27.2	27.2	82.6	37.0	62.0	82.6	1.1	0.0	
70歳以上(N=114)	17.5	17.5	86.8	34.2	54.4	83.3	2.6	0.0	
水口地域(N=147)	27.9	27.9	81.6	40.8	66.0	81.6	0.0	0.0	
土山地域(N=28)	28.6	32.1	82.1	46.4	75.0	78.6	0.0	0.0	
甲賀地域(N=38)	23.7	28.9	84.2	36.8	73.7	71.1	5.3	0.0	
甲南地域(N=106)	28.3	32.1	86.8	41.5	58.5	84.9	2.8	0.0	
信楽地域(N=49)	20.4	26.5	85.7	44.9	65.3	87.8	4.1	0.0	
3年未満(N=14)	21.4	35.7	78.6	42.9	64.3	85.7	0.0	0.0	
3年～10年未満(N=21)	38.1	42.9	81.0	71.4	61.9	85.7	0.0	0.0	
10年以上(N=331)	26.0	28.1	84.3	39.3	65.6	81.6	2.1	0.0	

## 6 再犯防止について

◀問 25▶ あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである、『社会を明るくする運動』または『再犯防止啓発月間』を聞いたことがありますか。(○は1つ)

前回の調査と比較すると、「両方とも聞いたことがある」と『社会を明るくする運動』のみ聞いたことがある」と『再犯防止啓発月間』のみ聞いたことがある」を合わせた『聞いたことがある』の割合が増加している。

■ 『社会を明るくする運動』または『再犯防止啓発月間』の認知度（単数回答）



●全体で見ると、「両方とも聞いたことがない」が42.5%で最も多くなっており、以下、「両方とも聞いたことがある」が23.7%、『社会を明るくする運動』のみ聞いたことがある」が21.6%、『再犯防止啓発月間』のみ聞いたことがある」が9.8%と続いている。『聞いたことがある』の割合は55.1%となっている。

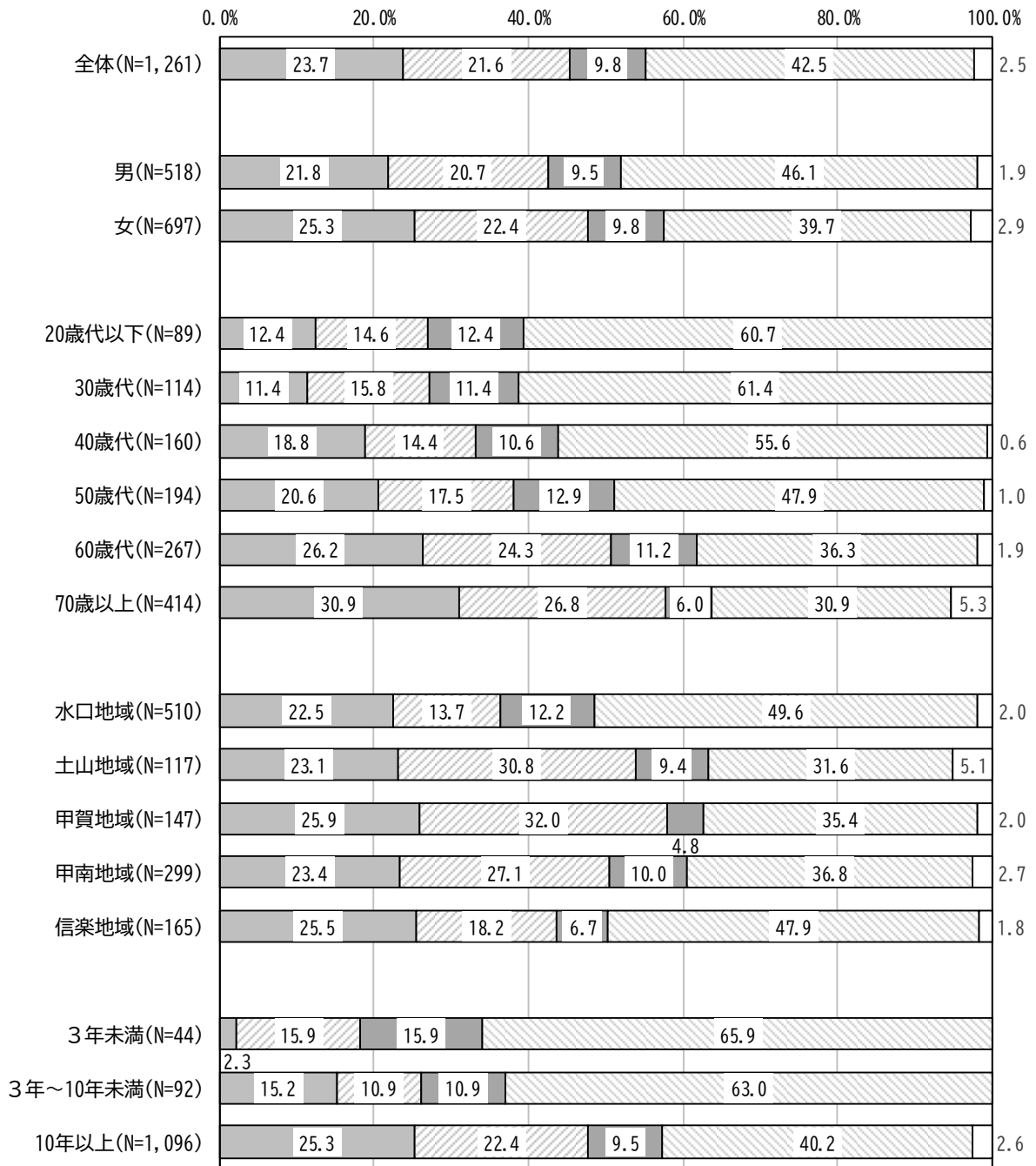
●性別にみると、男性、女性ともに「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。『聞いたことがある』の割合をみると、男性は52.0%、女性は57.5%となっている。

●年代別にみると、すべての年代において「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている(70歳以上は「両方とも聞いたことがある」と同率)。『聞いたことがある』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で63.7%、以下、60歳代で61.7%、50歳代で51.0%と続いている。

●居住地域別にみると、すべての地域において「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。『聞いたことがある』の割合をみると、最も多いのは土山地域で63.3%、以下、甲賀地域で62.7%、甲南地域で60.5%、信楽地域で50.4%、水口地域で48.4%と続いている。

●居住年数別にみると、すべての年数において「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。『聞いたことがある』の割合をみると、最も多いのは10年以上で57.2%、以下、3年～10年未満で37.0%、3年未満で34.1%と続いており、年数が長くなるにつれて多くなっている。

■『社会を明るくする運動』または『再犯防止啓発月間』の認知度（単数回答）



- 両方とも聞いたことがある
- 『社会を明るくする運動』のみ聞いたことがある
- 『再犯防止啓発月間』のみ聞いたことがある
- 両方とも聞いたことがない
- 不明・無回答

## 7 地域の課題について

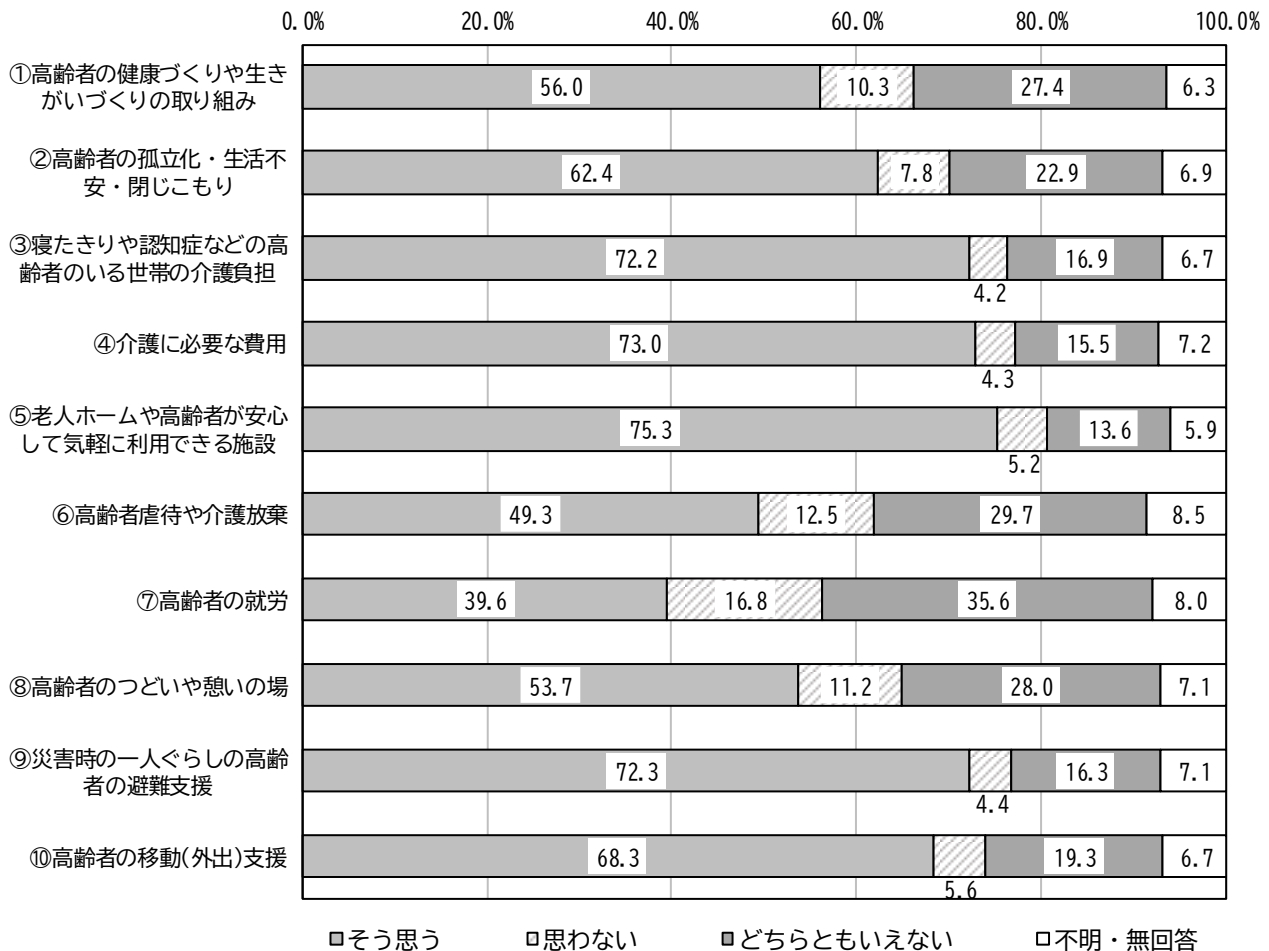
### (1) 住んでいる地域で、日頃から課題に感じていること

◀問 26▶ あなたのお住いの地域で、日頃から課題に感じておられることはどのようなことですか。以下の項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。  
(それぞれ○は1つ)

#### ① 高齢者分野の課題

高齢者分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」で 75.3%、以下、「介護に必要な費用」が 73.0%、「災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援」が 72.3%と続いている。一方で「高齢者の就労」が 39.6%と最も少ない結果となっている。

■高齢者分野の課題（単数回答：N=1,261）



前回の調査の「そう思う」の割合と比較すると、「寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担」はほぼ変化はないが、他の項目は増加している。中でも「老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」の割合が最も増加している。

「そう思う」の場合		【経年比較】			
		R5調査		R2調査	
		N=1,261		N=1,220	
		%	順位	%	順位
①	高齢者の健康づくりや生きがいづくりの取り組み	56.0%	7	54.5%	7
②	高齢者の孤立化・生活不安・閉じこもり	62.4%	6	58.6%	6
③	寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担	72.2%	4	72.3%	1
④	介護に必要な費用	73.0%	2	69.1%	4
⑤	老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	75.3%	1	70.2%	3
⑥	高齢者虐待や介護放棄	49.3%	9	46.7%	9
⑦	高齢者の就労	39.6%	10	36.4%	10
⑧	高齢者のつといや憩いの場	53.7%	8	50.2%	8
⑨	災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援	72.3%	3	70.5%	2
⑩	高齢者の移動(外出)支援	68.3%	5	64.0%	5



●居住地域別の「そう思う」の割合をみると、すべての地域において「老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」が最も多くなっている（信楽地域は「介護に必要な費用」「災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援」と同率）。

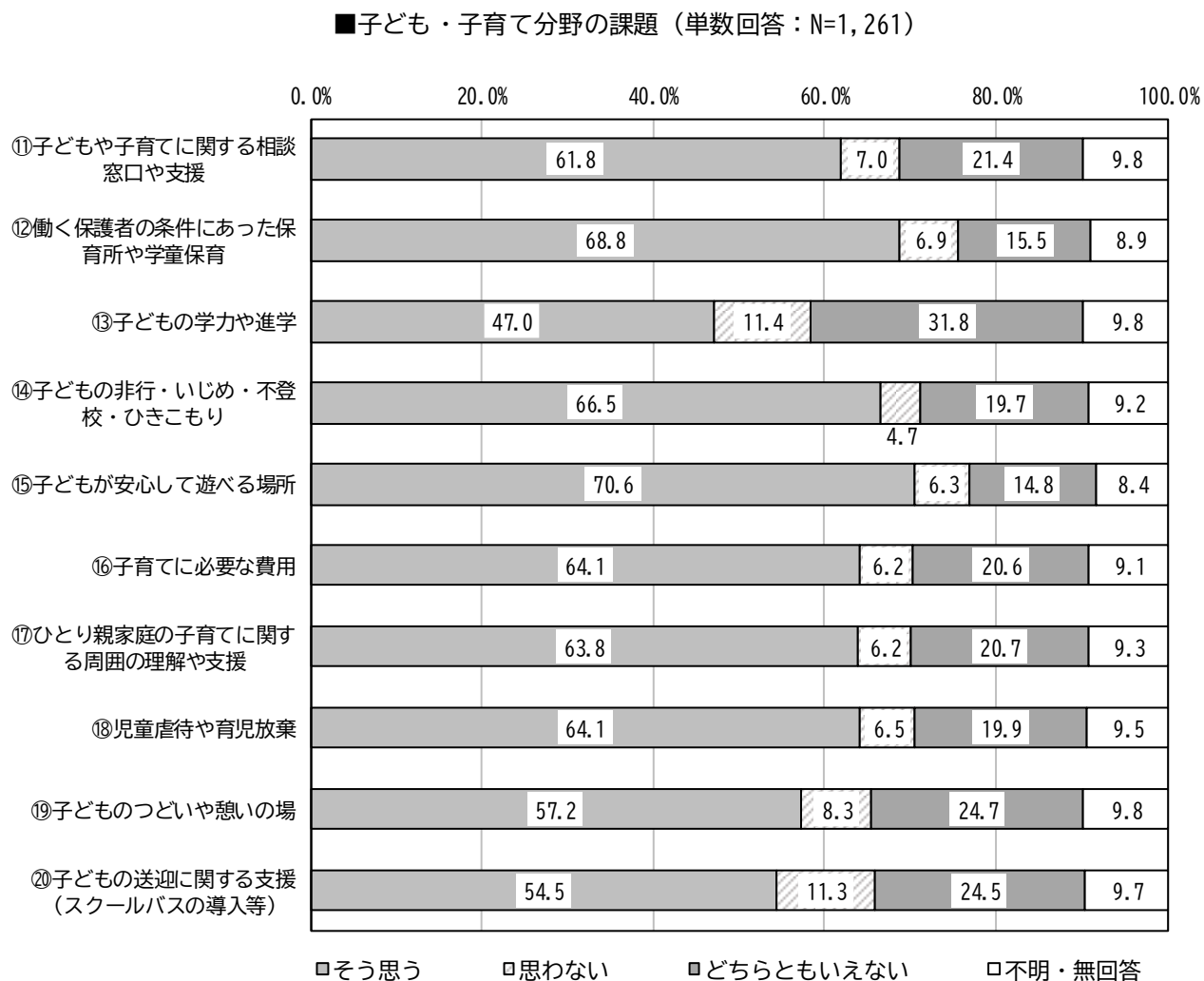
■高齢者分野の課題（単数回答）

【居住地域別】

「そう思う」の場合		水口地域		土山地域		甲賀地域		甲南地域		信楽地域	
		N=510		N=117		N=147		N=299		N=165	
		%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位
①	高齢者の健康づくりや生きがいづくりの取り組み	53.5%	8	65.0%	7	59.9%	7	52.8%	7	58.2%	7
②	高齢者の孤立化・生活不安・閉じこもり	61.8%	6	69.2%	5	63.9%	6	57.2%	6	66.7%	6
③	寝たきりや認知症など的高齢者のいる世帯の介護負担	72.4%	3	75.2%	2	75.5%	3	70.2%	4	72.1%	4
④	介護に必要な費用	73.1%	2	75.2%	2	76.2%	2	71.2%	2	72.7%	1
⑤	老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	74.5%	1	77.8%	1	78.9%	1	76.3%	1	72.7%	1
⑥	高齢者虐待や介護放棄	51.8%	9	53.0%	9	48.3%	9	47.5%	8	44.2%	9
⑦	高齢者の就労	42.2%	10	42.7%	10	35.4%	10	39.1%	10	35.2%	10
⑧	高齢者のつどいや憩いの場	54.1%	7	61.5%	8	55.8%	8	47.2%	9	56.4%	8
⑨	災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援	72.2%	4	75.2%	2	74.1%	4	70.9%	3	72.7%	1
⑩	高齢者の移動(外出)支援	67.5%	5	67.5%	6	72.8%	5	68.9%	5	67.9%	5

## ② 子ども・子育て分野の課題

子ども・子育て分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「子どもが安心して遊べる場所」で70.6%、以下、「働く保護者の条件にあった保育所や学童保育」が68.8%、「子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり」が66.5%と続いている。一方で「子どもの学力や進学」が47.0%と最も少ない結果となっている。



前回の調査の「そう思う」の割合と比較すると、「子どもの学力や進学」が減少し、他の項目は増加している。中でも「子どもの送迎に関する支援(スクールバスの導入等)」が最も増加している。

■子ども・子育て分野の課題（単数回答） 【経年比較】

「そう思う」の場合		R5調査		R2調査	
		N=1,261		N=1,220	
		%	順位	%	順位
⑪	子どもや子育てに関する相談窓口や支援	61.8%	7	55.3%	7
⑫	働く保護者の条件にあった保育所や学童保育	68.8%	2	66.5%	2
⑬	子どもの学力や進学	47.0%	10	48.3%	9
⑭	子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり	66.5%	3	62.9%	3
⑮	子どもが安心して遊べる場所	70.6%	1	66.6%	1
⑯	子育てに必要な費用	64.1%	4	57.0%	6
⑰	ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	63.8%	6	59.3%	4
⑱	児童虐待や育児放棄	64.1%	4	59.0%	5
⑲	子どものつどいや憩いの場	57.2%	8	50.8%	8
⑳	子どもの送迎に関する支援（スクールバスの導入等）	54.5%	9	46.5%	10

●居住地域別の「そう思う」の割合をみると、水口地域は「働く保護者の条件にあった保育所や学童保育」が、甲賀地域は「子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり」が、他の地域では「子どもが安心して遊べる場所」が最も多くなっている。

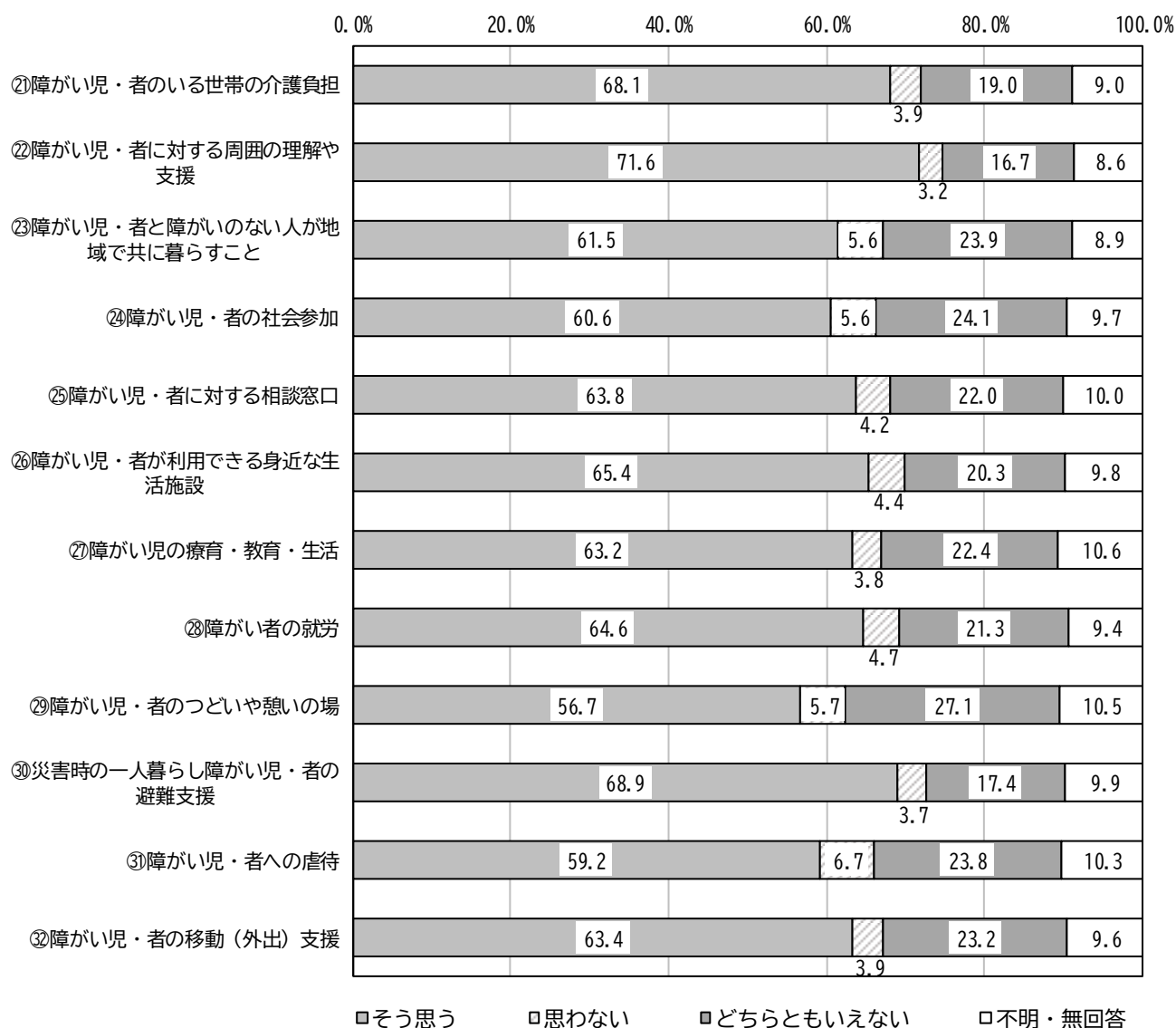
■子ども・子育て分野の課題（単数回答） 【居住地域別】

「そう思う」の場合	水口地域		土山地域		甲賀地域		甲南地域		信楽地域	
	N=510		N=117		N=147		N=299		N=165	
	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位
⑪ 子どもや子育てに関する相談窓口や支援	62.7%	6	68.4%	4	64.6%	7	55.9%	8	63.0%	7
⑫ 働く保護者の条件にあった保育所や学童保育	70.0%	1	70.9%	2	68.7%	2	65.9%	3	69.7%	2
⑬ 子どもの学力や進学	43.9%	10	52.1%	10	44.9%	10	47.5%	10	53.9%	10
⑭ 子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり	65.9%	3	66.7%	7	70.7%	1	66.9%	2	63.6%	6
⑮ 子どもが安心して遊べる場所	68.2%	2	71.8%	1	68.7%	2	70.6%	1	80.6%	1
⑯ 子育てに必要な費用	63.1%	5	68.4%	4	65.3%	5	62.5%	5	67.3%	3
⑰ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	62.4%	7	70.9%	2	66.0%	4	63.2%	4	62.4%	8
⑱ 児童虐待や育児放棄	64.5%	4	68.4%	4	65.3%	5	61.9%	6	64.2%	5
⑲ 子どものつどいや憩いの場	56.3%	8	58.1%	9	57.1%	9	56.2%	7	61.8%	9
⑳ 子どもの送迎に関する支援（スクールバスの導入等）	48.8%	9	65.0%	8	62.6%	8	49.2%	9	67.3%	3

### ③ 障がい児・者分野の課題

障がい児・者分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「障がい児・者に対する周囲の理解や支援」で71.6%、以下、「災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援」が68.9%、「障がい児・者のいる世帯の介護負担」が68.1%と続いている。一方で「障がい児・者のつどいや憩いの場」が56.7%と最も少ない結果となっている。

■障がい児・者分野の課題（単数回答：N=1,261）



前回の調査の「そう思う」の割合と比較すると、全体的に増加しており、中でも「障がい児・者に対する相談窓口」が最も増加している。

■障がい児・者分野の課題		【経年比較】			
		R5調査		R2調査	
		N=1,261		N=1,220	
「そう思う」の場合		%	順位	%	順位
⑳	障がい児・者のいる世帯の介護負担	68.1%	3	66.3%	3
㉑	障がい児・者に対する周囲の理解や支援	71.6%	1	69.3%	1
㉒	障がい児・者と障がいのない人が地域で共に暮らすこと	61.5%	9	57.2%	10
㉓	障がい児・者の社会参加	60.6%	10	58.4%	8
㉔	障がい児・者に対する相談窓口	63.8%	6	57.3%	9
㉕	障がい児・者が利用できる身近な生活施設	65.4%	4	59.9%	5
㉖	障がい児の療育・教育・生活	63.2%	8	59.0%	6
㉗	障がい者の就労	64.6%	5	61.1%	4
㉘	障がい児・者のつどいや憩いの場	56.7%	12	51.4%	12
㉙	災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援	68.9%	2	66.8%	2
㉚	障がい児・者への虐待	59.2%	11	55.2%	11
㉛	障がい児・者の移動（外出）支援	63.4%	7	58.8%	7

●居住地域別の「そう思う」の割合をみると、土山地域は「災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援」が、他の地域では「障がい児・者に対する周囲の理解や支援」が最も多くなっている。

■障がい児・者分野の課題

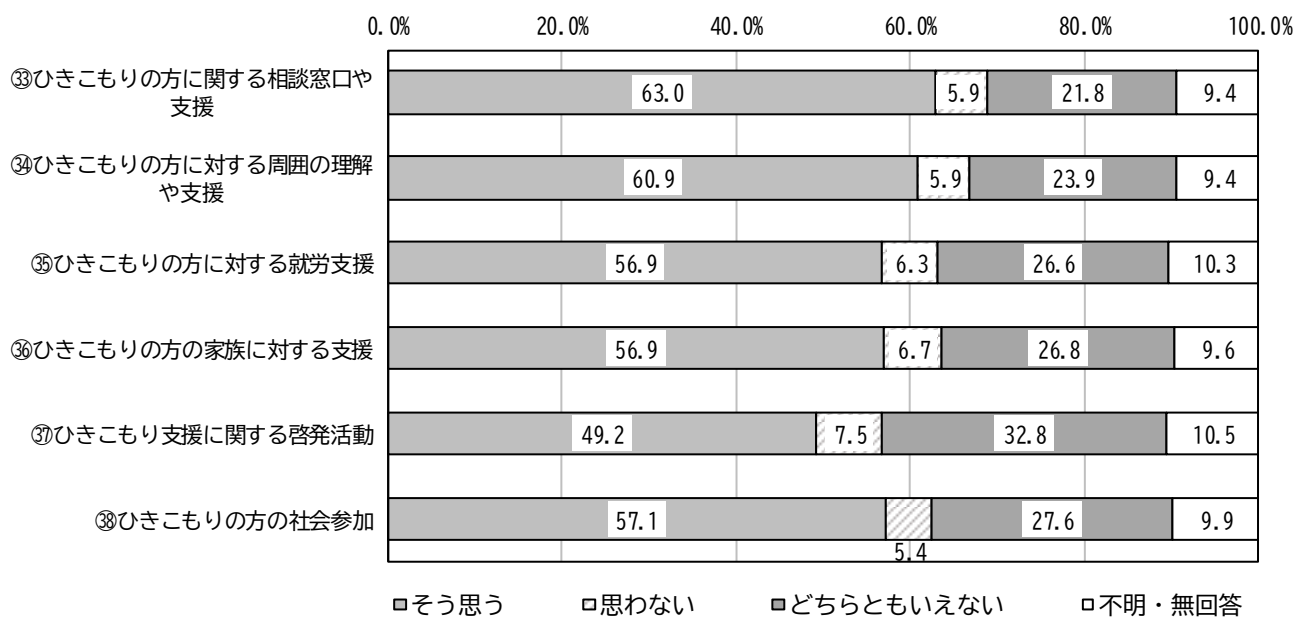
【居住地域別】

「そう思う」の場合	水口地域		土山地域		甲賀地域		甲南地域		信楽地域	
	N=510		N=117		N=147		N=299		N=165	
	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位
⑳ 障がい児・者のいる世帯の介護負担	65.7%	3	72.6%	4	75.5%	2	65.9%	2	70.3%	2
㉑ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	70.0%	1	76.1%	2	76.9%	1	69.6%	1	72.7%	1
㉒ 障がい児・者と障がいのない人が地域で共に暮らすこと	60.8%	10	66.7%	8	68.0%	8	59.2%	9	59.4%	9
㉓ 障がい児・者の社会参加	61.4%	9	59.0%	12	66.0%	9	60.5%	7	55.2%	12
㉔ 障がい児・者に対する相談窓口	61.6%	8	71.8%	6	69.4%	6	62.2%	6	63.0%	6
㉕ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	64.1%	5	74.4%	3	70.1%	4	62.5%	5	64.8%	5
㉖ 障がい児の療育・教育・生活	62.7%	6	69.2%	7	70.1%	4	59.9%	8	60.6%	7
㉗ 障がい者の就労	65.5%	4	66.7%	8	68.7%	7	63.5%	4	60.0%	8
㉘ 障がい児・者のつどいや憩いの場	56.3%	12	63.2%	10	60.5%	11	53.2%	12	55.8%	11
㉙ 災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援	68.2%	2	77.8%	1	74.1%	3	64.9%	3	68.5%	3
㉚ 障がい児・者への虐待	60.8%	10	61.5%	11	58.5%	12	56.2%	11	59.4%	9
㉛ 障がい児・者の移動（外出）支援	62.2%	7	72.6%	4	66.0%	9	58.9%	10	66.1%	4

#### ④ ひきこもり分野の課題

ひきこもり分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「ひきこもりの方に関する相談窓口や支援」で63.0%、以下、「ひきこもりの方に対する周囲の理解や支援」が60.9%、「ひきこもりの方の社会参加」が57.1%と続いている。一方で「ひきこもり支援に関する啓発活動」が49.2%と最も少ない結果となっている。

■ひきこもり分野の課題（単数回答：N=1,261）





前回の調査の「そう思う」の割合と比較すると、全体的に増加しており、中でも「ひきこもりの方の社会参加」が最も増加している。

「そう思う」の場合		【経年比較】			
		R5調査		R2調査	
		N=1,261		N=1,220	
		%	順位	%	順位
③	ひきこもりの方に関する相談窓口や支援	63.0%	1	60.9%	1
④	ひきこもりの方に対する周囲の理解や支援	60.9%	2	58.7%	2
⑤	ひきこもりの方に対する就労支援	56.9%	4	55.7%	3
⑥	ひきこもりの方の家族に対する支援	56.9%	4	55.1%	4
⑦	ひきこもり支援に関する啓発活動	49.2%	6	46.6%	6
⑧	ひきこもりの方の社会参加	57.1%	3	52.9%	5

●居住地域別の「そう思う」の割合をみると、甲南地域は「ひきこもりの方の社会参加」が、他の地域では「ひきこもりの方に関する相談窓口や支援」が最も多くなっている。

「そう思う」の場合		【居住地域別】									
		水口地域		土山地域		甲賀地域		甲南地域		信楽地域	
		N=510		N=117		N=147		N=299		N=165	
		%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位
③	ひきこもりの方に関する相談窓口や支援	61.2%	1	71.8%	1	72.8%	1	55.5%	2	66.7%	1
④	ひきこもりの方に対する周囲の理解や支援	57.1%	2	70.9%	2	72.1%	2	54.8%	4	66.1%	2
⑤	ひきこもりの方に対する就労支援	55.1%	3	62.4%	4	61.2%	4	55.2%	3	57.6%	4
⑥	ひきこもりの方の家族に対する支援	55.1%	3	61.5%	5	64.6%	3	54.2%	5	58.8%	3
⑦	ひきこもり支援に関する啓発活動	48.0%	6	55.6%	6	56.5%	6	44.5%	6	50.9%	6
⑧	ひきこもりの方の社会参加	54.7%	5	66.7%	3	61.2%	4	56.5%	1	55.2%	5

(2) 甲賀市が重点を置くべき福祉施策

「問 27」 あなたは、今後、甲賀市が重点を置くべき福祉政策はどのようなことだと思いますか。  
(〇はいくつでも)

前回の調査と比較すると、全体的に増加しており、中でも「公共交通を利用した移動支援の充実」の割合が最も増加している。

■甲賀市が重点を置くべき福祉政策について（複数回答）

	すべての人の人権が守られるまちづくりの推進	高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備	高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実	子どもや子育て支援のための福祉施設の充実	ひきこもりの方に対する相談支援や就労支援の充実	公共交通を利用した移動支援の充実	ICTを活用した福祉施策の充実（高齢者や子どもが見守りつながり等）	サービス利用手続きの簡素化・スピード化	ボランティア団体・NPO等の市民による福祉活動の推進・支援	在宅福祉サービスの充実	相談活動の充実	携行強化 行政と他の機関、団体との連携	福祉の専門的な人材の確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当てなど金銭的な援助	福祉情報の提供促進	その他	不明・無回答
R5調査(N=1,261)	50.1	47.7	45.6	46.5	27.9	54.6	20.6	43.1	18.0	39.9	21.6	23.2	29.3	12.3	44.8	20.1	2.7	4.8
R2調査(N=1,220)	47.5	38.9	35.9	35.8	23.0	40.3	17.7	34.8	14.8	32.2	20.0	22.5	27.7	10.4	38.6	16.2	3.0	4.9

●全体で見ると、「公共交通を利用した移動支援の充実」が 54.6%で最も多くなっており、以下、「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が 50.1%、「高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備」が 47.7%と続いている。

●性別にみると、男性、女性ともに「公共交通を利用した移動支援の充実」が最も多くなっており、次いで、男性は「高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備」が、女性は「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が多くなっている。

●年代別にみると、20 歳代以下、30 歳代は「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」が、70 歳以上は「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が、他の年代では「公共交通を利用した移動支援の充実」が最も多くなっている。

●居住地域別にみると、甲賀地域は「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が、他の地域では「公共交通を利用した移動支援の充実」が最も多くなっている。

●居住年数別にみると、10年以上は「公共交通を利用した移動支援の充実」が、他の年数では「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」が最も多くなっている。

■甲賀市が重点を置くべき福祉政策について（複数回答）

	すべての人の人権が守られる	高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備	高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実	子どもや子育て支援のための福祉施設の充実	ひきこもりの方に対する相談支援や就労支援の充実	公共交通を利用した移動支援の充実	ICTを活用した福祉施策の充実（高齢者や子どもの見守り・つながり等）	サービス利用手続きの簡素化・スピード化	ボランティア団体・NPO等の市民による福祉活動の推進・支援	在宅福祉サービスの充実	相談活動の充実	行政と他の機関、団体との連携の強化	福祉の専門的な人材の確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当てなど金銭的な援助	福祉情報の提供促進	その他	不明・無回答
全体(N=1,261)	50.1	47.7	45.6	46.5	27.9	54.6	20.6	43.1	18.0	39.9	21.6	23.2	29.3	12.3	44.8	20.1	2.7	4.8
男(N=518)	46.7	51.4	45.8	49.6	28.6	55.8	22.0	42.1	18.9	39.8	22.0	26.6	29.3	12.5	45.0	18.3	3.5	3.7
女(N=697)	52.1	45.1	45.5	44.2	27.5	53.8	19.2	43.8	16.9	40.0	20.7	20.5	28.8	12.2	44.0	20.9	2.0	5.3
20歳以下(N=89)	42.7	39.3	27.0	61.8	14.6	37.1	11.2	25.8	10.1	15.7	13.5	12.4	15.7	9.0	42.7	9.0	4.5	0.0
30歳代(N=114)	34.2	33.3	26.3	61.4	14.0	43.9	23.7	44.7	10.5	17.5	8.8	14.9	14.0	7.9	57.9	13.2	2.6	2.6
40歳代(N=160)	43.8	44.4	37.5	50.0	26.3	58.1	32.5	46.9	19.4	41.3	21.9	18.8	31.3	15.6	56.9	18.8	3.1	1.3
50歳代(N=194)	43.3	50.0	43.3	37.6	25.3	59.8	22.2	46.9	16.0	34.0	20.6	23.2	30.4	11.9	42.8	22.2	1.5	4.1
60歳代(N=267)	53.9	48.7	50.2	53.2	29.6	56.6	15.4	47.2	15.4	43.1	22.1	25.8	27.3	7.5	43.1	17.6	3.7	5.6
70歳以上(N=414)	59.2	53.9	56.8	38.6	35.3	57.2	19.8	41.3	23.2	51.9	26.6	27.8	36.2	16.2	39.6	25.6	2.2	6.8
水口地域(N=510)	46.3	47.6	42.9	46.3	23.3	54.1	20.4	43.3	15.5	36.3	20.2	21.4	27.8	11.8	46.7	19.0	2.0	4.3
土山地域(N=117)	49.6	46.2	50.4	54.7	33.3	59.8	16.2	35.9	17.9	47.0	27.4	29.9	34.2	11.1	42.7	23.1	4.3	6.0
甲賀地域(N=147)	52.4	51.7	46.9	47.6	32.0	51.7	20.4	44.9	21.1	42.2	18.4	23.1	29.9	15.0	42.2	17.0	3.4	5.4
甲南地域(N=299)	53.2	45.2	43.8	42.8	26.4	55.9	20.1	42.1	16.7	37.5	19.4	22.4	25.4	11.4	41.8	19.4	3.0	4.3
信楽地域(N=165)	54.5	52.1	53.9	49.7	37.0	55.2	25.5	49.7	23.6	49.7	27.9	25.5	36.4	13.9	49.7	25.5	3.0	3.6
3年未満(N=44)	43.2	47.7	27.3	52.3	13.6	31.8	22.7	43.2	18.2	25.0	15.9	15.9	20.5	15.9	38.6	20.5	4.5	4.5
3年～10年未満(N=92)	40.2	52.2	34.8	56.5	22.8	52.2	21.7	33.7	16.3	27.2	17.4	14.1	23.9	7.6	50.0	15.2	3.3	1.1
10年以上(N=1,096)	51.3	47.8	47.5	45.9	29.0	56.2	20.5	44.4	18.0	41.9	22.2	24.4	30.1	12.5	45.0	20.5	2.6	4.7

甲賀市市政に関する意識調査

アンケートID

= ご協力のお願い =

※上記のIDは無作為に割当てたものであり、個人を特定するものではありません。

日ごろから甲賀市市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
 市では、まちづくりの主役である市民の皆様のおもねがをしっかりと受け止め、市政に活かしていくため、「市政に関する意識調査」を実施します。  
 いただいたご意見等は、高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できる地域をつくるための大切な基礎資料とさせていただきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和5年(2023年)10月

甲賀市長 岩永裕貴

ご回答にあたってのお願い

■ 令和5年10月20日(金)までに、ご回答をお願いします。

- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。  
 ※返信用封筒へのお名前のご記入は不要です。
- ご回答は本調査票またはインターネット回答(同封のインターネット回答操作案内参照)のどちらか一方のみにてお願いします。
- 今回の調査は、無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を対象に実施しています。
- この調査は、個人を対象としていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身がご回答ください。(ご本人による回答が困難な場合は、ご家族等の方がご本人から聞き取って代筆ください。)
- この調査の回答は、無記名でお願いしています。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることはありません。安心してご回答ください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印をつけてください。
- 回答したくない設問については、お答えいただかなくて結構です。

- 甲賀市をより良いまちにするために調査にご協力ください。わからない事があれば下記へご連絡ください。
- Please cooperate with our survey to make Koka City a better town. Please call this number as follows, if you have any questions.
- 고카시를 보다 좋은 도시로 만들기 위한 조사에 협력해 주십시오. 모르는 것이 있으시면 다음으로 연락해 주십시오.
- 为了把甲贺市变成更好的城市,请协助调查。如果有不明白的地方,请联系以下地址。
- Pedimos sua colaboração em relação a esta pesquisa, para fazer da Cidade de Koka uma cidade melhor. Em caso de dúvidas, favor entrar em contato pelo telefone descrito abaixo.
- Por favor coopere con la encuesta para hacer de la Ciudad de Koka una ciudad mejor. Si tuvieran alguna duda, pueden llamar al número de teléfono que figura en la parte de abajo.

【本調査に関する問合せ先】

甲賀市総合政策部 秘書広報課 TEL 0748-69-2101(直通) FAX 0748-63-4619



《問5》 あなたの世帯(同居)はどのような構成ですか。(○は1つ)

- |                |          |              |
|----------------|----------|--------------|
| 1 単身           | 2 夫婦のみ   | 3 二世帯世帯(親・子) |
| 4 三世帯世帯(親・子・孫) | 5 その他( ) |              |

↳ <問5-1> 問5で「3・4・5」のいずれかに回答された方におたずねします。  
あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。  
(○はいくつでも) ※別居されているお子様・お孫様は含みません。

- |                       |                            |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 2歳以下                | 2 3歳～小学校入学前                |
| 3 小学生                 | 4 中学生                      |
| 5 高校生                 | 6 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生) |
| 7 就学前または就学している子どもはいない |                            |

《問6》 あなたの職業等は何ですか。(○は1つ)

- |             |          |           |
|-------------|----------|-----------|
| 1 会社員       | 2 公務員    | 3 自営業     |
| 4 パート・アルバイト | 5 学生     | 6 専業主婦・主夫 |
| 7 無職        | 8 その他( ) |           |

↳ <問6-1> 問6で「1～5」のいずれかに回答された方におたずねします。  
あなたの勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つ)

- |              |        |
|--------------|--------|
| 1 自宅         | 2 甲賀市内 |
| 3 甲賀市以外の滋賀県内 | 4 県外   |

---

## 2. 市民共生についておたずねします

---

〈問7〉 あなたは、甲賀市が「人権が尊重されるまちになっている」と感じますか。(〇は1つ)

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1 そう思う      | 2 どちらかといえばそう思う   |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえばそう思わない |
| 5 思わない      |                  |

〈問8〉 あなたは、ここ3年以内で人権に関する学習会に参加したことがありますか。Web配信等の視聴も参加に含みます。(〇は1つ)

- |      |      |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

〈問9〉 人権の尊重されるまちの実現に向けて、あなたはどのように考えますか。(〇は1つ)

- |                                |
|--------------------------------|
| 1 実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい       |
| 2 特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい |
| 3 自分ではどうにもならないので、なりゆきにまかせる     |
| 4 できるだけ避けて通りたい                 |
| 5 差別はないので、人権問題は存在しない           |
| 6 特に考えていない                     |

3. 男女共同参画・ワーク・ライフ・バランス・女性活躍についておたずねします

「問10」 あなたは、次にあげる「言葉」や「内容」をご存じですか。(それぞれ〇は1つ)

	1 内容をよく 知っている	2 内容を多少は 知っている	3 言葉を聞いた ことはある	4 まったく 知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3	4
② ジェンダー	1	2	3	4
③ セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4
④ マタニティ・ハラスメント	1	2	3	4
⑤ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
⑥ ダイバーシティ	1	2	3	4
⑦ 女性活躍推進法	1	2	3	4
⑧ ジェンダー平等	1	2	3	4
⑨ アンコンシャスバイアス	1	2	3	4

「問10-1」 各項目で「1」または「2」と回答された方におたずねします。

あなたは、それぞれの内容についてどのような方法でご存じになりましたか。

(〇はいくつでも)

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1 啓発チラシ・リーフレット  | 2 市の広報紙やホームページ          |
| 3 市主催のセミナーや研修会  | 4 人権尊重のまちづくり懇談会(地区別懇談会) |
| 5 学校の授業         | 6 職場内の研修                |
| 7 インターネットなどのSNS | 8 テレビやラジオ               |
| 9 その他( )        |                         |



《問11》「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| 1 同感する      | 2 どちらかといえば同感する  |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば同感しない |
| 5 同感しない     | 6 わからない         |

《問12》「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- |             |                                      |
|-------------|--------------------------------------|
| 1 同感する      | 2 どちらかといえば同感する                       |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば同感しない                      |
| 5 同感しない     | 6 わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない |

《問13》生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。また、現実にはどうですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

	希望	現実
1 「仕事」を優先	(番号を1つ記入)	(番号を1つ記入)
2 「家庭生活」を優先	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3 「地域・個人の生活」を優先	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4 「仕事」と「家庭生活」を共に優先		
5 「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先		
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先		
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先		
8 わからない		

《問14》あなたは、女性が就労(起業含む)することについてどのように思われますか。(〇は1つ)

- 1 結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい
- 2 結婚するまで就労し、結婚後は就労しないほうがよい
- 3 出産するまで就労し、出産後は就労しないほうがよい
- 4 子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで就労し続けるほうがよい
- 5 子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい
- 6 就労しないほうがよい
- 7 わからない

《問15》あなたは、女性が就労し続けたり、再就職をするうえで必要なことはどのようなことだと思われますか。(〇はいくつでも)

- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 仕事と家庭の両立への <u>家族</u> の協力や理解 | 2 仕事と家庭の両立への <u>職場</u> の協力や理解 |
| 3 育児休業や介護休業などの制度の充実           | 4 在宅勤務やフレックスタイム制の導入           |
| 5 男女の賃金差の解消                   | 6 昇進、昇格などの不平等の解消              |
| 7 長時間労働等の解消(職場の働き方改革)         | 8 保育施設等の充実                    |
| 9 女性自身の意識改革                   | 10 男性自身の意識改革                  |
| 11 特になし                       | 12 わからない                      |
| 13 その他( )                     |                               |

#### 4. ドメスティック・バイオレンス(DV)についておたずねします

《問16》あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「デートDV」をご存じですか。(それぞれ〇は1つ)

		1 名前も内容もよく知っている	2 内容を多少は知っている	3 名前は聞いたことがある	4 名前も内容も知らない
①	DV	1	2	3	4
②	デートDV	1	2	3	4

《問17》 あなたは、DV やデートDV を見聞きしたり、被害にあった人から相談を受けたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

		1 ある	2 ない	3 わからない
①	DV被害を受けたこと	1	2	3
②	身近にDV被害を見聞きしたこと	1	2	3
③	被害にあった人からの相談	1	2	3

《問18》 あなたは、身体的・心理的暴力と思える行為をしたことがありますか。(○は1つ)

1 行為をしたことがある	2 行為をしたことはない
--------------	--------------

《問19》 あなたは、DVについて相談できる窓口をご存じですか。(○はいくつでも)

1 配偶者暴力相談支援センター (子ども家庭相談センター・男女共同参画センター)	2 警察
3 法務局・人権擁護委員・人権なんでも相談	4 市の機関(家庭児童相談室)
5 市の機関(男女の悩みごと相談窓口)	6 民生委員・児童委員
7 法務局女性の人権ホットライン	8 こころんダイヤル
9 県立精神保健福祉センター	10 こころの電話相談
11 おうみ犯罪被害者支援センター	12 知らない
13 その他( )	

5. 近所づきあいやボランティアについておたずねします

◀問20▶ あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか。  
(○は1つ)

- |                        |                         |
|------------------------|-------------------------|
| 1 困りごとの相談や、助け合うようなつきあい | 2 簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい |
| 3 立ち話をする程度のつきあい        | 4 挨拶をする程度のつきあい          |
| 5 ほとんどつきあいはない          |                         |

◀問21▶ あなたが日頃、生活の困りごとについて相談する相手はどなたですか。(○はいくつでも)

- |             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 1 家族・親戚     | 2 知人・友人・職場の同僚         |
| 3 近所の人      | 4 区・自治会等の地域の役員        |
| 5 民生委員・児童委員 | 6 医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職 |
| 7 行政の職員     | 8 社会福祉協議会の職員          |
| 9 相談する人がいない | 10 その他( )             |

◀問22▶ あなたは現在、ボランティア活動に参加されていますか。(○は1つ)

※ ここでいうボランティア活動とは、自治会や女性の会、子どもの会の活動など地域にある組織で行う活動ではなく、個人の自発性・自主性に基づいて行われる活動をいいます。

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 参加している | 2 参加していない |
|----------|-----------|

▶ ◀問22-1▶ 問22で「1」と回答された方におたずねします。  
それはどのような活動ですか。活動の内容をお書きください。(自由記述)

◀問23▶ 今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような基盤整備や活動が必要だ  
と思いますか。(○はいくつでも)

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| 1 相談窓口の充実     | 2 専門性のある職員やアドバイザーの配置 |
| 3 活動拠点の確保     | 4 啓発のための広報の充実        |
| 5 学校での福祉教育の充実 | 6 職場のボランティア休暇の充実     |
| 7 その他( )      |                      |



## 8. 地域の課題についておたずねします

〈問26〉あなたのお住いの地域で、日頃から課題に感じておられることはどのようなことですか。

以下の項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

(それぞれ○は1つ)

項目	1 そう 思う	2 思 わない	3 い え な い と も
<b>1. 高齢者分野の課題</b>			
① 高齢者の健康づくりや生きがいづくりの取り組み	1	2	3
② 高齢者の孤立化・生活不安・閉じこもり	1	2	3
③ 寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担	1	2	3
④ 介護に必要な費用	1	2	3
⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	1	2	3
⑥ 高齢者虐待や介護放棄	1	2	3
⑦ 高齢者の就労	1	2	3
⑧ 高齢者のつどいや憩いの場	1	2	3
⑨ 災害時の一人ぐらしの高齢者の避難支援	1	2	3
⑩ 高齢者の移動(外出)支援	1	2	3
<b>2. 子ども・子育て分野の課題</b>			
⑪ 子どもや子育てに関する相談窓口や支援	1	2	3
⑫ 働く保護者の条件にあった保育所や学童保育	1	2	3
⑬ 子どもの学力や進学	1	2	3
⑭ 子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり	1	2	3
⑮ 子どもが安心して遊べる場所	1	2	3
⑯ 子育てに必要な費用	1	2	3
⑰ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	1	2	3
⑱ 児童虐待や育児放棄	1	2	3
⑲ 子どもをつどいや憩いの場	1	2	3
⑳ 子どもの送迎に関する支援(スクールバスの導入等)	1	2	3

《問26 のつづき》		1 そ じ 思 じ	2 思 わ な い	3 い え な い ま ま
3. 障がい児・者分野の課題				
㉑	障がい児・者のいる世帯の介護負担	1	2	3
㉒	障がい児・者に対する周囲の理解や支援	1	2	3
㉓	障がい児・者と障がいのない人が地域で共に暮らすこと	1	2	3
㉔	障がい児・者の社会参加	1	2	3
㉕	障がい児・者に対する相談窓口	1	2	3
㉖	障がい児・者が利用できる身近な生活施設	1	2	3
㉗	障がい児の療育・教育・生活	1	2	3
㉘	障がい者の就労	1	2	3
㉙	障がい児・者のつどいや憩いの場	1	2	3
㉚	災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援	1	2	3
㉛	障がい児・者への虐待	1	2	3
㉜	障がい児・者の移動(外出)支援	1	2	3
4. ひきこもり分野の課題				
㉝	ひきこもりの方に関する相談窓口や支援	1	2	3
㉞	ひきこもりの方に対する周囲の理解や支援	1	2	3
㉟	ひきこもりの方に対する就労支援	1	2	3
㊱	ひきこもりの方の家族に対する支援	1	2	3
㊲	ひきこもり支援に関する啓発活動	1	2	3
㊳	ひきこもりの方の社会参加	1	2	3

《問27》あなたは、今後、甲賀市が重点を置くべき福祉政策はどのようなことだと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- 1 すべての人の人権が守られるまちづくりの推進
- 2 高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備
- 3 高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実
- 4 子どもや子育て支援のための福祉施設の充実
- 5 ひきこもりの方に対する相談支援や就労支援の充実
- 6 公共交通を利用した移動支援の充実
- 7 ICT※1を活用した福祉施策の充実(高齢者や子どもの見守り・つながり等)
- 8 サービス利用手続きの簡素化・スピード化
- 9 ボランティア団体・NPO※2等の市民による福祉活動の推進・支援
- 10 在宅福祉サービスの充実
- 11 相談活動の充実
- 12 行政と他の機関、団体との連携の強化
- 13 福祉の専門的な人材の確保と育成
- 14 福祉講座や福祉教育の充実
- 15 各種手当など金銭的な援助
- 16 福祉情報の提供促進
- 17 その他( )

※1「ICT」:「Information and Communication Technology」の略で、情報通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。

※2「NPO」:「Non-Profit Organization」の略で、民間非営利活動組織(団体)。市民が自主的に組織・運営する営利を目的としない市民活動組織。

質問は以上です、ご協力ありがとうございました。

回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

令和5年10月20日(金)までに、ポストにご投函ください。



甲賀市市政に関する意識調査報告書

【人権・福祉領域】

発行日：令和6（2024）年3月

編集・発行：甲賀市総合政策部秘書広報課

〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町水口 6053 番地

Tel:0748-69-2101/Fax:0748-63-4619